

C S R

パートナーカタログ

50

ふくおかNPO50 CSRパートナーカタログ

平成24年度福岡県共助社会づくり事業



企業のCSR担当者必携！

CSRや社会貢献活動において連携・協働の
パートナーとなるNPO50団体のデータを収録！！



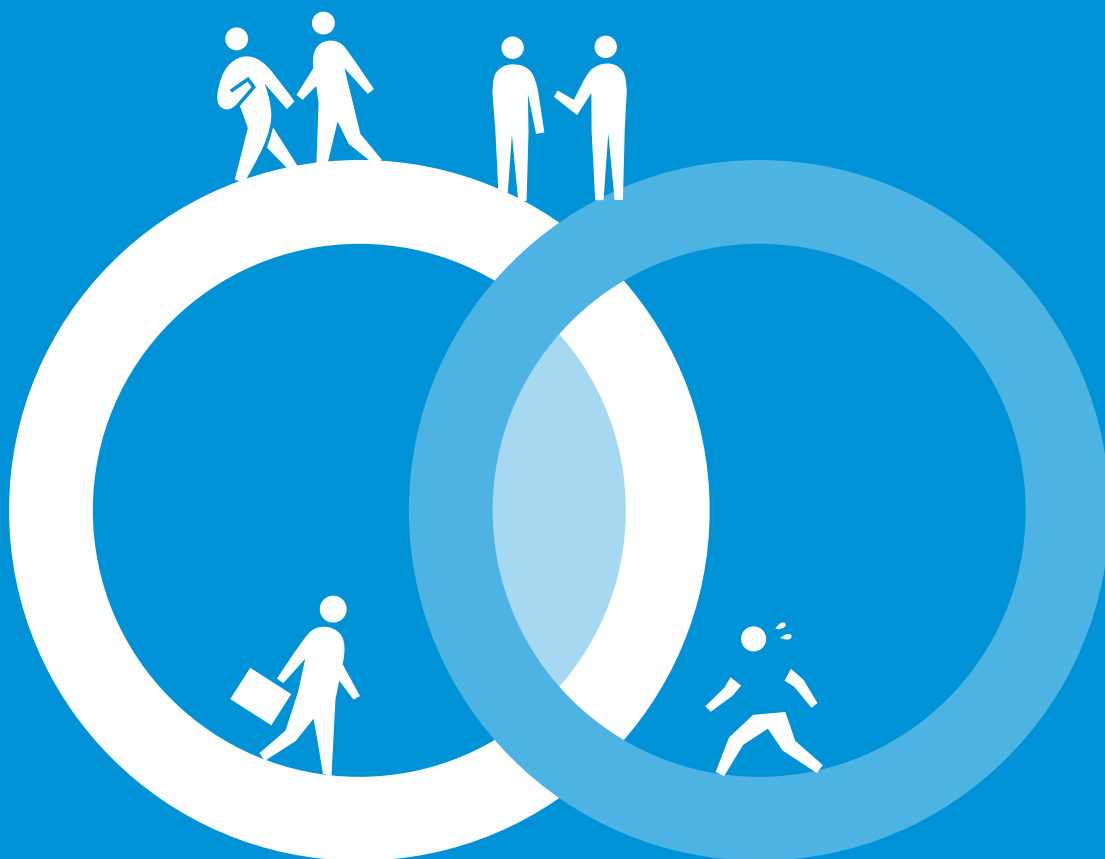
非営利団体とのコミュニケーションのために…

- ▶ 見るべきNPOの7つのポイント
- ▶ “知っておくと良い”用語集



ビジネス界／NPO界それぞれの有識者座談会レポート

- ▶ ビジネスの視点から見る、NPOとの協働の可能性
- ▶ 協働のカギは、対話とコミュニケーション





はじめに

今日、急速に進む少子高齢化や人々の価値観の多様化に伴い、NPO・ボランティアの活動は、福祉や子育て、環境問題など、さまざまな分野に広がっています。NPO・ボランティアは、社会の課題にいち早く気づき、他の共感を得ながら、「私」の利益を超えた公的な活動を行っており、新しい公的サービスの担い手として、大いに期待されています。

一方、企業においても、持続的発展のためには地域社会の一員としてさまざまな社会的課題の解決に取り組むべきであるという考えのもと、いわゆる「CSR(企業の社会的責任)」の取組が広がりつつあります。中にはNPO・ボランティアと協働(※)することにより、お互いの強みを活かして相乗効果を高め、社会に有用な新たな価値を生み出している事例も見られるところです。

こうした中、福岡県では、県民一人ひとりが福岡県に生まれてよかった、生活してよかったと実感できる「県民幸福度日本一の福岡県」を目指し、NPO・ボランティアや企業、そして行政などが知恵や力を出し合い、ともに支え合う「新しい共助社会」づくりを進めています。

その一環として、NPO・ボランティアと企業との協働を進める取組を行っており、このたび企業との協働に積極的な県内のNPO・ボランティア情報を集めた冊子「ふくおかNPO50 ～CSRパートナーカタログ～」を発行しました。

本冊子は、NPO・ボランティアとの協働に意欲や関心をお持ちの企業に、そのパートナーとなるNPO・ボランティアを紹介するものであり、団体の活動拠点や財務状況などの基本情報から、ミッション、事業内容、協働の実績や今後の展開まで、協働のパートナーを探す際に役立つ多彩な情報を掲載しています。

また本冊子と併せて、全国から多種多様な協働事例を集めた冊子「新しい協働のケース100～これからの社会活性化のヒント～」を発行しました。こちらは、“NPOとの協働のイメージが湧かない”という思いをお持ちの企業に、さまざまな協働のカタチを紹介するものであり、協働が始まったきっかけのほか、事業を実施する上でのそれぞれの役割、協働のメリット、活動継続の秘訣など、協働に向けたヒントとなる情報を掲載しています。

これらの冊子が、福岡県におけるNPO・ボランティアと企業の協働の促進、ひいては社会の課題解決の一助となれば幸いです。是非、ご活用くださいますようお願いいたします。

平成25年 3 月

福岡県NPO・ボランティアセンター
(福岡県新社会推進部社会活動推進課)

(※)「協働」とは

NPO・ボランティア団体、企業、行政のそれぞれの 主体性・自発性のもとに、互いの特性を認識・尊重し合いながら、対等な立場で、共通の目的を達成するため協力・協調すること。

目次

- P 3……はじめに
- P 5……本冊子の目的と役割
- P 6……本冊子の読み方
- P 8……見るべきNPOの7つのポイント
- P10……用語集
- P12……特集 ～ふくおかCSR座談会 ビジネス界～
- P16……特集 ～ふくおかCSR座談会 NPO界～

■ 社会福祉

- P22……ウィッグリング・ジャパン
- P24……エスタスカース
- P26……北九州ホームレス支援機構
- P28……なおみの会
- P30……はあとスペース
- P32……まる
- P34……大牟田市障害者協議会
- P35……緩和ケア支援センターコミュニティ
- P36……クックルー・ステップ
- P37……こもんはうす
- P38……サイエンス・アクセシビリティ・ネット
- P39……福岡すまいの会
- P40……宗像コスモス会

■ まちづくり

- P42……筑後川流域連携倶楽部
- P44……FUKUOKAデザインリーグ
- P46……大牟田・荒尾炭坑のまちファンクラブ
- P47……グラウンドワーク福岡
- P48……福岡テンジン・ユニバーシティ・ネットワーク

■ 文化・芸術・スポーツ

- P50……九州プロレス
- P52……田主丸カル・スポクラブ
- P54……ASUE
- P55……北九州リバーサイドミュージックBOX
- P56……九州車いすテニス協会
- P57……九州ビーチバレーリーグ
- P58……劇団道化

■ 環境

- P60……再生可能エネルギー推進市民フォーラム西日本
- P62……山村塾 **（任）**
- P64……循環生活研究所
- P66……エコけん
- P67……グリーンシティ福岡
- P68……里山を考える会
- P69……新聞環境システム研究所
- P70……タウンモービルネットワーク北九州

■ 国際協力

- P72……ソルト・パヤタス
- P74……ロシナンテス
- P76……エスペランサ
- P77……NGO福岡ネットワーク
- P78……チェルノブイリ医療支援ネットワーク

■ 子ども・教育

- P80……子どもの村福岡
- P82……チャイルドライン「もしもしキモチ」
- P84……箱崎自由学舎ESPERANZA
- P86……福岡津屋崎子ども劇場
- P88……アジア太平洋こども会議・イン福岡
- P89……遊び塾ありギリス
- P90……FJQ
- P91……子ども文化コミュニティ
- P92……STEP・北九州
- P93……チャイルドケアセンター
- P94……にじいろCAP

■ 災害支援

- P96……福岡被災地前進支援

- P98……おわりに

※法人格を取得していない団体には、**（任）**マークを付けています。
※目次ページでは、法人格を有している団体の法人格名称（特定非営利活動法人またはNPO法人）を省略しています。正式名称については、記事内団体名称をご参照ください。

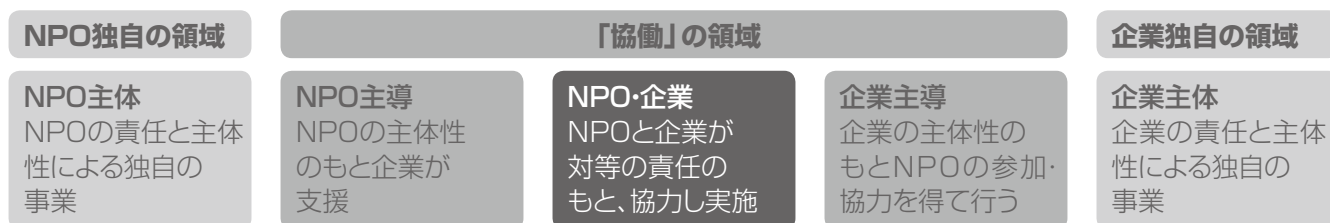
本冊子の目的と役割

「ふくおかNPO50～CSRパートナーカタログ～(以下、「本冊子」と表記)」は、企業とNPOとの協働を推進していくことを目的とし、CSRの取組を実施、また今後検討している企業担当者や経営者の方を主な読者として捉え制作しています。福岡県内を拠点に活動し、企業との協働について意欲と実力を持っているNPOを訪問取材し、50団体の情報を掲載しています。

より良いCSR推進のための協働

企業が、利潤追求だけでなく、企業の社会的責任(CSR=Corporate Social Responsibility)をどのようにして自発的に果たしていくかが、今まさに問われています。価値観やニーズが多様化してきた現代において、企業も多様な主体の一員として地域社会に受け入れられながら持続可能な経営を目指すことが求められているからです。そこで重要となるのが、市民が事業や活動を通して、社会と具体的に関わる組織であるNPOです。NPOは、市民目線だからこそ、地域社会の課題やニーズにいち早く気付くことができる存在であり、それらに対する専門的な知見やノウハウを有している組織だと捉えることができます。

「協働」と一言で言っても、その手法には、NPOが資金・物品提供や、社員のボランティア参加などを通して企業の支援を受けるというものから、企業が専門的な情報・技術提供などによりNPOの力を借りるもの、そして企画開発の段階から両者が対等に取り組んでいく事業まであります。現在の企業の目的や協働のパートナーとなるNPOが持つ力に応じて、最適な関わり方を見つけることが重要、かつ効果的です。



出典：山岡義典「時代が動くとき-社会変革とNPOの可能性」(1999)を基に作成

掲載内容と掲載団体の選定方法

本冊子では、NPOの組織に関する基本的な情報や事業・活動における特徴的なポイント等を体系的に整理し、取材時の最新情報を紹介しています(詳細はP6～7「本冊子の読み方」をご参照ください)。また、特集記事として、NPOとコミュニケーションを図るにあたり知っておきたい用語やポイントのほか、ビジネス界とNPO界の有識者(アドバイザー)の対談を掲載しています。

掲載団体の選定においては、本冊子制作事業独自の選定指標を設けており、「NPOや協働に関する各種論文、情報公開の適正性、福岡県の把握している活動実績」等をもとに、事業報告書や活動計算書で公開されている「受益者数、事業規模、寄附金額」や、「Webサイトのアクセシビリティ」等に分析をかけ、アドバイザーに監修を受けています。最終的には、本事業受託団体である「NPO法人アカツキ」と「福岡県NPO・ボランティアセンター」の協議により、分野や地域バランス、候補となった団体側の意向も含め、総合的に判断しています。

※団体と連絡を取る場合は、予め事業報告書やWebサイトに最新情報を確認していただくことを推奨します。



企業とNPOとの協働の実例を知りたい方は、ぜひこちらをご覧ください！

『新しい協働のケース100～これからの社会活性化のヒント～』

本冊子は、“NPOとの協働のイメージが湧かない”“関心はあるが、具体的にどう進めればいいのか分からない”という思いをお持ちの企業に、さまざまな協働のカタチを紹介するものであり、協働が始まったきっかけのほか、事業を実施する上でのそれぞれの役割、協働のメリット、活動継続の秘訣など、協働に向けたヒントとなる情報を掲載しています。

本冊子の読み方

本冊子の紙面では、NPOに関する基本的な情報、事業や活動における特徴的なポイントなどを体系的に整理し、読者の皆様にお伝えすることを目指しています。

執筆に用いている情報は、団体への訪問取材、法律で提出が義務付けられている事業報告書（法人のみ）、団体公式Webサイトによるものです。

本文中では、団体の主要な事業や活動に関する紹介のほか、市民活動に取り組む団体特有の収入種別割合により、財務面での特性を可視化しています。また、団体の広報ツールや活動実績なども表示しています。

● 団体名とコンセプト等
団体の正式名称と、ビジョン、ミッション、キャッチコピー、コンセプトなどを一言で表現しています。

● Webサイト
団体公式ページのURLを表示しています。

● 活動分野
団体の主な活動分野について、本冊子独自で7種類に分類し表示しています。

● この人に聞きました!
取材でお話を伺った方です。

● 事務所所在地
主たる事務所を設置している地域を表示しています。従たる事務所がある場合は、その地域も表示しています。

● 本文(概要)
団体の主要な事業や活動内容、特徴的なポイントについて紹介しています。

● 広報ツール
団体が公式に保持している、情報発信と外部コミュニケーションのための広報ツールを表示しています。

● 連携などの実績
過去に協働事業や委託事業で連携したことがある相手先を表示しています。

● マネジメント
会計・税務処理の実施体制について表示しています。

アカツキ
NPO法人
持ち寄って働く、寄りあって暮らす。それぞれの「私たち」に拓かれた社会へ。
http://aka-tsuki.org/
主な活動エリア: 福岡市

団体基礎データ

- 設立年: 2006年(法人化2012年)
- 代表者: 永田 賢介(代表理事)
- 主たる事務所所在地: 福岡市南区柳瀬2-16-24
- 電話番号: 092-233-1111
- E-mail: info@aka-tsuki.org
- 職員: 常勤1名 / 非常勤1名
- 理事: 20~30代(会社員、会社経営者、NPO法人職員)
- 会員: 約30人(20~30代、会社員、NPO法人職員)
- 主要事業: (1) 非営利団体及び市民団体等のコンサルティングとその成果物の販売事業 (2) 市民社会を担う人材及び団体の育成とネットワーク構築事業

特定非営利活動に係る収入
総額: 3,700 千円

ここをチェック!

- 広報ツール: web, tw, FB, MM
- 連携などの実績: 企業, 行政, 教育, NPO
- マネジメント: 会誌, 税士

アピールポイント
2012年 KBCラジオ「PAO〜N / オープン」に代表・永田が出演
※ 2013年 法人設立パーティーに、NPO・企業・行政各セクターから約90名が参加
◎ 過去の助成・受託等実績 (過去5年間の実績)
200 万円 (福岡県社会福祉づくり事業「ふくおかNPO50」・CSRパートナー・カテゴリー、協賛費)

主な年間スケジュール
毎週金……エンガワの夕げ
月1回……ファンレイジング勉強会
月1回……コレクティブ研究会

1 ● ふくおかNPO50 ~CSRパートナー・カテゴリー

● 団体基礎データ

団体の基礎的なデータを紹介しています。役員や会員については、構成員の年齢層や特徴を紹介しています。主要事業については、団体の定款に基づいて主なものを掲載しています。

● 特定非営利活動に係る収入

特定非営利活動に係る収入の総額を表示しています。また、収入種別を大きく5種(自主事業/委託事業・指定管理/補助・助成/寄附・会費/雑収入)に分け、その割合を表示しています。委託事業・指定管理、補助・助成収入は、その使途が指定された収入となります。

■ 特定非営利活動とは？

法律に定める20分野に該当する活動のことで、不特定多数のものの利益の増進に寄与することを目的とするものです。特定非営利活動法人は、この「特定非営利活動に係る事業」のほか、収益を目的とした「その他の事業」を実施し、その収益を特定非営利活動に充てることができます。

■ 事業報告書とは？

全ての特定非営利活動法人は、法律で年に一度、事業報告書等の提出が義務付けられています。これは一般企業における、いわゆる決算書に該当するものです。一事業年度内に取り組んだ事業内容を報告する事業報告書や、法人の収益費用を明らかにする計算書類(活動計算書・貸借対照表)等を提出することとなっています。

事業報告書は、所轄庁で過去3事業年度分を閲覧することができます。福岡県NPO・ボランティアセンターのWebサイトをご覧ください。

物語 支える人を支える、日の当たらない役割を担いたい

大学生時代はジャーナリストを目指していた代表の永田さん。けれども、社会の不正や嘘を暴くニュースよりも、良いニュースをつくる側に立つことが必要なのではないかという思いから、アカツキの前身となる団体「Joy-Box」を立ち上げました。エコとライブ、食育とアートを組み合わせる企画や、本の物々交換イベントなどを行う中で、世の中のお金の流れをどうしたら変えることができるのかを考え、NPOの資金調達手法である「ファンドレイジング」を学ぼうと、仕事を退職。東京へ行き、NPOや社会起業家へのインターン経験から先進的な事例や起業家精神を学び、独立のため福岡へ戻りました。



▲ エンガワのタゲ



▲ 福岡県NPO・ボランティアセンター

◎ 支援者とのコミュニケーション

広く誰でもではなく、その人なりの「得意なこと」や「やりたいこと」を明確にして、役割をお願いしています。また、支援者には団体・個人として両面からお礼を伝えることを大切にしています。

◎ 今後の課題と目標

社会を変えた成果が見え、実感が持てる、共感による寄附とプロボのコミュニティをつくり、NPOのビジョンに投資する「ベンチャーキャピタル」のような仕組みにしたいと思っています。



▲ 第4回全国NPO/NGO/ボランティアフォーラム分科会

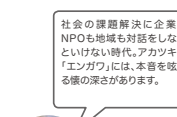


▲ 福岡県NPO・ボランティアセンター

協働 企業とNPO、人と人をつなぐ「ハブ」としての役割

中間支援団体は「つなぐ」組織。アカツキは、企業とNPOをつなぐためには2つのことが必要だと考えています。1つ目は知識。NPO法人の意義、ボランティアとの違い、企業との違いなどを正しく理解してもらうことで、前提を共有することが重要です。そして2つ目はマッチング。これまでの個別相談やコンサルティング、そして取材や調査などの経験から、さまざまなNPOとの顔の見える関係を持っています。現場ならではの新しい情報を使って、効果的に喜ばれる寄附先の紹介から、双方の得意分野を組み合わせる事業のコーディネートまで可能です。

さらに、福岡市東区にてアカツキが運営するコレクティブスペース「エンガワ」には、組織としての肩書きではなく、会社員・NPO・行政職員など垣根を越え、誰もが個人として関わるすることができます。毎週金曜日の夜には、ノンアルコールでの食会「エンガワのタゲ」が開催され、社会に対する問題意識や、取り組みたいプロジェクトのアイデアを持ち寄り、ゆるやかにフラットな対話の場が開かれています。



▲ エンガワのタゲ

団体から一言：CSRや協働でどこから手をつけて良いかわからないときは、一度アカツキまでご相談を。まず「話してみること」で生まれるものが多くあります。



▲ 福岡県NPO・ボランティアセンター

● 本文(物語)

団体設立のいきさつ、思い、きっかけになった原体験、中心メンバーとなっている理事や職員同士の出会いの経緯などを紹介しています。

● 今後の課題と目標

中長期(3~5年程度)的な課題や目標、計画、また必要としているリソースなどについて記載しています。

● 支援者とのコミュニケーション

ボランティアのコミュニティづくりや、寄附者へのお礼など、支援者とのコミュニケーションの工夫について記載しています。

● 本文(協働)

事業や活動内容について、技術的な特徴やサービスの工夫点など、企業と協働の実績・可能性が見出せる部分を紹介しています。

● 団体から一言

お話を伺った方から、取材の最後に、読者である企業の方や、社会に向けて発信したいメッセージをいただきました。

● わたしが聞きました

取材担当者より、お話を伺った感想を、一言コメントさせていただいています。

企業のCSR担当者が見るべき NPOの7つのポイント

営利企業と非営利団体(NPO)では、組織の文化や意思決定のプロセス、事業の際に重要視するポイントが大きく異なります。このページでは、本冊子を活用していただく際の、「NPOを見る視点」をさらに詳しくご紹介。NPOとの連携に向けたコミュニケーションを円滑にする7つのポイントをお伝えします。

1. ミッションを知る

NPOは、「こういう未来の社会の在り方を目指したい」というビジョンと、それを達成するために解決したい課題、そして自分たちの社会的使命=【ミッション】を持っています。

営利企業では、利潤と資本の最大化が最優先なのが一般的ですが、NPOの場合はこの「ミッション」が最優先であり、事業推進の際の判断基準や、指針になってきます。この2つの異なる軸を相互理解し、NPOにとっては「ミッションの達成」、企業にとっては「利益の増加」と、Win-Winの関係になるよう、うまくプログラムを組み合わせることが、協力関係をつくっていくためのポイントとなります。



2. 組織体質を知る

NPO法人は、株式会社と同じく、法で認められた「組織」です。設立に必要な書類を揃え、所轄庁(都道府県や政令市)に提出、その後登記を行います。

全体としては、まだまだ代表者のマンパワーで成り立っている組織も少なくないですが、基本的な方針や、意思決定は会員で構成される総会、事業の実施については理事会で決定されます。

NPOは、ときに事務局も含め協議を行うので、一般的にスピードよりも丁寧な対話を重視した、フラットな意思決定に特徴があります。NPOに提案を持ちかける場合は、その団体の組織体制やメンバー構成を踏まえた上で、適したアプローチ、スケジュールを計画するのが良いでしょう。

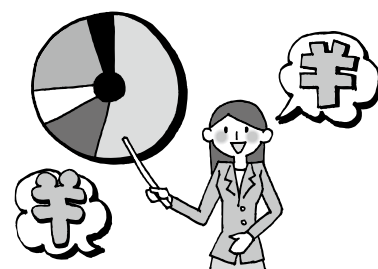


3. 収益構造を知る

最近では事業の収益をもとに活動する事業型のNPOも見られますが、社会課題の解決を目指すNPOでは、商品やサービスを提供する相手はその費用を支払うという、「受益者負担」の原則が成り立たないことがしばしばあります。(例…自然環境の保全や、子どもの安全を守る活動など)

その際に必要な考え方として、「第二の顧客」という概念があり、その対象が行政である場合は補助金や委託事業が増え、多くの一般市民である場合はニーズと共感を訴求することで、寄附収入が増加します。

収益構造と顧客の関係性を読み解くことで、NPOがどのようなステークホルダーを持っているかを知ることができます。



4. コミュニケーション力を知る

NPOは、多くの市民とつながり、巻き込み、活動を社会に広げていくことを重要視しています。会員、寄附者、ボランティア、地域住民や自治体、そして企業とのビジネスでの連携など、どの場面においても「コミュニケーション」に力を入れていなければ事業を推進していくことはできません。

これまでの連携実績はもちろん、Webサイトでの財務情報公開やイベント参加者募集、ブログの更新頻度やFacebook、twitter等の、ソーシャルメディアの活用度からは、その団体の「つながろうとする意欲」「つながることができる力」が見えてきます。まずは、気軽なメール・電話での問い合わせからでも、協働の可能性が見えてくるかもしれません。



5. 信頼性を見る

NPO法の本質は「所轄庁へ公開された情報により一般市民が評価すること」にありますので、多くの寄附者から支えられており、かつ会計の透明性が高いレベルで担保されているという基準を満たした「認定NPO法人」を取得している団体が、最も信頼性が高いと言えます。

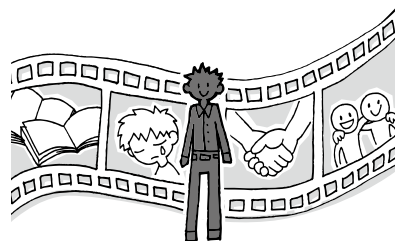
団体の信頼性をより客観的に把握するためには、これまでの新聞やTVなどメディア媒体への露出実績や、福岡県からの表彰等も一つの参考にすることができでしょう。また、金額の大きな委託事業の受託経験がある団体は、事務処理能力に関して一定の実力を持っていると見ることができます(もちろん、自主事業のみで、同じかそれ以上の規模の活動を行っている団体もあります)。



6. 人柄を見る

先に書いたように、NPOは、「ミッション」を軸にして活動していますが、このミッションが生まれる背景には、団体代表者や、メンバー自身が、社会課題に直面した体験を持つことが多いようです。

メリットもリスクも共有して、協働でプロジェクトをつくっていくようなとき、最終的に信頼できるのは「人」です。団体の設立の経緯を知った上で、担当者や役員と率直な話し合いの場をつくることができれば、そのとき、その場での協働がうまくいかなかったとしても、のちのち、信頼して声をかけてくれるパートナーに成り得るかもしれません。そういう意味では、企業担当者も「一人の人間」として誠意を持ってNPOと接することが、良い関係づくりの秘訣です。



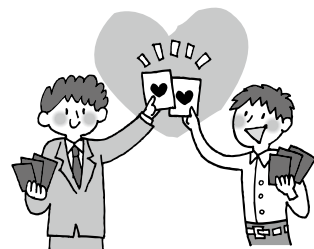
7. シーズとニーズを見る

実際にCSRや協働の企画・プログラムを設計するためには、NPOの持つ専門性や自社にない技術、ネットワーク等の特徴を知り、それを取り入れながら進めていくことが重要です。

NPOと企業双方のシーズとニーズ、そして、お互いの資金・人材・技術・資材のほか、活用されていない資源を探して分類し、さまざまな観点から組み合わせることで、新しい事業の可能性を考えてみましょう。

他地域の事例(※)も見ながら、まずはそれぞれの要望(欲しい物、やりたいこと)を提案してみることから、協働の議論をスタートさせましょう。

※「新しい協働のCASE100～これからの社会活性化のヒント～」をご参照ください。



用語集

▶ 特定非営利活動法人（＝NPO法人）

「Non Profit Organization」の略称表記で、不特定多数の者の利益のために活動を行うことを主たる目的とする組織に、所轄庁（県または政令市）の認証によって付与される法人格の名称であり、対象となる活動は、NPO法で20分野と定められています。ミッション達成のために事業活動を行い、その過程で収入を得ることができます。

また、事業のために従業員を雇用し給与を支払うこともできますが、営利行為となる社員等への配当は禁止されています。行政による監督ではなく、市民の監視による健全性の確保が求められており、事業内容を市民へ毎年報告する仕組みなど、透明性が高い情報公開制度を備えていることも特徴です。「寄附」や「ボランティア」といった仕組みを通して、市民一人ひとりが社会に参画するためのきっかけや機会を提供します。

▶ 認定NPO法人

NPO法人のうち、多くの寄附者に支えられ、法人運営の健全性や会計の透明性などの面において、一定の基準を満たしたものととして所轄庁（県または政令市）が認定した法人のことです。寄附者・NPO法人双方への税制上の優遇措置や、法人の信頼性向上の効果があり、NPO法人への寄附を促進させることを目的としています。

▶ NGO

「Non Governmental Organization」の略称表記で、国際協力に携わる民間の非政府組織を示す名称です。一般的に、国際協力や開発教育、地球規模の環境活動などをテーマとしており、中心的な活動場所が海外であることが多いです。法律で定められた名称ではないため、使用は任意となっています。

▶ NPO法人会計基準

民間のNPOと会計専門家などが策定・提唱している、NPO法人向けの会計基準（会計報告のルール）です。法的な遵守義務はありませんが、内閣府が作成したNPO法人向け運営の手引でも解説されており、市民に対する情報公開をより一層進めるために推奨されています。

▶ NPOセンター

地域型の中間支援組織であり、施設を持つ場合と持たない場合があります。周辺地域のNPO情報を保有しており、情報発信やNPOの運営相談対応、ネットワークの形成支援、活動場所の提供などを行っています。行政が設置・運営していることが多いですが、民間が運営していることもあります。

▶ 中間支援組織

環境や福祉など特定の分野によらず、NPO活動を行う団体を支援する組織のことを指します。厳密な定義はなく、事業のコンサルティングや、会計など実務のサポート、組織間のネットワーク構築と、支援内容は多岐にわたります。NPOと市民、NPOとNPO、NPOと企業などの間に立って活動することからこのような名称で呼ばれています。

制度

NF

NPO支援機能

組織体制

▶ 理事

社員(正会員)からNPO法人の運営を委任されている機関とその構成員です。法人を代表して業務を執行し、定款と管理者の注意義務に基づいてその経営責任を負います。企業における「取締役」に近い立場です。

▶ 監事

法人に対して業務監査と会計監査を行う機関とその構成員です。事業や会計が適性になされているかを監督し、意見を述べるのが主な業務です。NPO法人内部で適切な自治を行うための重要な役割を担っており、監査の結果、不正や法令・定款違反を発見した場合は、社員総会や所轄庁に報告する義務があります。

▶ 社員(正会員)

NPO法人においては一般的に「正会員」と称されることが多く、最高意思決定機関である社員総会で議決権を行使できる構成員のことです。「会費を納める」、「法人に対する支援者や賛同者」、「活動に積極的に参加する」、「サービスの提供者もしくは受給者」など、団体によってその役割や性格はさまざまであり、企業における「株主」に近い立場です。

▶ 事務局職員

理事会の下に存在し、事業の現場業務や法人の管理事務を担う職員であり、理事との情報共有、ボランティアのマネジメントなども行います。企業における「従業員」とほぼ同じ立場です。無給の場合もありますが、労働の対価として給与を支払うことができます。理事や社員を兼ねることも可能です(監事は不可)。

▶ ファンドレイジング

非営利組織の資金調達、資源開拓行為を指します。狭義では単に「寄附集め」とされますが、広義では支援者となる市民の共感を集め、課題解決のための事業を推進する仲間を広げていく行為全般のことであり、NPO活動の本質とも言えます。

▶ プロボノ

職務上得たスキルや専門的な知識、能力を活かして取り組むボランティア活動のことです。弁護士や税理士など士業をはじめ、プロジェクトマネジメントやマーケティング、リサーチ、デザインまで、幅広い分野において、近年日本で広がりを見せています。

▶ コミュニティビジネス

ソーシャルビジネスの中でも、特に地域が抱える課題を、地域における人材、ノウハウ、施設、資金などの資源を活かしながら解決していく事業のことであり、法人格の有無や、営利・非営利は問いません。地域の雇用や住民の生きがい・居場所をつくり出すことが、目的や役割となる場合も多く存在します。

▶ ソーシャルビジネス

社会課題をビジネス的な手法によって解決するため、収益性と社会貢献性を両立させた事業のことであり、法人格の有無や、営利・非営利は問いません。ソーシャルビジネスの優れたモデルでは、他組織や政府に積極的に模倣させることにより、社会システムを変革していく影響力を持つケースも存在します。

ムーブメント



時代の潮流を捉える

ビジネスの視点から見る、

福岡の地域に根ざした中小企業経営者の中でも、いち早くNPOの可能性に関心を寄せ、ご自身でも会社と別に、NPO活動を戦略的に活用されている吉原氏。大学教育の中で、ビジネスと社会性の両立から生まれるイノベーションを探求し、福岡の大企業の人材育成プログラムの開発につなげた田村氏。

本事業のアドバイザーでもいらっしゃるお二人に、これからの新しい社会に向けて企業が持つべき視座や、企業とNPOの協働が切り拓くものへの期待をお尋ねしました。

よく知られていない、NPOという存在

—田村さんは大学教員、吉原さんは不動産業という本業の傍ら、NPOの運営にも携わっていらっしゃいますね。まずお二人のNPOに対する印象についてお伺いしてもよろしいでしょうか？

(吉原)私は不動産会社と不動産コンサルティングの会社、そして古い建物の良さを発信するNPO法人の3つの経営に関わっています。また、福岡県中小企業家同友会のNPO交流ソーシャルビジネス特別委員会の委員長を務めています。

その活動の中で、多くの中小企業の経営者に伺った印象は「捉えどころがない」です。もちろん、身近でないということもありますが、企業は収益を増やして株主に利益を還元するという目的があるので、それをクリアすることが「良い経営」ですよ。では「良いNPOの運営」の条件は何かというと、はっきりしない。それで会社員は「NPOの目的はどこにあるんだろう？」と疑問に感じるんですね。そこが、第一印象ではないかと思います。

(田村)企業側に限らず、行政の職員をもってしても、NPOは儲けてはいけないと思っていますしね。信じられないことに(笑)。だから企業からしたら「儲けられない人

間となぜ付き合わなきゃいけないの？あなたたち無償のボランティアなんでしょう？」という感覚を持ってしまう。これは非営利団体という、日本語による不幸ですね。

(吉原)そうですね、NPOに対する誤解は、お金の考え方に集約されていると思います。「NPO＝ボランティア」と思い込んでいる中で、収益を出すNPOがメディアに取り上げられるので、「あれ、NPOって何だろう？」って混乱してしまう。

公共性の高い取り組みを行う主体としてのNPO

—そもそも、お二人はどうしてNPOの運営に関わるようになったのでしょうか？

(吉原)事業として古いビルを活かしていく仕事をしているのですが、ハードルになっていたのは、市民の皆さんが「古い建物は悪い」と思っていることでした。しかし、企業の立場から古い建物の良さを発信しても、声が届かない。

そこで、弊社の事業とは切り離して、同じ考えを持った仲間が集まりNPO法人を設立しました。今は、古い建物の良さを伝える活動、講演会やレトロビルまちあるきなどのイベントをNPO法人として行っています。

NPO活動の自分なりの理解は、収益のための事業と社会貢献の新しい関係を作ろうとしていることです。社会を変えるための発信力は、中小企業では弱いので、そこをNPOでやりたいと思っています。

(田村)私は特定非営利活動法人九州・アジア経営塾(以下KAIL)の設立と運営を行っています。KAILは東京のISLという、リーダーを育成するNPOを参考にして設立したので、組織形態もそれにあわせてNPOにした

福岡経済同友会は、平成21年度よりNPOと企業の連携の実態に注目し、これを進展させるには何をなすべきかについて検討を続けてきました。その成果として、平成24年に『「新しい公共」の実現に向けて～NPOと企業の連携～』と題したNPO、企業、行政による地域の課題を解決していくための方向性となるべき8つの提言を行い、小川福岡県知事に提言書を提出しています。



NPOとの協働の可能性



■ 吉原 勝己 (よしはら かつみ)

福岡市清川生まれ、吉塚育ちで生粋の福岡人。九州大学理学部生物学科卒業。メーカーの医薬開発部門で17年間勤務後、父親の経営する不動産会社吉原住宅有限会社に入社。

後に不動産コンサルティング会社株式会社スペースRデザイン、NPO法人福岡ビルストック研究会を立ち上げる。今年度より福岡県中小企業家同友会NPOソーシャルビジネス委員会委員長を務める。著書は『エンジョイ、レトロビル! 未来のビンテージビルを創る』。



■ 田村 馨 (たむら かおる)

福岡市出身。北海道大学卒業。農林水産省政策研究所経済政策部主任研究官、日本総合研究所社会システム研究部コンサルタントを経て、福岡大学へ。

英国サリー大学サービス経営スクール客員研究員、九州大学ユーザーサイエンス機構特任教授を歴任。そのほかNPO法人九州アジア経営塾理事、ネイチャリング財団理事を務めるほか、私塾「大名塾」を主宰する。

んです。

ですので、中にいる私が言うのも恥ずかしいけれども、NPOという名であっても、皆さんが考えるようなNPOとは違うかもしれませんね。大企業のキーパーソンが中心となって作った組織です。一企業内で人材育成をしようとする、3,000万円から4,000万円ほどのお金がかかる。それをいくつかの企業で連携して安く済ませようという組織です(笑)。もちろん、九州のリーダーを育てるということを志にした人たちが集まるという理念は名実ともにNPOですけどね。企業から社員を塾生にするために1人あたり250万円を集めるんですが、それとは別に企業から寄附をそれなりにもらっていますし。

NPOと企業の「違い」と「共通点」

—ビジネスにもNPO活動にも理解のあるお二人の視点から、企業とNPOを見たときに感じる「違い」は为什么呢？

(吉原) NPOは理念から始まり、企業は、事業ありきで理念をつくるのが現実だと思います。私が注目しているのは、企業にNPO的な社会的理念をどう浸透させるかということです。

つまり、NPOを含めたソーシャルビジネスのあり方を企業の中に取り込んでいくことで、多くの人と理念を共有することができ理解される企業ができるのではないかな。漠然と理念や社会性を掲げるのではなく、「我が社の社会性は何だろう?」と社員全員と問いかけていく中で理念が生まれるのではないかなと思います。そのモデルとしてのNPOにとっても注目をしています。そこに企業文化を変えるエネルギーが生まれるのではないかなと思います。

(田村) 企業もNPOも変わらない部分がある。顧客との構図や、株式会社の株主にあたる人たちがNPOでは会



員だったり寄附する側だったりするだけです。だから極端な話をするとも志があるかないかの違いだけで、あとは同じことをやってもいいと思う。

NPOと企業が、サービスとか対顧客の関係で区別をしないといけないということはない。従業員に対してもお金でリターンするのか、それとも同じミッションを共有しているとかそういうことでお返しするのかという違いだけであってね。

今は企業もミッションや志の共有が重要になっています。小口の株主なんてまさにそうですね。その会社が好きだから自分は株主になるという風にね。まったくNPO的ですよね。別に彼らは金銭的なリターンを求めているわけじゃないでしょう?

—意外にも企業とNPOの共通点が多く見られますが、決定的な違いは何でしょうか?

(田村) 「言語が通じない」かな。企業からすると、「この案件の実施の可否を理事会にかけます」って言われても、下手すると理事会が何かもわからない。企業では、担当者が決裁権を持つことなんてよくありますしね。さらに言えば、月1回しかない理事会まで待てない。合意



形成、意思決定のプロセスですね。儲かるか儲からないかで担当者が判断するという企業のスピードに対して、社会性や団

体の理念に照らし合わせて検討するNPOのスピードには、良い悪いではなくズレがあるでしょうね。

(吉原)私は柔軟性だと思います。NPOは特定の活動からスタートする場合が多いので、企業側からのニーズに対応してくれるのだろうか？と不安になりますね。企業なら事業性があれば何でも取り組む努力を行います。

(田村)そういう意味でも、協働の取り組みに対する説明責任があるのはNPOの方でしょうね。例えばゴミ回収を例にしますと、お金を払って業者に頼めばいいじゃんっていうのが企業の考えなんですよ。

NPOは回収するワークを通して環境問題を考えようみたいなことを大切にしていますが、企業からするとそれはどうでもよかったりする。それをNPO側はきちんと説得しないとイケない。

NPOが企業とコミュニケーションするために

—その「説得」は、例えば効果の数値を証明するとか、そういうことでしょうか？

(田村)時代背景を踏まえたロジックでしょうか。あとやっぱり、その代表なら代表の、担当者なら担当者の人間的なところでしょうね。

(吉原)今、経済も消費も大きく変わっている中で、企業論理だけでは先行きは暗いです。そのときにもし、自社に近い活動をするNPOがあったとしたら、一緒に取り組まないという手はないんじゃないかと思います。

(田村)NPOにはいい意味で「違い」を発信してほしい。価値観や時代感においてね。企業にも社会性にアンテナが向いている人はいて、時代の変化を社に取り入れなきゃいけないと危機感を持っている。そういう人に共鳴するようなメッセージを発することが大切だと思うんですよ。だからある意味、NPOとの協働を考えるときに数字っていらんのかも。

もちろん団体が小さすぎると事業ができないんじゃないかって不安になるけれど、でもそれよりも理事長とか代表が何を考えているか、時代をどう見ているかみたいなことを表明することの方が大切。会社員ってそうい

うところを見ているんじゃないかな。企業には伺い知れないような、感知できないようなことが発信されているかですよ。

事細かに福祉分野でこんなことやってますっていう情報があっても、そういうことに興味がある会社員にとっては必要かもしれないけども、そうじゃない人には引かからない。それに、先ほども話題に上がったけれど、企業って柔軟性が高い。福祉関係でCSRをやろうと思ってたけども、福祉やめて教育でいこうなんてことをあっさりやれてしまう。

NPOに求められる「感度の高さ」

—NPOの活動分野ではなく、理念や志を軸に協働していくということですね。ほかに、協働すべき、あるいはしない方がいいNPOの条件ってどんなことが考えられるでしょうか？

(田村)今時ソーシャルメディアをやってないようなところと付き合いたくないでしょう。「facebookのページ教えてよ」ってときに「やってません」なんてところとは、ちょっとね。ホームページって皆さん、今は見ないじゃないですか。そういうことがわかっているのかとか、情報発信力が重要です。

NPO側もそういうところに興味を持ったり、そういうところに感度が高い担当者と付き合った方がいいですよ。お互いがお互いのために。

(吉原)私が見る限り、NPOを含めたソーシャルビジネスはビジネスの宝庫なんですよ。営利を目的とする企業ではやっていないルートやビジネスモデルが、NPOだからこそ動いている部分がある。そこに僕らの事業性をのせたらうまくやれるんじゃないかって感じる人が多いですね。例えば介護の分野におけるシェアハウス事業を展開しようなんて考えたときに、その問題に取り組んでいるNPOと組むとかいいですよ。NPOとの協働はすごく可能性があると思うんです。そういう視点でNPOを見ていますね。

福岡経済同友会の8つの提言のうち、提言2としてNPOは見る側に立ち、誰もがわかりやすく迅速に入手できる情報提供を、企業・経済団体は行政・NPOの情報発信を互いに積極的に行うことが提言され、NPOの具体的な取組としてホームページの改善などが挙げられています。

このように、協働における情報開示の重要性は高く、本冊子でも掲載団体の選考指標として、ホームページの情報公開度を取り入れています。

新しい時代の作り手としてのNPOへ

—お互いにリソースを持ち寄る、そういう案件が真の企業とNPOの協働の形ですよね。ただ、福岡の現状を鑑みると、企業から資金やボランティアを提供してもらってNPOが活動する、といった協働の形がメジャーのように感じます。こういった形の協働での企業のニーズはどこにあるのでしょうか？

(田村) 新人教育としてのニーズは絶対あるでしょうね。零細・中小企業の場合は、人材育成にける手間がないので、何社か共同でNPOが研修プログラムを提供するとか。東京では2週間海外に新人を派遣するといったプログラムをNPOが企業向けに提供していて、企業が注目し始めていますね。内容はパッケージ化されていなくて、企業の課題をもとにゼロから一緒につくるプログラム。新人がそこで事業のなんたるかを知るようなプログラムなんていいですよ。失敗してもいいんですよ。企業からすると、OJTで失敗されるよりずっといい。

(吉原) 逆に、私は企業がNPOの方をインターンとして受け入れる可能性もあると感じました。企業はNPOのスペシャリストの情報を手に入れることができ、NPOは企業の事業性を学び、発信力・人脈を手に入れることができるというような協働もあるのかな、と。

—最後に、お二人からCSR担当者へ一言いただけますか？

(吉原) 今、時代は刻々と変わっていています。シェアに代表されるような、今までになかった考え方が主流になりつつある。その主流を生み出しているのは比較的若い世代で、いずれ彼らが日本の中心の世代になっていくわけです。そのとき台頭するものの一つがNPOだと考えています。企業人は、市場を変える可能性を持つ人のことを知っておかないと。とても興味があるのは、若い世代のNPOが何をやっているのか、これから何を

株式会社リコーでは、NPO法人JENと協働し、新入社員研修の一環として、東日本大震災で大きな打撃を被った宮城県南三陸町で漁業の復興支援活動を行いました。これは南三陸町の本格的な漁業再開と収入回復への足がかりになることを目指すとともに、新入社員が社会的課題に対する意識を高め、持続可能な社会の発展に貢献できる人材に成長することをねらいとしたものです。

福岡県ではNPO法人福岡被災地前進支援が被災地での支援活動を行っており、東北を含む被災地へのボランティア派遣事業も行っています。



やっていくのかをしっかりと見ることです。日本の次の時代の動きに期待しています。

世代といえば、一つ気になっていることに、事前にもらった福岡経済同友会の「新しい公共」に関する資料の中に、NPOに対する信頼性が世代で異なるデータがあるんです。20歳から29歳はNPOは比較的「信頼できる」が高いのに、30歳から39歳は極端に「信頼してない」んですよ。なぜこうなったんでしょうかね(笑)。そこを理解しておかないとマッチングもうまくいかないでしょうね。

(田村) これ7年前の調査ですよ。ということはいま30代後半から40代半ばくらいの人。バブルの頃かな。バブルの頃に大学を出て、あまり社会に興味ないのかもしれない。だからこそなおさら、いまのNPOは「私たちは新しい世代です」「ビジネスマインドでやってます」っていうのを打ち出して欲しいですし、企業の担当者も、そういう新しいNPOに注目してもらいたいですね。

NPOに対する信頼性が低い

NPO(民間非営利組織)に関する世論調査(内閣府:平成17年実施)



出典:「新しい公共」の実現に向けて～NPOと企業の連携～

平成17年実施の内閣府の世論調査によると、NPO(民間非営利組織)に関して、全体の28.6%が「信頼できない・わからない」と感じている。その傾向は60代以上の年齢層に顕著だが、30代の働き盛りの若い世代でも27.7%がNPOに対して信頼性に疑問を持っているという調査結果となっています。



互いの違いを越えて

協働のカギは、対話と

企業・行政・NPOと、全てのセクターで所属経験があり、地域活性や社員研修等のファシリテーターとして全国を飛び回る加留部氏。NPO現場のマネジメントに精通し、福岡県NPO・ボランティアセンターの相談員を務めるほか、福岡市の共働促進アドバイザーとして活躍されている今村氏。本事業のアドバイザーでもいらっしゃるお二人に、NPOと企業が協働を行う際に、双方が注意しておくことやアピールすべきポイント等について語っていただきました。

関係づくりの第一歩目は「対話」

—早速ですが、お二人が、企業とNPOの「協働」において大切にしていることをお伺いしてもよろしいでしょうか？

(加留部) 協働のためには、まず対話。お互いに話をすることに尽きると思っています。与太話も含めてどれだけ対話を重ねてきたかってことですね。話していく中で、それぞれの立場や背景、キャラクターであったり、何ができるかを理解できるようになっていく。オーソドックスな方法論ですが。

(今村) 協働に限らず、組織と組織が一緒にやるってことは、人と人が一緒にやるということと同じですからね。対話がないと、そもそも人と人との関係が成り立たない。対話を通じて相手が困っていること、できないことに応えていくようにすることが関係性の第一歩目です。ただ、協働しようとするとき、行政も企業もNPOも「これがやりたい」はよく聞くんですけど、お互いがそれに寄り添ってる姿ってあんまり見たことがない気がします。だから私は、できる限り歩み寄りを大事にしたいなと思っていますし、うちのNPOの中でもその意識を共有しています。

(加留部) 僕は「一人でやらない」「一人でさせない」「一

人にさせない」、この3つを大事にしています。どんなに能力があっても、個人でできることには限界があるので「一人でやらない」。誰かにまるまる責任を押し付けて、あとは知らないという態度はだめ。「一人でさせない」。そして最後に、みんながわいわい盛り上がっている中で「一人にさせない」。企業がこの3つを実践するだけで、事業の促進力が増すんじゃないかと思いますね。

CSR担当者を「一人にさせない」

(今村) よく見かけますよね、大きな組織の中で、孤立無援状態でCSR事業の担当をしている方とか。

(加留部) 特にCSR担当者は一人職場が多いですからね。経理や総務が兼任していたりとか、広報の延長線上で行っていることが多いと思いますし、今なら環境とか国際とかに直結するような部署が担当しているということもあるかもしれない。だから、まず社内環境が整っていないことも多いと思うんですよ。CSR事業自体の意味付けが理解されていないとかも含めて。でもそれは、協働のきっかけでもあると思うんです。だから僕は、「自分の所属の内側に相談相手がいらないなら、外側に相談相手をつくりなさい」と言っています。周囲の理解や協力の少ない中で、僕たちが助けになればいいなと思います。

(今村) そうですね、一NPOの立場からも、CSR担当者を「一人にさせない」は大事だと思いました。企業って、人的資源が豊富だというイメージはありますが、実はそうじゃない可能性があるんだなと。普通、企業さんの協賛を仰ぐときとか、どうしても「応援してください」ということを言いに行っていますけど、逆にこちらから「いつ



コミュニケーション



■ 今村 晃章 (いまむらてるあき)

福岡県出身。2002年頃より社会人大学生として福祉を学んでいた際に、友人と一緒に参加した介護ボランティアの活動体験をきっかけにボランティア活動に関心を持つようになる。その後さまざまな活動に参加する中で、NPO・ボランティアを支える中間支援の重要性を感じるようになり、2008年にはくめNPOセンター(現・NPO法人NPO九州)を設立。現在は、福岡県NPO・ボランティアセンターの相談員も務めながら、NPO法人やボランティア団体のマネージメント相談を中心に活動を展開している。



■ 加留部 貴行 (かるべたかゆき)

福岡県出身。九州大学法学部在籍時より九州各地のまちづくり活動に携わり、卒業後、「ボランティアやNPO活動へ理解のある会社員」を目指して西部ガス株式会社に入社。人事、営業、新規事業部門に従事。2001年より福岡市へNPO・ボランティア支援推進専門員として2年半派遣。2007年には九州大学へ出向。2011年4月に独立。現在は九州大学の客員准教授として教鞭もとりながら非営利の現場を支える活動を展開している。企業・大学・行政・NPOの4つのセクターを経験している「ひとり産学官民連携」を活かした共働のファシリテーションを実践。

でも相談承ります」とご挨拶に行くことも必要なのかなと思います。

(加留部) そういう考え方は大事ですよ。以前会社に勤めていた関係で、当時の会社のCSR担当者を紹介してほしいとNPOの方から話があることがあるんですが、そういうとき僕は、まず「なぜこの会社を選んだのですか?」と聞くんですね。そこで、会社とどのようなつながりを持とうとしているのか考えてほしいんです。例えば、その会社の環境活動と自分たちの活動がこのような部分でつながりがありそうだから、こういった提案を持って相談にきました、というように。株式会社では、株主に対して説明のできないことはできないので、そこはNPOが歩み寄っていかないとイケない。

ただ、今までNPOが企業の取組を知る機会が少なかった。企業がNPOの情報を得るのも下手だけど、NPOも企業の情報を得るのが下手。なんとなくイメージはあっても、企業の方針を理解していないから、具体的な提案ができない。それで「お金をください」になってしまう。だから県のボランティアセンターでは、企業の社会貢献レポートなどを配架する企業コーナーをつくっているんですよ。

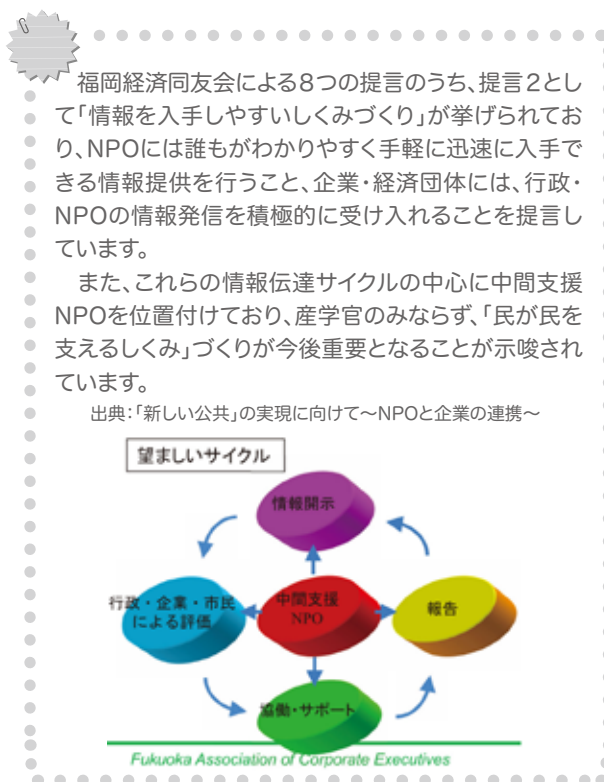
注目が集まる「人材育成型」の協働

—孤立しがちなCSR担当者とNPOの歩み寄りが重要だということですね。それでは、次にNPOと企業の協働にどんな事例があるか紹介していただけますか?

(加留部) NPOと企業の協働って3通りあるように見受けられますね。1つ目は「持ち出し型」。いわゆるNPOに対する企業の寄附ですね。2つ目は「業務提携型」。商品開発やマーケティング分野でNPOとの協働を活かし

た話は結構聞きます。例えば、紙おむつのメーカーが3人以上子どもを抱えている母親グループにおむつを無償提供して、代わりに、履き心地や使い心地などについてアンケートに答えることで協力してもらうといったことです。

そして3つ目が、最近目立ち始めた、人を通じて貢献する「人材育成型」です。当初は、企業から社員を100人出してゴミ拾いに協力するといったことに代表されるような内容だったんですが、今はマンパワー以外にも、企業にとってもメリットのある形で行われる例が増えていま



例えば今回の震災では、企業が新人社員の研修として、震災の現場にボランティアを派遣している例が多く見受けられました。現場体験が少ないと言われるゆとり世代に、1～2週間くらい震災の現場でいろいろなことを体験させ、そして会社の中でどう活かしていくのか考えさせる。学生が企業のインターンシップに行くように、社員が地域やNPOの現場に入っていく。そういうことを人材育成の機会にするということがこれからの潮流になるでしょう。そしてこれは、CSR担当者が社内で理解を得るヒントでもあるかなと思っています。CSRが進まない原因は、総務や広報などの部署が担っていることが多いせいもあるんですね。それを、人材育成部門の理解を得ることで、社内の影響力を高めることができるんです。

NPOの専門性を事業に活かす

(加留部) 人を通じた貢献といえば、企業が新規事業を興そうとするときに、その分野の長けた人を紹介してほしいということでNPOを紹介することはあり得ますね。例えば、食肉分野の新規事業を検討するときに、アレルギーやアトピー問題の解決に取り組むNPOを紹介するとか、造園会社が里山に関する仕事をするときに保全に取り組むNPOを紹介するなどです。

(今村) そうですね。今は、NPOがやろうとしている部分と、企業がやろうとしている部分がうまく合致するあり方が求められていますね。

例えば、今僕がNPOの立場で企業と一緒に仕事をさせていただいていることは、介護職員基礎研修のプログラムの開発なんです。介護の世界では、時としてサービス提供の際に介護保険制度などの公的サービスのみを案内しているケースがありますが、介護が必要なお年寄りの生活は、それだけでは成立しないこともあります。そういった課題意識から、国は、介護資格の認定事業者がつくる「介護職員基礎研修課程カリキュラム」の500時間のうち8時間を、行政や民間、NPOなどが行うさまざまな社会資源を使って介護者の生活を支えるための研修とするよう定めています。それで今、民間企業の皆さんがこの8時間をどうアレンジするか悩んでいらっしゃるんですね。なぜかという、例えばNPOの現場で、その日1日体験などの研修をしても「なんかいいことやった」「よかった」だけで終わってしまい、あとに残る学びになっていることが少ないからだと思います。しかし、そもそも研修の参加者は、ボランティアやNPOに関

する基礎的な知識があまりないし、介護の専門家もボランティアやNPOのことがわかる人が少ないので、教えられないが現状のようです。

でも、私は「これはNPOとかボランティアに全く興味のない人が関心を持つチャンスだ!」と思ったんですよ。もしかすると僕の話聞いて、自身の仕事につなげる取り組み方を学んでくれたり、その人がNPOの活動をやってみようという気持ちになってくれるかもしれないと。

それで、今企業2社と組んで研修プログラムを開発しています。介護職員基礎研修のあとに、ボランティアセンターに行ってどんな社会資源があるのか見てもらって、その資源をどうやって介護の分野で活かしていくのか考えてもらっています。例えば、デイサービスや老人ホームであれば、芸能系・文化系ボランティアを活かせるとか、そういうことです。このように、僕個人が講師として講演して終わりという形ではなく、中間支援として他のNPOを紹介させていただいています。たまたま僕が介護という現場を知っていて、いろいろなNPOのネットワークを知っているということで実現したのですが、こういう協働もあるかと思います。

提案はまず相手のニーズありき

—企業とNPOの協働において、注意すべきことは何でしょうか？

(加留部) 協働の話題の中で、NPOには提案力が必要だということがよく言われます。もちろん、提案は重要なんです。実は今足りないのは、相手のニーズや課題に対しての提案だと思うんです。どうもNPO側の話を聞いていると、自分のやりたいことをどうやって企画書にまとめて持っていくかということばかりなんですね。そうではなくて、企業のニーズを引き出す必要があるんです。相手のニーズが出てくると、自ずと提案する焦点が見えてくるはずなんですよ。

福岡経済同友会による「新しい公共」の実現に向けた提言において「NPOと企業の連携の必要性」が提起されています。そこでは、今企業に求められるものとして「市場や社会から支持、信頼される企業でなければ持続し得ない」とした上で、企業の社会貢献において自社単独での実施よりも、NPO・ボランティアと連携した方が効果が高まると述べています。また、その理由には、NPOの持つ優位性として高い専門性・地域に根付いた活動が挙げられています。

(今村) アピールする種類が違うということですよ。人って、どうしてもアピールしたいことをアピールしがちです。やりたいことをアピールする前に、自分たちがどんな存在で、一体何をきっかけに活動を行っているか、どんな背景が社会にあるのかを伝えなくては。その上で、協働するとどんな効果があるのか、企業の課題に対してどのくらい貢献できるのかを伝えることができるかどうかですよ。これは提案だけでなく、情報発信とか情報公開にも通ずることだと思います。協働したいと思っているNPOは、まず自分たちが、人と人が共感し合える情報発信ができていのかどうかを見直してみないといけませんね。NPOである自分たちがどういうものであるか相手の知りたいことに沿って説明できないと。そもそも企業の中には、NPOの探し方がどうのこうのより、まずNPO自体をよく知らない方が多いです。そういった人たちへのアプローチの仕方を考えないと。

—共感し合える情報発信の具体的なアドバイスはありますか？

(今村) その人の活動のきっかけやエピソードの部分は、共感を得るための一つのツールになるかなと思います。NPOに関わりがない、多くの企業の方にとっては、「NPOの人ってなんでこんなに頑張れるんだろう？」という疑問がまずあるわけですから。つまりミッションです。多くの場合、NPOのエネルギー源はミッションですからね。それを伝えることが大事だと思います。

NPOだから提供できる価値を考える

(今村) あとは、単純に楽しいんだよっていうところとかを伝えることですね(笑)。仕事とは違う、会社とは違う、いい部分を伝えられるかどうか。先ほども言いましたが、CSRの担当者は孤立している人もいますので、その人を取り込まないことには、企業との協働はできませんから。

企業とNPOの協働というと、企業っていう組織を見てしまいがちですが、企業人へのアプローチについてきちんと考えることができるかどうかは重要かもしれません。そして企業人の居場所や能力を発揮する機会を用意してあげることも。ボランティアやNPOに縁の薄い30代・40代の企業人も、社外で居場所や能力を発揮する機会を得て、学んだことを企業へ持ち帰る機会を必要としていると思います。ただ、そういうニーズに対してNPOの側に準備ができていのかというと、まだまだで



しょうね。プログラム開発や受け入れ体制を整える以上に、「能力を発揮する場を提供する」という目的でボランティアマネジメントしていこうとNPO側が考えているかどうか。ともすれば、ただ人に手伝ってもらって終わりという団体も多いですし。

(加留部) 始めの話に戻るかもしれませんが、やっぱり企業の活動も、人の集団の行動なんですよ。自身がどうやって生きていくか、親の介護、子どもの将来、パートナーとの関係、NPOの人間も企業の人間も同じなんです。悩めることは言わないだけで。だから、NPOとの協働を通じて、企業との課題解決だけでなく会社員という個人の課題も解決したいですよ。

(今村) 企業に負けられないようなクオリティのサービスを提供するだけでなく、NPOじゃないと提供できない価値を提供することが重要なんですね。今話題に上がったような、「お金や肩書きでなく、居場所を与える」というような、NPOじゃないと提供できないものを見出すことが必要なのかなと思います。NPOだからこそできることを企業に提供できるプログラムをつくり上げること。でもそれは、単純に企業や行政との協働だけのことでなくて、NPO自身の活動をよりよくしていくことにつながる大切なことだと思います。





ウィッグが、想いをつなぐ。あなたが誰かを、誰かがあなたを、今日を支えるチカラになる。

NPO法人

ウィッグリング・ジャパン

<http://www.wig-ring.info/>

主な活動エリア：福岡市を中心に全国



この人に聞きました



カドの ウェダ アイコ
上田 あい子 [代表理事]
P&Cプランニング株式会社代表取締役



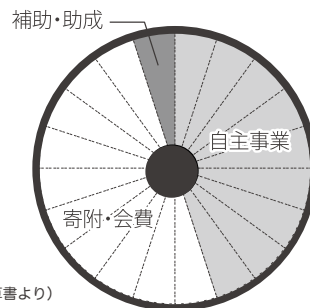
概要 がんを乗り越えたウィッグが、勇気のバトンになります

日本における女性のがん患者数は年間20万人以上。治療にかかる医療費は高額であるため経済的負担は大きくなります。また、抗がん剤治療による「脱毛」は、女性にとって非常に大きな精神的ダメージとなり、その「脱毛」をサポートするウィッグも、医療用では20万円近くするなど高額のものが多いため、ただでさえ仕事ができなくなっているのに、入院費も必要な中では、さらなる経済的負担となり、手が届きにくいものとなっています。

そこでウィッグリング・ジャパンは、がん治療を終えた患者さんから、使用していたかつら（ウィッグ）を提供してもらい、これからがんを闘う女性たちへと再提供するサイクル（リング）をつくり出しています。現在約550点の

特定非営利活動に係る収入

総額：3,420 千円



(平成23年度活動計算書より)

ウィッグを準備し、延べ300人ほどの女性がん患者をサポートしており、その利用者は福岡県をはじめ、九州一円、さらに全国にまで広がっています。

見た目を気にして外出できずに、気持ちこもりがちになるがん患者が、再び社会に出ていけることで、女性の人生の質＝クオリティオブライフ（QOL）は向上します。ウィッグリング・ジャパンは、ワークライフ・バランスとともに“ビューキライフ・バランス”を提唱しています。

ここをチェック！

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2010年度「ふくおか共助社会づくり表彰」共助社会づくり奨励賞受賞
- 2012年 西日本新聞、読売新聞、九州医事新報 掲載
- 2012年 KBC「アサデス」、KBCラジオ、crossfm 出演

過去の助成・受託等実績（過去最大額のみ表示）

200万円 福岡県「NPOと県との新たな公共サービス提供事業」

主な年間スケジュール

- 毎週金・土… 未病外来プロジェクト「私の保健室」
- 毎週月… ウィッグリング・サロンオープン
- 月1回… カフェで学ぼう がんのことセミナー
- 第4月… がん患者の語り場ウィッグリングカフェ

詳細はお問い合わせください。



支えられる当事者から、支える側へ

活動のきっかけは、代表である上田さんの幼なじみの女性が、乳がんを発症したことでした。髪の毛が抜けてしまうことでとても落ちこんでいた彼女に対して、何かできることはないかと悩んでいたとき、ちょうど別の知り合いががんを克服したと聞いて、その彼女が使っていたかつらを借りて届けたところ、非常に喜ばれたそうです。

かつらのレンタルにニーズがあるのではないかと感じ、当事者の声を聞いて回るうちに、キーパーソンである満安さんと出会います。がんの治療で左の肺と乳房を失っていた彼女は、団体立ち上げの中心となり、現在も利用者と接するボランティアスタッフとして活躍しています。

当初は病院へ営業に回って地道に活動していましたが、一度ラジオ番組に出演したのをきっかけに、ラジオを聴いた入院患者の方からの問合せや新聞の取材依頼が次第に増えてきました。同じがんに苦しんだ経験を持つボランティアスタッフがいるからこそ、利用者は安心して、家族にも打ち明けられなかったような、病気に関する不安や悩みを相談できるのです。

支援者とのコミュニケーション

ボランティアのスタッフは、自身が元がん患者なので、主体的に動きたい人が多く、職員は敢えてサポートに回っています。頼られることがボランティアスタッフの「やりがい」となり、力を発揮しています。

今後の課題と目標

不規則な生活やストレスにより、がん患者の若年化が進行しているので、対処療法ではなく、検診の推奨や食育など、予防のサポートをしていきたいと考えています。



女性の美と健康のため、必要な情報を、必要なところに

がん患者が情報交換できる交流サロンの運営や、情報誌「ヘルシーリング」によるヘルスケアと医療情報の提供に加え、2012年度には、久留米大学先端癌治療研究センターとの共催により、専門家を招いた、がんの早期発見や食事療法について知るセミナー「カフェで学ぼう がんのこと」を開催しました。今後は、インターネット上の健康ポータルサイトも展開を予定し、リアルとネットを行き来する、情報コミュニティの形成を目標としています。

Webサイトのトップにバナーを置く、新日本製薬株式会社をはじめとする企業からの寄附も多く、患者や女性の声を多く集めるウィッグリング・ジャパンは、マーケティングや商品開発の協働相手として期待が寄せられています。

現在課題だと感じているのは、患者から見た病院や医師の無理解や敷居の高さであり、医療機関の見学ツアーを実施するほか、かつらのレンタル時には、敢えて必ず担当医師の同意のサインを求める手順を踏むことによって、少しずつ病院側へ活動を広げています。

団体から一言： 女性には、多様なライフステージがあります。場合によっては病気との出会いも避けられないことを知りました。人との出会いや情報との出会いのきっかけを創ることで、自分らしく生きていける世の中にしたいですね。



▲ トークショーへの登壇



▲ カフェでのがん予防セミナー



▲ カフェでのがん予防セミナー



▲ 壁に並べられたレンタルウィッグ

女性を内面から輝かせる活動だからか、スタッフやボランティアの方々のお写真や、取材でお訪ねした事務所の雰囲気がとても素敵でした。



わたしが聞きました
オガラ ケンゾウ
永田 賢介
NPO 法人アカツキ
代表理事



“わが家”のような居場所

特定非営利活動法人

エスタスカーサ

<http://www1.bbq.jp/estasucasa/>

主な活動エリア：福岡市、春日市、那珂川町



この人に聞きました



トモタリ フミタカ
知足 文隆[理事長]
ヘルパー2級



いつでも老若男女あらゆる人が つながれる場所をめざして

「エスタスカーサ (Esta su Casa)」とは、スペイン語で「ここを自分の家だと思ってくついでください」という意味であり、「地域の中に我が家のように安心して居られる、またここに来れば誰かに会えるという場をつくりたい」といった思いが込められています。

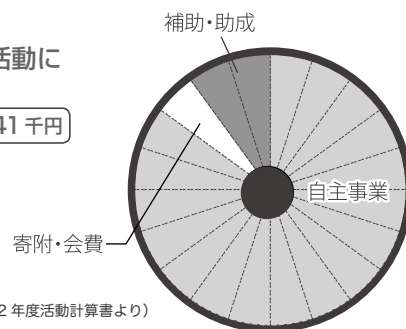
福岡市南区にある民家を改装した2階建てテラス付き建物で、障がい者支援事業と交流スペース運営事業を2本柱として活動しており、障がい者支援事業では、ホームヘルプ・ガイドヘルプの事務所を2階に置き、ヘルパーの派遣を行っています。2011年4月からは、1階交流スペースにおいてショートステイ事業を開始したことに伴い、さまざまなこだわりや全介助の対応を必要とする

団体基礎データ

- 設立年：2004年（法人化2004年）
- 代表者：知足 文隆（理事長）
- 主たる事務所所在地：
福岡市南区弥永2-17-1
- 電話番号：092-980-5675
- E-mail：casakids@awa.bbq.jp
- 職員：常勤7名／非常勤13名
- 理事：35～50代（助産師、福祉施設長、会社経理、職員（管理職）等）
- 会員：約70人（交流スペース利用者、全国に幅広い）
- 主要事業：
(1) 障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス事業、地域生活支援事業の受託 (2) 子供、障害者、高齢者等の交流を図り支援する事業

特定非営利活動に係る収入

総額：53,741 千円



る利用者一人ひとりのことを考え、「畳敷き」のお風呂を新設しました。

一方、交流スペース運営事業では、さまざまなイベントのためにスペースを開放しており、子どもから高齢者まで、障がいのある・なしを問わず多くの方が参加し、互いに知り合い、友人同士でイベントを新しく企画して交流の場をつくる機会を提供しています。

ここをチェック！

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2011年 読売新聞、西日本新聞 掲載
- 2012年 JCOM TV放映

過去の助成・受託等実績（過去最大額のみ表示）

260 万円 独立行政法人福祉医療機構(WAM)助成「つながるプロジェクト」

主な年間スケジュール

毎週水…… みんなの日
月1回…… みんなでランチ
月1回…… フラワーアレンジ教室
12月…… 餅つき

詳細はお問い合わせください。

物語 利用者を限定せず、誰もが安心して生活できる地域の居場所に

サラリーマンを退職後、無認可福祉作業所で働いていた、代表の知足さん。パートナーの育児休暇が半年に短縮されたことをきっかけに離職し、「主夫」として1年間育児に専念していたときに、「子育ては決して1人でするものでなく、いろいろな人との関わりが広がっていく中で、子どもも親も成長していくのだ」と実感し、高齢者・障がい者・乳幼児といった福祉の垣根を越えともに過ごせる「場」が必要であること、それによりお互いの違いを自然に受け入れ、異なる立場の人々を思いやることができると考え、エスタスカーサを立ち上げました。

そのため、エスタスカーサの活動は、いわゆる「高齢者福祉」「障がい者福祉」といった、分野で区切られないことこそが本質であり、それゆえに難しいこともあったと言います。障がい者支援施設を健常者も利用することを、行政の福祉担当部署に理解してもらう苦労や、また内部のスタッフとも、見解の相違からすれ違いの時期もありました。ただ、それらの多くも相手と向き合い、話をきちんと聞くこと、こちらの意図を整理して伝えることという、コミュニケーションで乗り越えてきて今があります。

支援者とのコミュニケーション

参加者それぞれが活躍できる場を準備するとともに、スタッフ側から積極的に仕事をお願いしたり、人を紹介しなくても、自然につながる関係が生まれることを意識しています。

今後の課題と目標

重度障がい者のケアホーム生活につながる、グループケア型ショートステイを実施したいと思っています。制度面や設備など、多くの検討課題がありますが、これから試行錯誤を繰り返していきます。

協働 カテゴリーされない福祉、分野を越えてつながる活動

エスタスカーサでは、異なる立場の人々がともに過ごすことの大切さを重視し、「誰でも、いつでも温かく受け入れ、一人ひとりの日常生活をサポートできる場所」として、訪れる方にとってなくてはならない場所であり続け、また、訪れた方それぞれが、そこに必要な存在となれる場所をつくっています。

交流スペースにおける日々の活動は、料理教室やフラワーアレンジ教室、ベビーマッサージ、季節の行事など、日常生活の延長線上にあるものが多く、サービスありきではなく、そこにいる人が必要とすることや、やりたいと思うことが自然と生まれていくプロセスを重視しています。

2011年度に取り組んだ「エスタスカーサつながるプロジェクト」では、福祉・農業・環境・被災地支援等、多種多様な9つの団体・個人が連携し、交流イベントや体験学習を実施。さまざまな人との関わりの中でネットワークが生まれ、それぞれが社会の課題に対し幅広く活動を行うことができました。

今後も、他組織との連携においてはさまざまな可能性が考えられますが、協働は固定されたプログラムではないと考えているので、まずはこの場所に来て雰囲気を感じていただき、対話を通じてお互いに必要なことは何か？を考えることから始めたいと思っています。

団体から一言：エスタスカーサの歴史はたくさんの挑戦と失敗の繰り返しです。現状だけでなく、これまでの経緯も含めて知っていたらいいと思っています。



▲ 餅つきの様子



▲ ロケットストーブづくり



▲ ecoマルシェ



▲ 施設視察報告会

お餅つきに参加しましたが、障がいのある方、高齢者、地域の親子などが自然に集まってゆるやかに関わる、とても雰囲気の良い時間を過ごせました。



わたしが聞きました
ナガタ ケンサク
永田 賢介
NPO 法人アカツキ
代表理事



あんたも わしも おんなじいのち

認定 特定非営利活動法人

北九州ホームレス支援機構

<http://www.h3.dion.ne.jp/~ettou/npo/>

主な活動エリア：北九州市、下関市、福岡市



この人に聞きました



モリマツ ナガオ
森松 長生【常務理事】



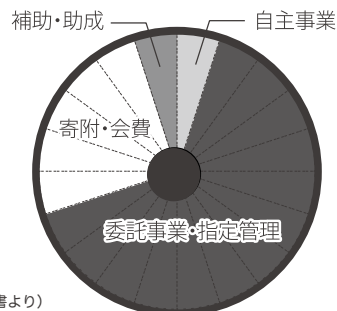
ホームレスを生まない社会を創造するために

1988年、カトリック教会関係者と福岡日雇労働組合員による野宿労働者の調査を、おにぎり持参で行ったのが設立のきっかけです。ホームレスのいのちと人権を守り、自立を支え、自立した人たちの再ホームレス化を防ぐとともに、ホームレスを生み出さない社会づくりを目指して、「いのちを守る基礎的支援」「自立支援」「ホームレスを生まない社会の形成」の3部門による事業を展開しています。

「いのちを守る基礎的支援」では、年間30回・6,000食以上の炊き出し、物資の提供や保健・医療支援を、「自立支援」では、相談・就労支援、自立支援住宅やホームレス自立支援センター北九州の運営、保証人バンク設立

特定非営利活動に係る収入

総額：276,796 千円



などを実施しています。また、課題の根源にアクセスする「ホームレスを生まない社会の形成」事業では、自立生活を送るための拠点づくり、ボランティアの養成、会報・講演会などによる支援者や地域社会への情報発信を実施。北九州市・福岡県・厚生労働省をはじめとした行政・大学・病院・一般企業・ボランティア団体などとの協働・連携によってホームレスを生まない社会の形成を推進しています。

ここをチェック！

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2008年度「ふくおか社会貢献活動表彰」NPO・ボランティア団体と企業との協働部門受賞
- 2009年・2012年NHK「プロフェッショナル」に代表・奥田知志出演

過去の助成・受託等実績（過去最大額のみ表示）

1 億 2,000 万円 北九州市「ホームレス対策推進事業」

主な年間スケジュール

- (※) 金……炊き出し・お弁当作り
- 毎月……バースディカード作り
- 9月……チャリティコンサート
- 10月……ゴーイング・ホームディ(運動会)

(※) 頻度は季節による

詳細はお問い合わせください。

物語 「ハウスレス」と「ホームレス」、2つの課題に立ち向かう

ホームレス支援機構の活動が、炊き出しや住居支援等の物理面だけに留まらない、関係性の再生を目指しているのは、90年代に小中学生の路上生活者襲撃事件が多発したことに起因します。学校へのヒアリングで判明したのは、心に行き場（ホーム）のなかった彼らが、皮肉にも、さらなる弱者を攻撃する行動に出たという事実でした。

また、当初「市民運動」の形から始まった組織が大きく発展の節目を迎えたのは、2000年のNPO法人化のタイミングです。「何のために法人化するのか？」ということについて、1年以上議論を重ね、「目的は野宿生活者の自立支援であり、組織形態はその手段である」ことを明確に仲間と共有しました。

それまでは「自分たちがやるんだ」という姿勢だったものが、社会的信頼性ととも外に開かれ、不動産屋・医療従事者・法律家・福祉関係者などと広くつながり、それぞれの得意分野を活かした市民協議会を形成したことにより、かつては、時に行政に対して“非難と対決”で関わってしまっていたものが、“対話と協働”に変化していったのです。

支援者とのコミュニケーション

ボランティアに対しては現場体験と責任を、寄附支援者に対しては情報提供を重視し、単に事実の列挙に留まらない、人にフォーカスした感動をお伝えできるように気を付けています。

今後の課題と目標

自立生活後に亡くなられる方も少なくないので、先回りではなく見守り型で実施するアフターケア・人生支援の充実を図るため、ヘルパー派遣や作業所との連携を進めています。

協働 人で支える、地域で支える、孤立させないセーフティーネットの構築

北九州市立大学との協働、北九州市からのセンター運営事業委託、全国規模でのホームレス支援団体の連携、株式会社サンキュドラッグ各店舗に設置されている募金箱でのマッチングギフト（募金額に企業が同額を上乗せして寄附する）制度や、社会福祉法人グリーンコープとの協働による無料低額宿泊施設「抱樸館福岡」の運営など、幅広い分野での協働を実現しています。

東日本大震災の支援においては、震災直後の3月から現地の支援活動に取り組んでおり、現在、ホームレス支援全国ネットワーク・グリーンコープ・生活クラブ生協の3者で「共生地域創造財団」を設立。また、官民協働により、東北からの避難者を北九州に温かく迎え入れるための「絆プロジェクト北九州」の中心を担い、被災された方々にとっての「第二のふるさとになりたい」という願いのもと、支援に努めています。

今後企業に提案したいプログラムとしては、有期パートタイムの研修制度です。ホームレス支援機構がニーズに合わせた能力のマッチング、生活面のサポート、段階的雇用設計をワンパッケージにしているため、リスクを減らし、また、勤労意欲の高い人材にアプローチすることができます。

団体から一言：関係性を失った社会の中で絆（きずな）を紡ごうとするが故に、時に傷（きず）つくこともあります。誰もが安心して暮らせる社会を一緒につくっていきましょう。



▲ 施設からの出発式



▲ 葬儀



▲ 追悼集会



▲ 炊き出し

「やりたいから」ではなく、時に「仕方なく」。それを使命と引き受け、人の人生に寄り添っていく真摯な姿勢に、支援者が惹きつけられる理由がわかりました。



わたしが聞きました
オダカ ケンサク
永田 賢介
NPO 法人アカツキ
代表理事



みんな自立を目指して、仲良く、自主的に

特定非営利活動法人

なおみの会

<http://nponaomi.main.jp/>

主な活動エリア: 直方・鞍手地域



この人に聞きました



タデヤマ トシヒロ
立山 利博[理事長]



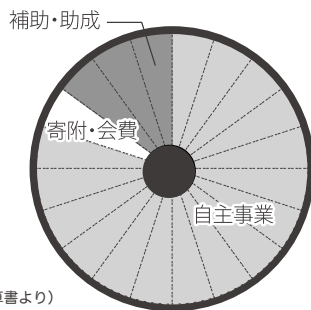
暮らし方と生き方をサポートする

直方・鞍手地域内の回復途上にある精神障がい者への自立生活及び就労の支援を目的とし、通所による作業訓練・社会生活訓練を通して、自立・社会参加の促進を図っています。

現在、運営する4つの作業所のうち2つでは、お菓子や米粉などの食品、石けんの製造・販売のほか、空き缶や古新聞などのリサイクル・資源回収事業を行っています。2008年度からは、軽食喫茶「廻音(ねお)」や「なおみ手づくり工房」において、障がいと付き合いながら、それぞれが自分らしく生きていけるような、時間をかけゆくりと働くことのできる環境づくりを行っています。一方、2010年より運営を開始した地域活動支援センター「サ

特定非営利活動に係る収入

総額: 68,044 千円



(平成 22 年度活動計算書より)

「なおみ」は、人との関わりが持てずに閉じこもっている人や長く入院していた人など心の病を持つ人々が、家庭から外へ出て社会参加する場や仲間と交流する場となっています。また、毎週日曜日に実施する「にちよう広場」では、家族会と職員がともに運営を行い、レクリエーションや調理会などを通して、参加者同士の積極的なコミュニケーションが生まれています。

ここをチェック！

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2012年度「ふくおか共助社会づくり表彰」協働部門賞 受賞
- 2012年 西日本新聞、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞 掲載他多数

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

200 万円 丸紅基金

主な年間スケジュール

毎週日… にちよう広場

月1回… 巡回家族会教室 (教室のない月は茶話会)

第1月… 精神保健福祉ボランティア「ゆいの会」参加

第1水… 作業所支援サークル

詳細はお問い合わせください。

物語 精神障がい者が住みやすいまちづくりを目指して

精神障がい者を取り巻く環境は、ここ数年で少しずつ進んでいます。精神障がい者の社会生活・社会活動が進み、家族から離れた一人生活への願望や一般就労のニーズも高まりを見せています。一方で、障がいに対する差別感根強く、家に閉じこもるしかない方たちが数多く存在します。家族の意向もあって、地域生活への移行がなかなか進まず、保護者を亡くした後や、保護者が高齢により支援能力をなくした場合などに、入院や施設入所をせざるを得ないのが多くの実態です。

1992年、なおみの会の原点でもある家族会は、行政の制度の範囲では支援が難しいけれど、社会復帰が可能である精神障がい者に対し支援を行うため、家族に精神障がい者を持つ方たちによって設立されました。現在では、「なおみの会」として雇用の機会を提供し、時間をかけ緩やかに社会への復帰をサポートしています。また、精神障がい者が住みやすいまちづくりを目指して、障がいに対する理解促進や啓発活動を行うなど、精神障がい者福祉を取り巻く現状が少しでも改善されるようにと活動を広げています。

支援者とのコミュニケーション

定期的に会報を発行するほか、支援者と団体職員がともにイベントを企画することで、支援者とのつながりを大切にしています。支援者による福祉ボランティア「ゆいの会」も生まれています。

今後の課題と目標

企業の協力を得て精神障がい者の雇用機会を増やすと同時に、行政とも協力しながら工賃の向上を目指しています。また、グループホームやアパートでの暮らし方の支援をしています。



企業とともに魅力的な製品を

直方市との共同企画において、従来事業者向けに販売を展開していた地元産米粉を、家庭用としても販売開始。市はレシピコンテストなどの実施により消費拡大に協力するなど、地域一丸となった取組を展開しています。

企業との協働では、トヨタ自動車九州株式会社と、車両製造時に廃棄処分されていた最高級革シートの端材を、ブックマークなどの記念品に加工し、お客様に贈る取組を2009年から行っています。革製品の専門家からトレーニングを受け、高品質な製品を生み出しています。この事業は成果が認められ、2012年度「ふくおか共助社会づくり表彰」協働部門賞を受賞しました。昨年度からは、トヨタ自動車九州株式会社の初任者研修の一環で、社員を作業所のボランティアとして受け入れています。そのほか、株式会社ゼロプラスとともに、障がいのある方の雇用機会をつくるなど、企業との協働は広がっています。

また、作業所の設立など事業拡大の際には、絵画展や映写会といったイベントやキャンペーンを通して、積極的に市民からの支援を募り、資金調達に取り組んでいます。

団体から一言：障がいを持つ方が地域に参加することができる環境を、企業や行政、さまざまなセクターの方々とともにつくっていきたい。



▲ 第一作業所でのクリスマス会



▲ 第二作業所による「宮若市追い出し猫横丁まつり」の参加



▲ 軽食喫茶廻音での友近890ライブ



▲ サロンなおみでの仲間交流会

障がいを持つ方を地域で支え、生き方と暮らし方を支援する真摯な姿に非常に感銘を受けました。



わたしが聞きました
マツシマ タクミ
松島 拓
NPO 法人アカツキ
事務局長



しょうがい者もけんじょう者もいっしょに楽しく生活できる思いやりスペース作りを目指して

NPO法人

はあとスペース

http://blog.livedoor.jp/heart_space/

主な活動エリア: 福岡県、大分県



この人に聞きました



山本 美也子 [理事長]



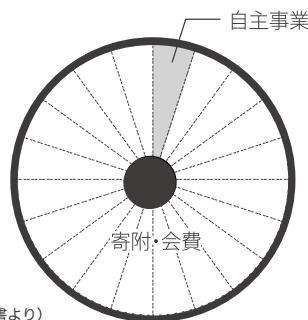
「あなたの思いやり」が止める!! 飲酒運転

はあとスペースの活動は、車いす優先駐車場の利用マナーに対する問題意識から生まれました。優先駐車場を健常者が日常的に使用している光景を見て、「停めない人を増やす」という視点でマナー啓発活動に取り組んでいましたが、現在は飲酒運転撲滅運動にまで範囲を広げ、「ドライバースマナーアップ運動事業」として統合し、活動を進めています。

講演会や街頭活動にて地道に活動を続けながら、マナー啓発のオリジナル「モラルステッカー」を制作。車いす優先駐車場マナー啓発運動や、「STOP!! 飲酒運転」に協力いただける法人や個人に向けて配布し、主に車に貼り付けることで、社会に向けて「車いす優先駐車場に

特定非営利活動に係る収入

総額: 1,851 千円



(平成22年度活動計算書より)

停めない」「飲酒運転をしない」という意思表示をしてもらっています。

障害者アスリート支援事業では、輝いている障がい者アスリートの講演会やジュニア育成教室を行っており、リハビリとしてだけでなく、未来のプロアスリートの育成のためにきちんとしたコーチや資金的な支援が必要であるとの理解を広め、また小・中学生に直接関わることで、障がいについての学習機会にしてもらいたいと考えています。

ここをチェック!

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2012年 NHK「特報フロンティア」「目撃日本列島」にて活動の密着取材番組放送
- 2013年 飲酒運転撲滅活動優良取組表彰受賞

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

なし

主な年間スケジュール

- 奇数月… 障がい児スポーツ教室スポッチャ(福岡)
- 偶数月… 障がい児スポーツ教室スポッチャ(大分)
- 毎月… 飲酒運転撲滅街頭活動
- 8月… 福岡市飲酒運転撲滅イベント「TEAM ZERO FUKUOKA」参加

詳細はお問い合わせください。



物語 命を大切にする、 被害者も加害者もつくりたくない社会へ

元々看護師だった山本美也子さんが、車いすマラソンの世界的選手である夫・浩之さんや、PTAのお母さん仲間と一緒にスタートさせた活動で、現在では、駐車マナーの啓発と障がい者アスリートの支援を事業の中心とするNPO法人として運営しています。

2011年2月に山本さんは息子である寛大さんを、飲酒運転の車による交通事故で突然亡くされました。以来、活動の範囲を「ドライバーズマナーアップ」へと広げ、飲酒運転撲滅を呼びかける活動に力を入れることにしました。講演回数は2年間で約150回、また、オリジナルの「STOP!!飲酒運転」ステッカーは福岡県トラック協会の協力により、事故後100日目には1万枚、その後もたくさんの方々から問い合わせがあり、現在は4万枚を配布しています。

インターネット上では、その活動に対して心ない言葉で傷つけられることも少なくなかったそうですが、山本さんは、「仲間がいたから悲しみを受け止めることができ、息子のために何かしなければと勇気付けられ、元気になった」と言います。



支援者との コミュニケーション

頻繁なブログの更新による情報発信を行うほか、活動報告のニュースレターを協賛企業に配布して回るなど、支援者との丁寧なコミュニケーションを心がけています。



今後の課題と目標

倉庫を改築したフリースペースを、障がい者や地域の人たちが自由に使える場にする、また、独自の事業収入を増やしていくことを考えています。



協働 企業とNPOの利益が一致し、 社員の意識にも変化の生まれる協働

中古車買取・販売等を行うアラジンなど、地域企業の積極的な支援を受けて、協賛企業のネーム入りの反射横断幕とポケットティッシュを制作しています。これらは講演会や月1回の街頭活動の際に使用しており、社員の方が直接活動現場に参加してくれることもあるそうです。

協賛企業に対する活動報告は直接訪問によるもの、メールによるもの、どちらにも工夫をしており、お金をもらって終わりではなく、社内の担当部署以外にも、社会貢献活動が認知・共有され、そこからドライバーズマナーアップが広がっていくことを期待しているそうです。

九州キリンビバレッジサービス株式会社からの提案により、売り上げの一部が設置先から団体の飲酒運転撲滅活動に寄附される支援自動販売機が開発され、福岡県内外の50ヶ所以上に設置されています。ここでの寄附金は、福岡県警と連携し「いのちの授業」を実施した12校の高校3年生に、「STOP!!飲酒運転」ステッカーを配布する「次世代配布プロジェクト」のために使われており、これから運転を始める若者に、毎年確実に啓発し続けるシステムの構築を目指しています。



▲ ロンドンパラリンピックへの出場



▲ キッズスポッチャにおける子どもたちのレース



▲ 福岡県トラック協会の交通安全運動



▲ 福岡市役所前のオリジナル自販機

「ダメ×(ばつ)」という否定ではなく、「思いやり・ハート」といったポジティブなメッセージが、活動の広がりのポイント、山本さんのお人柄だと感じました。



わたしが聞きました
ナガノ ケンサク
永田 賢介
NPO 法人アカツキ
代表理事

団体から一言：人の命も、自分の命も大切に。みんなと一緒に、未来を担う子どもたちと一緒に、活動を広げていきたいと思っています。



「時間」、「空間」、「仲間」3つの「間」づくりをコンセプトとした障害者福祉

特定非営利活動法人

まる

<http://maruworks.org/>

主な活動エリア：福岡市を拠点に日本各地



この人に聞きました



ヨシダ シュウイチ
吉田 修一[理事/事務局長]



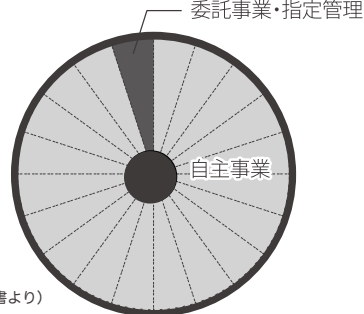
「障がい者」と「健常者」を区切る ることのない社会に向けて

対話や経験を繰り返すための「時間」、人々が集い、それぞれの可能性を広げることができる「空間」、考えを共有し、刺激し合える「仲間」。まる は、この「3つの『間』づくり」をコンセプトとした障がい者福祉を基本としています。

障害福祉サービス事業においては事業所「工房まる」を運営し、食事や送迎などの日常「生活」介助やサポートのほか、個性を活かした創作活動やグッズ制作販売といった「仕事」の機会の創出、リラクゼーションやマッサージ、医療機関と連携した健康チェックなどの「ケア」という3方向からの包括的な支援を行っています。「仕事」では全国各地で展覧会を開催するなど、活動の

特定非営利活動に 係る収入

総額：75,847 千円



(平成22年度活動計算書より)

フィールドは福岡市内だけに留まりません。オンラインショップ「maru works web shop」を開設し、オリジナルグッズの販売も行っています。

コミュニケーション創造事業「maru lab.」では「工房まる」での実践的価値を社会的価値に置き換えるべく、障がいのある人のアート活動をテーマにしたセミナーの開催や展覧会・ワークショップの企画運営など、他のNPO団体や行政・企業・教育機関と協働して行っています。

ここをチェック！

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

● 2012年「ときめきセレクション2012」金賞受賞(工房まる)

● 2012年天神IMSに期間限定ショップ「DecoMARU (デコマル)」をオープン(工房まる・maru lab.)

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

350 万円 福岡市共働事業提案制度による障がい者アートプロジェクト(maru lab.)

主な年間スケジュール

通年……創作活動、グッズ製作販売、展覧会・イベント等企画開催、各行事

1月……「ときめきアート展」(maru lab.)

2月……「lifemap」(maru lab.)

詳細はお問い合わせください。

物語 じっくりと、分かり合う余白を 積み重ねてゆく

かつて大学の芸術学部で写真を専攻していた吉田さんが、「障がい者福祉」に関わるようになったきっかけは、卒業制作で「障がいのある人」にテーマを絞り、養護学校で写真を撮影したことでした。

学校で小さな頃から「差別はダメだ」「仲良くしなさい」と教えられ、頭では分かっている、実際の社会では、障がいのある人となない人が教育や労働、地域の場など多くのコミュニティでともに過ごすことはほとんどない。そして個性ある一人の人間として存在していることさえ、その認識を希薄にさせている。吉田さんは、写真を撮るという行為を通して、じっくりと障がいのある人との「場」と「時間」を積み重ねること、そして「個」を知ることが、差別や偏見などさまざまな問題を解決していくのではと思いついたとのこと。

出会ってすぐにお互いを理解し合うのは、言葉を紡げる私たちにですら難しい。ましてやコミュニケーションが難しいからこそ障がい者と呼ばれる人たち。初めは小さく、ゆっくりとした機会と接点を準備することが交流の大事なポイント、それがまるの大切にしている「間」になります。

支援者との コミュニケーション

イムズやリパレインなどの商業施設において、多くの人の目に触れる活動をする中で、障がいに対する理解を社会の中に広げ、支援者からは「まるも有名になったね!」などと、喜んでもらっています。

今後の課題と目標

施設運営事業では、拠点を拡大すること、ケアホームなど暮らしの場を増やすこと。コミュニケーション創造事業では、委託や助成金に頼らない自立事業として成り立たせることが課題です。

協働 足りないから補い合う、 そこから生まれるのが「豊かさ」

まるは、障がい者問題は突き詰めると社会に横たわる大きなものではなく、個対個のコミュニケーションにあると考えています。そこに障がいのある人自身が表現するアートが大きな役割を果たします。いきなり面と向かうと、どう接して良いか分からず構えてしまうけれど、作品を目にすることで、内面など何かしらその人の思いや存在を感じることができる。それがコミュニケーションの始まりであり、「障がい者」ではなく「〇〇さん」という個人を知ることができるからです。

そしてまるでは、そんな個性のある人と人が違いを越えて、どのようにコミュニケーションを図っていけるかという試行錯誤を常にしています。例えば仕事で、障がいのある人とチームで働く状況になったら、お互いの不得手を補い合うためのいろんなアイデアが集まり、議論が始まる。それはとても豊かな状態だと考えています。

現在、企業からの依頼・発注に対する制作事業もありますが、多様性のあるコミュニケーションがクリエイティビティを発揮し、企業の力を高めていく取組であると位置付け、今後は企画段階から障がいのある人とともにプロジェクトに関与させてもらうことを積極的に推進していく予定です。

団体から一言：障がいのある人が学ぶ場や働く場、そして地域、街などさまざまなコミュニティにコミットでき、「個」の存在として尊重されるのが日常である社会をつくっていきます。



▲ 絵画制作



▲ 木工品製作



▲ 陶芸品製作



▲ 朝の体操の様子

障がいを持つ人たちとスタッフの遊び心が、活動や作品に現れていて、「これがお互い本当にフラットな関係なんだ」と感じました。



わたしが聞きました

中里 朝日香
フリーデザイナー・イラストレーター「スカイハイ・イツオーケストラ」



みんな働けてみんな生きれるユニバーサルな街づくりを

特定非営利活動法人

大牟田市障害者協議会

<http://www.hotkan.jp/>

主な活動エリア：大牟田市、柳川市、みやま市



この人に聞きました



オオバ カズマサ
大場 和正 [理事/事務局長]



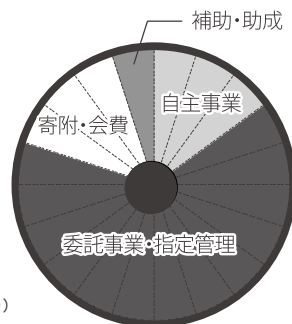
概要 ほっとかん 障がいのある人々が働きやすく暮らしやすい街を望みます

身体・知的・精神の3つの障がいと、当事者・その家族・支援者という3つの立場を越えて、大牟田市内の25の団体・施設のネットワークによって設立されました。各福祉団体や施設単独では対応しきれない案件を、カテゴリーにとらわれずつなぐことで課題を総合的に解決しています。近年では、障がい児の登下校において家族をサポートする活動や、自身の症状をうまく伝えられないことから、病院へ行くことを止めてしまう発達障がいの方へのコミュニケーション支援、医師会と協力して病院側の理解を深める活動などを行っています。

ハローワークなどとも連携しながら、企業ニーズに合った適性を持つ障がい者を紹介する方式を取って

特定非営利活動に係る収入

総額：91,401 千円



(平成 22 年度活動計算書より)

り、障がい者就労支援の「ワンストップ窓口サービス」を目指して、行政及び一般企業からの依頼を一手に受けて、コーディネートや各加盟団体への斡旋を行っています。

今後は企業との協働によって、障がい者の雇用拡大という「社会貢献」と「収益増加」を同時に実現させていくような、ビジネスモデルの開発を検討しています。

ここをチェック！

◎ 広報ツール

Web tw FB MM 広誌

◎ 連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

◎ マネジメント

会基 税士

◎ アピールポイント

● 2007年「障害者雇用と職業的自立への寄与について」福岡県知事より感謝状

● 2012年度「ふくおか共助社会づくり表彰」協働部門賞受賞 (東日本大震災復興支援〜絆〜プロジェクトおおむた)

◎ 過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

4,900 万円 大牟田市リサイクルプラザ
資源物手選別業務委託

◎ 主な年間スケジュール

随時…………… 障がい児の登下校支援
随時…………… 発達障がいの方の医療受診支援
年1回(2~3ヶ月)… ボランティア講座
12月…………… 人権セミナー

詳細はお問い合わせください。



一緒に暮らしてきた家だから、思い出いっぱいの町だから、ずっとここで生きていきたい

特定非営利活動法人

緩和ケア支援センターコミュニティ

<http://www.kanwa-care.jp/>

主な活動エリア：福岡県



理事長の笑顔



ヒラノ ユリコ
平野 頼子【理事長】
看護師・ケアマネージャー



これからの高齢化社会において、なくてはならない存在として

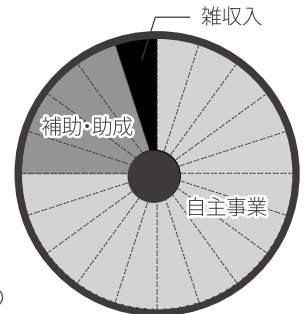
高齢や病気、障がいなどの理由により、緩和ケアを必要とする方々が、住み慣れた地域の中で安心して最後まで暮らすことができるよう、24時間対応の訪問介護ステーション及び通所ケアを行い、一人暮らしの高齢者も安心して療養できる居場所を提供するとともに、在宅介護を行う家族のためのレスパイトケアも実施。利用者一人ひとりを尊重した包括的・継続的な支援に努めています。

また通常の事業に加え、職員が地域ボランティアに積極的に協力するなど、安心できる地域コミュニティと交流の場づくりも展開しています。

2007年度より3年間、福岡県との協働により「在宅ホ

特定非営利活動に係る収入

総額：147,253 千円



(平成 22 年度活動計算書より)

スピスボランティア養成事業」を実施。また2008年度には福岡市の補助事業として「地域密着型サービスに関する調査研究実行委員会」の事務局を担い、現在も、福岡市保健福祉総合計画の中で進められている、「福岡型地域包括ケアシステム」の構築に携わっています。

行政との連携により、公共性の高いケアの仕組みの構築を進める一方、地場の金融機関からの融資・完済実績を持つなど、事業性の高さも実証されています。

ここをチェック！

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2007年「FUKUOKA在宅ホスピスガイドブック」(木屋舎)共同制作・発行
- 2009年 財団法人笹川医学医療研究財団「岸和田桂子基金」寄附金受賞

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

3,659万円 福岡県緊急雇用創出事業
訪問看護師確保支援事業

主な年間スケジュール

通年……各種研修講師
3月……在宅ホスピスフェスタ

詳細はお問い合わせください。



すべてのチャレンジドとその保護者の力になりたい!

特定非営利活動法人

クックルー・ステップ

<http://kukkurustep.moo.jp/>

主な活動エリア: 福岡市とその近郊



理事長 古賀 裕子



古賀 裕子 [理事長]

団体基礎データ

- 設立年: 2005年(法人化2006年)
- 代表者: 古賀 裕子(理事長)
- 主たる事務所所在地:
福岡市中央区警固2-16-6-306
- 電話番号: 092-739-1530
- E-mail: kukkurustep@ly.moo.jp
- 職員: 常勤2名/非常勤15名
- 理事: 30~40代
- 会員: 約130人(2歳~70代、子ども、保護者、支援者)
- 主要事業:
障がい者に対する福祉サービス並びに福祉事業に関する情報提供及び情報交換



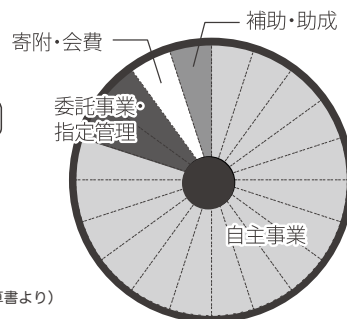
概要 チャレンジド・kidsとともに一歩ずつ いろんなことに挑戦していきたい

チャレンジド・kids(障がい児)とその保護者、そして支援者が協力し合い、情報共有や交流の場を設け、「心身ともに豊かな生活ができるように」という願いのもと発足。障がい者の問題を社会全体で共有することが、全ての人の自立を支える地域社会の実現につながると考えており、またそのことは、今後の高齢化社会においても大切であると捉えています。

団体設立のきっかけとなった「クックルー通信」は、現在も年4回の発行を続けています。障がい児を取り巻くさまざまな課題や、身近なイベントなどが掲載され、福祉従事者の研修でも活用されるほどの専門性の高さを持っています。その通信の中の子どもたちの成長日記な

特定非営利活動に係る収入

総額: 16,923 千円



(平成22年度活動計算書より)

どをまとめ、写真も掲載した「君のポケット」も出版しました。

トヨタハートフルプラザ福岡と協働で開発した、車いす用カバー「ヌレント」は、障がい児の親の「困った」を製品化した商品で、全国販売しています。

子どもの身体の状況に応じた入浴・排泄・食事などの介助を行う居宅介護や、ヘルパーの付き添いにより外出を援助する移動支援、短期入所・日中一時支援等の事業も展開しています。

ここをチェック!

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 「君のポケット(株)フラウ」出版
- 2009年度「ふくおかを元気にする共助社会づくり活動表彰」地域貢献活動部門賞受賞
- 2010年 第7回パートナーシップ大賞・パートナーシップ賞受賞

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

209 万円 福岡県NPO・ボランティアセンター
情報誌「Con te」制作業務委託

主な年間スケジュール

通年…… クックルー通信(年4回発行)

7~8月…… 夏あそび

12月…… クリスマス会

詳細はお問い合わせください。

本団体と企業による協働の取組の詳細は、「新しい協働のケース100~これからの社会活性化のヒント~」にも掲載されています。



人、場所、社会とのつながりを大切に

NPO法人

こもんはうす

<http://common-otto.org/>

主な活動エリア: 福岡市



オカモト エリミ
岡本 恵利美 [理事長/施設長]
介護福祉士、ヘルパー2級、ガイドヘルパー

この人に聞きました



社会と人のある壁を外し、外に開いてゆく

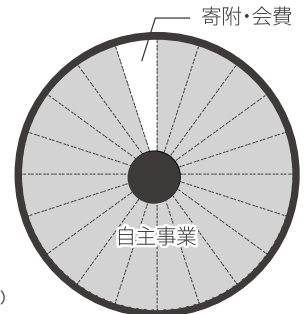
障がい者が家庭の中だけではなく、地域と人の関係性の中でいきいきと生活できる環境づくり・地域社会づくりを目指して活動しています。

こもんはうすが運営する福祉作業所「otto (オート)」には、一般就労が難しい障がいを持つ方たちが集まります。仕事そのものや売り上げが目的ではなく、モノづくりの仕事を通して「待つこと」や「声を出すこと」など、みんなで協力し合うことを体験として身に付けていきます。さをり織りやスウェーデン刺繍などのカメラケースやポーチ、また、鮮やかな色彩と独創的なデザインのカレンダーは、地域や企業の協力を得て開催するバザーや、団体Webサイト上で販売されています。



特定非営利活動に係る収入

総額: 37,171 千円



(平成 22 年度活動計算書より)

ottoでは、「一人ひとりの持つ可能性は、他者との出会いやつながりによって広がっていく」と考えており、日々の商品製作・販売以外にも、社会人の音楽ボランティアやいろいろな方が立ち寄り、地域に出て行くイベントを行うなど、常に外に開かれた姿勢を持っています。それは、作業所の明るい木の壁と、大きな窓ガラスにも表れているように感じられます。

ここをチェック！

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2012年度「ふくおか かつぎて けいかく (福岡県版プロボノ)」を通じて協働でWebサイトを制作
- 2012年 KBCラジオ「ぱお〜ん」に代表・岡本恵利美出演

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

2,000 万円 福岡県障害者自立支援基金整備事業補助金

主な年間スケジュール

2月……… 喫茶 otto
8月……… 夏祭り
10月……… ボッチャ交流会
11月……… 作品展 MORE !!

詳細はお問い合わせください。



数学や科学の分野における視覚障がい者支援をしています

認定 特定非営利活動法人

サイエンス・アクセシビリティ・ネット

<http://www.sciaccess.net/jp/>

主な活動エリア：福岡市、東京都、海外（製品販売）



この人に聞きました



スズキ マサカズ
鈴木 昌和【理事長】
九州大学数理学研究院名誉教授



視覚障がい者のための、 世界最先端情報処理技術

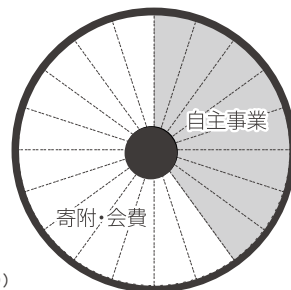
視覚障がいを持つ人たちの情報アクセシビリティ向上に取り組んでいます。数式や図表など、コンピュータの情報処理技術の点において、文系分野に比べると充分とは言えない理系分野の学習、情報へのアクセス環境を課題と捉え、数式や図表のOCR認識ソフトや数式対応の自動点訳エディタソフト、複雑な数式を含んだ文章を音声で読み上げる機能が付いたエディタソフトなどの開発と販売を行っています。2011年度は海外の教育機関等での販売実績が大きく伸びました。

このほか、理系分野に関心を持つ視覚障がいのある中学生や高校生を対象に、科学実習体験のサマーキャンプを開催。孤立しがちな生徒本人はもとより、保護者



特定非営利活動に係る収入

総額：5,431 千円



(平成 22 年度活動計算書より)

や指導者、そして支援者同士の支え合いの輪の構築にも貢献しています。

大学の研究組織からスタートした団体であるため、社会福祉法人日本点字図書館との協働など、産学連携の分野に強いのが特徴です。企業との協働においては、単純なOCRデータのチェックから、その効率的な作業分担体制を構築するクラウドシステム開発まで、さまざまな協働が可能と考えています。

ここをチェック！

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 科学ヘジャンプ・サマーキャンプ
2008報告 (182頁、400部)
- 科学ヘジャンプ・全国ネットワーク
事務局 (<http://www.jump2science.org/>)

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

220 万円 三菱財団社会福祉助成

主な年間スケジュール

6・11月 …… 科学ヘジャンプ・IT講習会

11・12月 …… デイジーコンテンツ研修(※)

8月 …… 科学ヘジャンプ・サマーキャンプ

(※) = ある程度専門知識のある有償プロボノ限定

詳細はお問い合わせください。



自立と自律をキーワードに、ホームレスの就労と自立した生活を支援

NPO 法人

福岡すまいの会

<http://www2.ocn.ne.jp/~homeless/>

主な活動エリア: 福岡市



この人にもあった



ヨコミズ タカヒロ
横溝 高廣 [理事長]



概要 自立と自律に向けて、 きめ細やかに人と向き合う

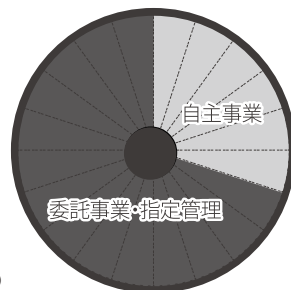
ホームレスが住居を手に入れ社会生活を営むことが、生命や健康の維持、年金の受給や就労など自立への第一歩だとする「ハウジング・ファースト」の理念のもと、就労支援・健康相談・金銭管理などの日常生活支援等も含めて行うサポートホームを設立、運営。入居者を再び路上生活に戻させないことを第一に活動しています。また、2009年に福岡市が開所した「就労自立支援センター」の運営を受託し、専門の相談員や指導員が、入所者の自立に向けた効果的な支援を行っています。

このほか、歯科医師が中心となって設立したNPO法人ウェルビーイングと協働で歯科相談を実施、障がい者手帳を取得していないことで支援を得られず、ホームレス



特定非営利活動に係る収入

総額: 111,477 千円



(平成22年度活動計算書より)

状態となってしまった人に対する手帳取得の援助、障がい者のためのグループホームの運営など、多角的なサポート体制を構築しています。

以前はリストラされた50代前後の相談者が多かったですが、最近は派遣切りに遭った20代・30代のホームレスが増えています。誰もが突然、路上生活者になりうる現代社会の中で、「最後のライン」を担う意識で活動を続けています。

ここをチェック！

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2008年 発足5年記念報告書「すまいの会 あゆみIV」発行
- 2010年 JR九州博多駅タイル画アート計画 寄附先選定

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

8,700 万円 福岡市就労自立支援センター 運営委託

主な年間スケジュール

夏……バーベキュー or 旅行

詳細はお問い合わせください。



精神障害者の自立と社会参画につとめています

特定非営利活動法人

宗像コスモス会

http://www.fukuseiren.com/facilities_detail/diary.cgi?no=7

主な活動エリア：宗像市、福津市、岡垣町



この人に聞きました



アサダ ユカ 浅田 由香[支援員]



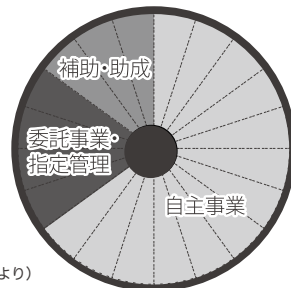
障がい者が安心して暮らせる街づくりの実現に向けて

社会の精神障がい者への理解がまだ少なかった時代に、地域の当事者家族会が立ち上げた団体です。ストレスなどで精神に障がいを抱えた人たちの社会的自立に向けた訓練を行っており、作業所での仕事を通して、「規則正しい生活リズム」「仕事の段取り」「他者とのコミュニケーション」などの力を取り戻していくことを目指しています。

作業所では、石けんやアクリルたわしの製作、麺製品の箱詰め、また公共施設の清掃等を請け負うこともあります。2009年からはトヨタ自動車九州株式会社との協働により、廃棄処分されていたレクサス用の最高級革シートの端材を有効活用し、巾着袋などの記念品として加工

特定非営利活動に係る収入

総額：38,878 千円



(平成22年度活動計算書より)

しました。現在は「むなかた地域農業活性化機構」の助成を受け、宗像産の米粉を使用した、無添加オリジナルケーキの開発と販売を行っています。

このほか、地域活動支援施設「ひだまり」を運営しており、作業所の利用がまだ困難な方のためのステップアップとして、ボランティアとおしゃべりや、カラオケ、食事などの居場所の提供を行っています。

ここをチェック！

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

● 2011年 厚生労働大臣表彰(精神保険福祉事業の推進について)受賞

● 2012年度「ふくおか共助社会づくり表彰」協働部門賞 受賞

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

2,000 万円 福岡県障害者自立支援基盤整備助成

主な年間スケジュール

月1回…… ふれあい喫茶

隔月…… 家族のつどい

12月…… クリスマス会

3月…… コスモス会祭り

詳細はお問い合わせください。





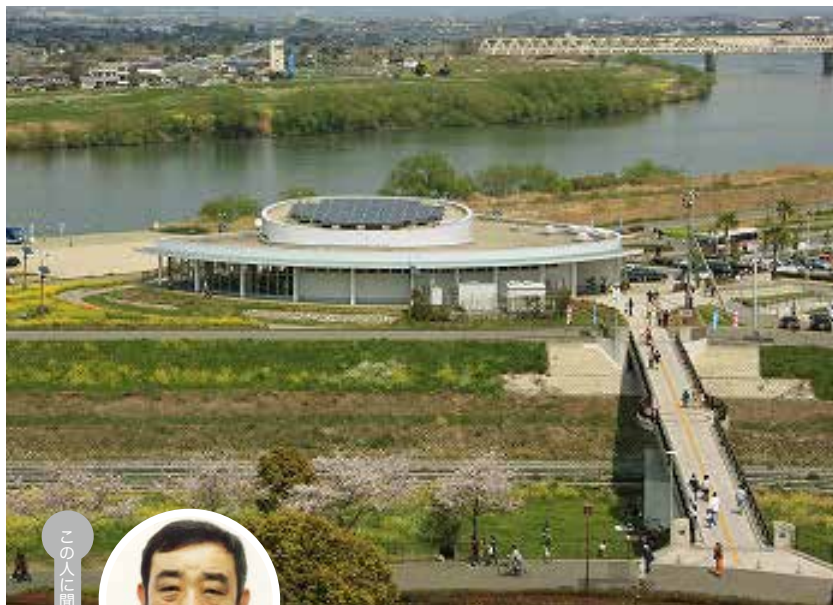
豊かで持続可能な地域づくり

特定非営利活動法人

筑後川流域連携倶楽部

<http://ccrn.jp/what/what.htm>

主な活動エリア: 筑後川流域



この人に聞きました



ダタイ ラダシ
駄田井 正 [理事長]
久留米大学 経済学部 教授



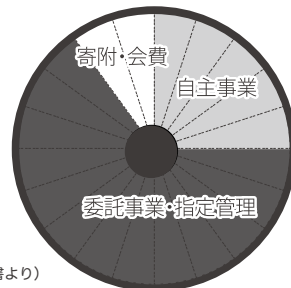
流域で人をつなぎ、まちを元気にしていく

地域連携を深めるための情報交換と人的交流を促進することによって、流域圏における自然環境の保全と、流域全体の活性化を目指して発足。現在では、筑後川流域で活動する約50団体をネットワーク化した組織となっています。

活動の柱となっているのは、「筑後川流域フェスティバル」などのイベントの実施や、情報誌「筑後川新聞」の発行です。このほか、久留米市からの委託事業として、筑後川防災施設「くるめウス」の管理運営も行っています。筑後川流域を一つの資料館として、歴史・文化等の観光や産業等の情報を流域内で共有化することにより流域の活性化を図る、「筑後川まるごと博物館構想」は、2003年

特定非営利活動に係る収入

総額: 26,181 千円



より本団体から独立した運営委員会が活動を展開中です。

流域経済の自立と、人的ネットワークの相互扶助を目的に、エコ・マネー「カップ」を発行。草刈りや、植林、河川清掃活動を行ったボランティアに対して支給され、地域の温泉や喫茶店、フリーマーケットで利用できるほか、会員相互でも交換が可能となっています。

ここをチェック！

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

● 2005年 全国地域づくり誌コンテスト 最優秀賞受賞 (筑後川新聞)

● 2006年 第8回「日本水大賞」厚生労働大臣賞 (筑後川まるごと博物館運営委員会)

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

1,750 万円 くるめウス管理運営委託 (久留米市)

主な年間スケジュール

随時…… 三大河川交流会議

第2土…… くるめウス河川清掃

8月…… 筑後川花火大会翌朝清掃「クリーンアップ筑後川」

10月…… 筑後川フェスティバル

詳細はお問い合わせください。



物語 日本の社会システムに、流域から変化をつくっていく

筑後川流域連携倶楽部は、現在理事長である駄田井さんが代表を務める、「久留米大学経済社会研究所」が開催していた研究会に、「九州地方整備局筑後川河川事務所」「社団法人北部九州河川利用協会」と、まちづくり会社「株式会社九州文化技術研究所」が参加したことを契機に1996年にスタートしました。

駄田井さんの考える日本の大きな問題点は、地域による過密・過疎と少子高齢化であり、社会システムが疲弊している今、その対応は全国規模ではなく、道州制も視野に含めた地方分権によることが必須だと当時から捉えていました。そしてそれを実施するには行政区画ではなく、古くは古代文明の時代から文化・経済のまとまりをなす「流域単位」が日本の風土には最も適しているとし、「筑後川流域連携倶楽部」の活動を始めました。

川と水の力はそれだけに留まらず、イベントにおいて障がいのある方や認知症の方を川辺に連れて行ったり、また水に浸かってもらったりすると元気になったという事例もあります。医療・教育・福祉などさまざまな方面への可能性を持つ活動には、地域のさまざまな分野・年齢の人材が集まっています。

支援者とのコミュニケーション

久留米大学との共催により毎年公開講座を開催しています。講座とフィールドワークから、地域に関するレポートを提出してもらい、受講者はその後ガイドや講師などで活躍することもあります。

今後の課題と目標

2012年に実現した、利根川、筑後川、吉野川という「日本三大暴れ川」での兄弟縁組締結を発展させ、単一地域を越えた観光や物産展の展開に力を入れていきます。



協働 環境と経済の両立・統合 地域文化を活かす

地域の情報連携の中核を担う「筑後川新聞」は、活動の当初は記事編集の面において、株式会社西日本新聞社の協力を得て制作・発行していましたが、徐々に団体側の作業割合を増やし、現在は完全に独自の原稿と写真にて、B4フルカラー8面、年間6回2万5,000部の発行を継続しています。

近年は特に、流域全体を、川と水を主題とした自然のテーマパークとして捉えた「筑後川まるごとリバーパーク」事業に力を入れており、国土交通省や流域の各観光協会のバックアップを得て、企業や伝統工芸・農家・公的施設等が多く参加しています。画一的な開発を行うのではなく、筑後川の各支流の流域ごとに、景観・自然資源・歴史・衣食住等、特色を明示しゾーン分けをすることで、環境と経済を統合させることができ、また移動ポイントを「道の駅」「まちの駅」「川の駅」と名付け整備し、カヌー、ハイキング、サイクリング等の手段を連動させることで多様なツアーコースを形成し、海外からの長期滞在や、都市部からのリピーターを確保することを狙っています。

企業からの支援としては、取水する筑後川の水環境への恩返しとして、キリンビール株式会社や株式会社ブリヂストンからの寄附を受け入れるなどの実績があります。

団体から一言：筑後川流域から、九州から、日本の地方経済を、循環型で持続可能なものに変えていきます!!



▲ 筑後川フェスティバル



▲ 公開講座「筑後川流域講座」



▲ 筑後川クリーンアップ支援隊



▲ 三大河川の兄弟縁組式典

懐古主義ではなく、新しい経済システムとして捉えられた環境保全やまちづくりの取組と成果に、他地域展開にも大きな可能性を感じました!



わたしが聞きました
ナガタ ケンジ
永田 賢介
NPO 法人アカツキ
代表理事



社会活動としてのデザイン

特定非営利活動法人

FUKUOKA デザインリーグ

<http://www.f-design.gr.jp/>

主な活動エリア: 福岡市



この人に聞きました



サトウ シロフミ
佐藤 俊郎 [副理事長]
株式会社環境デザイン機構代表取締役

団体基礎データ

- 設立年: 1996年 (法人化2007年)
- 代表者: 渡辺 顕好 (理事長)
- 主たる事務所所在地:
福岡市南区大橋1-3-27 九州大学大橋サテライト内
- 電話番号: 092-551-0825
- E-mail: fdljimu@f-design.gr.jp
- 職員: 常勤1名 / 非常勤1名
- 理事: 50代後半 (デザイナー、建築関係)
- 会員: 約50人、22団体 (デザイン団体、加盟企業社員、個人等)
- 主要事業: (1) デザイナー、市民、学生、子ども、企業、団体等を対象としたデザイン全般に関する教育事業
(2) ユニバーサルデザインや災害時対応デザイン、都市デザイン等デザイン全般に関わる調査、研究、提案事業



デザインを社会のために

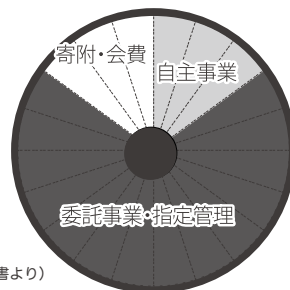
環境問題や高齢化問題等、地域や世界が抱えるさまざまな課題に関する調査研究を通して、あらゆるデザインを統合したアプローチを行うことで、「デザイン都市=市民が豊かに暮らせる社会」の実現を目指す、デザインのプロフェッショナルからなるネットワーク組織です。

福岡市と共働で市内5地区の魅力的な場所を巡る「景観ガイドツアー」の実施のほか、福岡市都市景観賞の運営支援、車いす使用者が円滑に移動できるルートと施設を調査した「タウンモビリティマップ」の作成・発行等パブリックデザインに取り組んでいます。

特に次世代を担うデザイン人材の育成に力を入れており、具体的には、障がい者と健常者が対等な立場でサ

特定非営利活動に係る収入

総額: 11,798 千円



(平成22年度活動計算書より)

ポートし合いながら、野外生活をともに体験する「ユニバーサルキャンプ」や、デザイナーが小学校に出向いてデザインの授業を行う「デザインスクールキャラバン」、30歳前後のプロデザイナーを対象に、福岡発のスーパーデザイナーを育成する「デザイン塾」など、幅広い教育プログラムを実施しています。

ここをチェック!

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2002年度 グッドデザイン賞 (新領域部門) 受賞
- 2009年度 「ふくおかを元気にする共助社会づくり活動表彰」地域貢献活動部門賞受賞
- 2010年度博報財団「博報賞」教育活性化部門受賞

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

355 万円 福岡市都市景観賞運営委託

主な年間スケジュール

通年…… タウンモビリティマップ

通年…… 景観ガイドツアー

秋…… デザインスクールキャラバン

7月…… ユニバーサルキャンプin九州

詳細はお問い合わせください。

物語 デザイン都市福岡構想の中での デザインリーグの起源と歴史

1968年、当初芸術大学として計画されていた国立大学が、産業界の意見を踏まえ、デザインの大学「九州芸術工科大学」として設立されたことが、FUKUOKAデザインリーグ（以下FDL）が誕生することになった背景です。

1990年代、日本各地では地域経済再生の視点からデザインセンターをつくる動きが活発化。福岡市でも議論が沸き起こりましたが、「箱もの」よりも活動から実態をつくるため、団体行事やイベントで連携する実行委員体制の構築に注力し、産学官民の連携による「デザイン都市＝市民が豊かに暮らせる社会」の実現を目指して、1996年に福岡市経済振興局（当時）内に事務局を設置し、FDLは活動を始めました。

その後活動を進めていく中で、「売れるものづくり＝消費を促進するデザイン」という概念が崩れ、「イベント」よりも「研究・啓発」活動、「経済振興」よりも「教育・文化・都市景観」と、より社会的な存在意義が強まったことから、NPO化を検討、2008年に法人として再スタートを切りました。

支援者との コミュニケーション

団体会員は主にデザイン団体のため、受注した公共デザインの仕事は必ず全体に共有して内部コンペを行います。情報公開を徹底し、一部にのみ有利な情報が流れないように配慮しています。

今後の課題と目標

今後のグローバルな都市間競争においては、他都市との差別化を図るためには、点在するアート・デザイン・文化活動をムーブメントにまで高める求心性を持った「拠点」が必要になると考えています。

協働 さまざまな分野のトップデザイナーの連携で、 幅広い社会課題に対応

FDLは、福岡地域デザイン業界でのトップランナーで構成されたプロ集団であり、デザインを媒体とした「ネットワークのデザイン」を担う機関として機能しています。

個人単位では困難な公共的かつ大きな業務を行うことを原則とし、NPO内でメンバーを公募、プロジェクト単位で独立採算運営しています。通常の個人デザイン事務所等の業務を妨げないよう、民間からの仕事は受注しないことを基本方針としていますが、営利企業であっても、デザインの力で社会貢献やCSR活動をしたいという依頼に対してであれば、協力できることは多いと考えています。

このほか、福岡市が実施する「福岡市共働事業提案制度」に「福岡景観・歴史発掘ガイドツアー事業」を提案し採択され、住宅都市局都市景観室と教育委員会文化財整備課との共働により実施。福岡市の優れた歴史的景観を、専門家から市民に解説・案内することを通して、福岡市の魅力を市民とともに発掘し、保存・再生・活用に取り組みました。

団体から一言：FDLの取組は、現在北海道・仙台・富山・神戸にまで広がり、国外では釜山・上海とも交流がスタート。「日本・アジアデザインリーグ」の動きも視野に入れています。



▲ デザインカフェ（セミナー・勉強会）



▲ 福津子どもの城ワークショップ



▲ ユニバーサルキャンピングin九州



▲ 福岡市景観ガイドツアー

Webサイトでは、活動目的や団体メンバー・会員・事業概要を整理して公開しており、閲覧者に非常に伝わりやすいデザイン・工夫がなされています。



わたしが聞きました
ナガノ ケンスク
永田 賢介
NPO 法人アカツキ
代表理事



目指すは、まち丸ごと博物館

特定非営利活動法人

大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ

<http://www.omuta-arao.net/>

主な活動エリア: 大牟田市、荒尾市



1人1台カメラ



ナカノ ヒロシ
中野 浩志 [理事長]

団体基礎データ

- 設立年: 2001年 (法人化2003年)
- 代表者: ^{チーフ・ビロジ}中野 浩志 (理事長)
- 主たる事務所所在地:
大牟田市築町2-8
- 電話番号: 0944-52-7026
- E-mail: info-c@omuta-arao.net
- 職員: 常勤4名 / 非常勤6名
- 理事: 40~60代 (自団体職員、公務員、教育関係者、自営業等)
- 会員: 約100人 (40~60代、地元の方、炭鉱文化に関心のある方)
- 主要事業: (1) まちづくりの推進を図る講演会、交流会、講習会、学習会、展示会、演劇会の開催
(2) 炭鉱のまちの魅力を伝える物品の販売事業



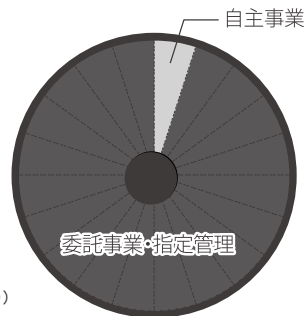
概要 来て、見て、触れて感じる、まちの歴史とそこに生きた人々の物語

「炭鉱のまちの風景・心象」が次世代に継承されていくことを目指し、大牟田市や荒尾市、その周辺に残る三池炭鉱関連施設の保存と活用を通じたまちづくり活動を行っています。

以前より、炭鉱やこれに関連する施設見学と合わせ、近代化産業遺跡群の一角を歩くことで、地域の史跡を学ぶツアーを企画しており、近年では、県の助成事業として複数のNPOが連携して実施する、小学生向けの合宿型学習プログラム「ちくご子どもキャンパス」の中に取り入れています。一般の方向けには、地域の歴史を知る人や活動家のライフヒストリーを聞く講演会を開催し、聞いた人が自分たちの言葉でまちの魅力を伝え、観光客

特定非営利活動に係る収入

総額: 17,807 千円



(平成 22 年度活動計算書より)

や友人・家族・親戚などに地域の案内ができるようになることを目指しています。

まずは、いろいろなきっかけでまちを「知ってもらう」ことに重点を置いており、2012年には、大牟田の魅力を「炭鉱のまちの色」と「ふるさとの香り」として発見・体感してもらおうと、美術学校・メーカー企業・アロマの専門家等と連携し住民ワークショップを開催、オリジナルのクレヨンとアロマオイルを開発しました。今後は商品化とプロモーションを進めていく予定です。

ここをチェック!

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- オリジナル開発商品「石炭今昔三池かるた」販売
- 2011年 ふくおか地域づくりフォーラム第3回「ふくおか地域づくり活動賞」受賞

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

680 万円 荒尾市より万田炭鉱館の管理・運営委託

主な年間スケジュール

1・8月…… 有明坑慰霊碑清掃

4月…… 万田坑祭り

11月…… 近代化遺産一斉公開

12月…… 宮原坑クリスマスライトアップ

詳細はお問い合わせください。



誰もが幸せに暮らしていける 22 世紀の地域社会を築く

特定非営利活動法人

グラウンドワーク福岡

<http://www.h3.dion.ne.jp/~gw-fuku/>

主な活動エリア: 福岡県、イギリス



156人仲間をもちました



オオタニ タエト
大谷 妙人【理事／事務局長】



団体基礎データ

- 設立年: 1993年(法人化2002年)
- 代表者: 河野 泰治(理事長/元福岡大学工学部建築学科教授)
- 主たる事務所所在地:
福岡市博多区美野島2-16-8日大ビル4F
- 電話番号: 092-414-1234
- E-mail: gw-fuku@d3.dion.ne.jp
- 職員: 常勤10名/非常勤0名
- 理事: 50~60代(会社員、まちづくり団体等)
- 会員: 約145人、4社、5団体(20~70代、会社員等)
- 主要事業:
 - (1) 経済活動の活性化に関する国・県・市町村及びその他の団体との協働事業
 - (2) 地域の環境改善に関する支援事業

概要

真のバリアフリー社会の創造に向けてのグラウンドワーク活動

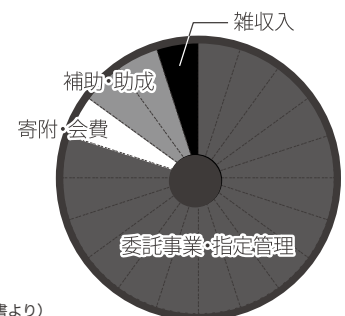
“君は素晴らしい!”を合い言葉に、子どもたち一人ひとりが、ハンディキャップの軽重に関わらず幸せを味わうことのできる社会の実現を目指した体験活動を推進。「環境改善」「環境教育」「福祉啓発」「国際交流」を4つの柱としながらも、地域に横たわる複雑な問題を、住民・企業・行政と力を合わせ解決するなど、多方面での活動に取り組んでいます。

2010年からは、八女市上陽町の休耕地を利用して栽培・収穫したさつま芋でオリジナルの芋焼酎「環(かん)」を開発。販売収益の一部を「豊かさ基金」として積み立て、地域の活性化や上陽町の安心な暮らしをサポートする資金として活用しています。

特定非営利活動に係る収入

総額: 75,714 千円

(平成 22 年度活動計算書より)



また、福岡視覚特別支援学校(旧:福岡盲学校)の生徒たちの職域拡大を目指す「ハーブガーデンづくり」(1998年~)を、社員のボランティア参加や資金提供等で複数の企業と協働実施しており、年々連携の輪が広がっているのが特徴です。今後は生物の多様性に力を入れた「平和の森づくりトラスト」の設立も検討しています。

ここをチェック!

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 1998年度 第5回「コカ・コーラ環境教育賞」受賞
- 2010年度「ふくおか共助社会づくり表彰」協働部門賞/共助社会づくり奨励賞受賞
- 2011年度「ふくおか地域づくり活動賞」グランプリ(知事賞)受賞

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

2,620 万円 八女市上陽町「ほたと石橋の館事業」交流拠点施設委託運営

主な年間スケジュール

- 1月…… 花のジョイントコンサート
- 10月…… ハーブガーデン整備活動
- 10月…… クリーン福岡キャンペーン

詳細はお問い合わせください。

本団体と企業の協働による取組の詳細は、「新しい協働のケース100~これからの社会活性化のヒント~」にも掲載されています。



校舎は街、教科書は人。学びの場、テンジンに通う

特定非営利活動法人

福岡テンジン・ユニバーシティ・ネットワーク

<http://tenjin-univ.net/>

主な活動エリア: 福岡市

福岡テンジン大学

Fukuoka Tenjin University Network



この人に関わった



イワナガ シンイチ
岩永 真一 [理事長]
カエルメディア代表



団体基礎データ

- 設立年: 2010年 (法人化2012年)
- 代表者: ^{イワナガ シンイチ}岩永 真一 (理事長)
- 主たる事務所所在地:
福岡市中央区薬院1-6-5-603
- 電話番号: 092-761-3139
- E-mail: info@tenjin-univ.net
- 職員: 常勤1名 / 非常勤15名
- 理事: 20~30代 (広告関係、公務員)
- 会員: 約20人 (20~30代、会社員等)
- 主要事業:
(1) 地域振興に関する講演会、講習会等による生涯教育事業
(2) 地域振興に関するイベント企画開発事業



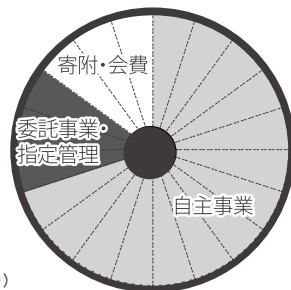
人と人、人と企業、人と街が つながって輪が広がる

「福岡を世界でいちばん魅力的な街にする」をビジョンに、福岡に関わるあらゆる世代の方が福岡の歴史や文化に親しみ、福岡という街に関心を持つきっかけを提供することで、新たな魅力やつながりをつくり出すことを目指しています。

福岡テンジン大学は校舎を持たず、商業施設や駅構内、ときにはカフェなど、「街」全体がキャンパスであり、誰もが生徒・先生になることができる場です。これまで福岡を拠点に活躍するクリエイターや経営者、大学生たちにより開かれた授業数は約130、2013年2月末現在の登録学生数は約3,300人にものぼります。参加者が、ともに考え、アイデアを出し、行動することで、自分たちの手

特定非営利活動に係る収入

総額: 3,755 千円



(平成 24 年度活動計算書 (予定))

で魅力的な街をつくる、広がりのある「生涯学習」の場となっています。

企業や行政との協働企画である特別授業では、これまでに九州大学や株式会社リクルート、専門学校福岡ビジュアルリーアーツ等と一緒に企画・開催するなど、多数の実績を誇ります。今後は、福岡テンジン大学の学生に利用特典のある、「学食」と名付けた連携飲食店の拡大を目指しています。

ここをチェック！

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2011年「ソトコト」5月号特集「日本を元気にする九州の100人」に学長・岩永真一が選出
- 2012年 NHK福岡放送「特報フロンティア」、KBC九州朝日放送「サワダデース」にて紹介

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

338 万円 福岡市共働事業提案制度 (NPO 法人グリーンバード福岡チームによる提案)

主な年間スケジュール

- 通年…… 通常授業
- 不定期…… 特別授業 (行政委託・企業協賛による授業)
- 第3水…… 天神朝キャンパス (「We Love 天神協議会」との協働)

詳細はお問い合わせください。



文化・芸術・スポーツ



九州ば元気にするバイ!!

NPO法人

九州プロレス

<http://www.kyushu-pro-wrestling.com/>

主な活動エリア:九州全域



この人に聞きました



デクセンリョウタ (本名: 椎葉亮司) [理事長]
プロレスラー



プロレスで地域を元気に!

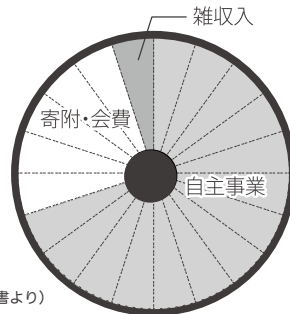
プロレスを、世代や性別を越えて時間を共有し楽しむことができる「大衆娯楽」と捉え、まちづくりに活かす活動を行う九州プロレス。

理事長である筑前りょう太さんは団体の看板レスラーとして自ら先陣を切ってリングに立ち、同時に裏方の興業・経営も行っています。さらにその傍ら、不登校児の通うフリースクールの講師を勤め、福祉施設等への慰問活動も積極的に行っており、笑いと元気の詰まった講演会には、多くの講師依頼があります。

団体の法人会員には、「博多華味鳥」「ふくや」「STONE MARKET」等の地場企業をはじめ、全国・福岡の経済を担う100以上の会社が加盟、企業の冠名を付けた大会も

特定非営利活動に係る収入

総額: 23,424 千円



(平成 22 年度活動計算書より)

開催されています。株式会社チェースアンドインクリーズとの協働により開発した「プロレス体験型営業研修」では、営業マンに対し企業が「営業理論」を、団体が「情熱」を伝えるという、ユニークで新しい取組を行っています。また、コカ・コーラウエスト株式会社は、オリジナルデザインの「九州プロレス応援自販機」の設置に協力。九州プロレスのPRになることはもちろん、売り上げの一部が団体への寄附になることで、運営が支えられます。

ここをチェック!

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2008 年 NHK ドキュメント「人間交差点」出演 (代表・筑前りょう太密着ドキュメント)
- 2009 年 西日本新聞、日本経済新聞 掲載
- 2012 年 TNC「ドキュメント九州」出演 (カンボジア遠征)

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

100 万円 日本財団助成「プロレススキップ講座」

主な年間スケジュール

3・7・9・12月… 西鉄ホール定期戦興業
1月… 「北九州を元気にするバイ!」興業

詳細はお問い合わせください。



決してブレない志、地域への思い

理事長の筑前りょう太さんは、かつて九州産業大学のプロレス研究部(当時は同好会)に在籍していました。卒業後、メキシコに渡り武者修行をしていたときに、現地の人たちが、自国のレスラーが外国人選手を倒す試合を見た際、「やはりメキシコは素晴らしい国だ」「この地域に生まれて良かった」と、自分の人生を肯定し、誇りを持って家路につく様子を見て、「プロレスでこういうことを、日本や地元福岡でやりたい!」と思ったのが、大きな志の始まりです。

「やるからには自分は必ず本場関東で通用する、一流の選手にならなければいけない」という信念のもと、千葉の地域おこしにプロレスで取り組むことからスタート。レスラーであると同時に、千葉商工会議所青年部の理事も務めていました。

当時所属していた団体の、千葉マリンスタージウムでの興業が成功したのを自らの節目として、福岡に戻り「NPO法人九州プロレス」の旗揚げを決断。これまでにないチャレンジに、多くの人から支援・協力の手が上がり、ふるさとのために動き出しました。

支援者とのコミュニケーション

支援企業に対しては、高齢者施設の慰問の様子を見学してもらえるようにしています。活動を通して、おじいちゃん・おばあちゃんと企業の方の「笑顔」と「感謝」の循環をつくっています。

今後の課題と目標

九州の方々を元気にする活動のさらに先には、九州のスポークスマンとして、日本全国に観光やブランド等、九州の魅力をアピールしていきたいと考えています。



誰かを元気にする、自分が、まちが元気になる

プロレスの魅力は、「地域の不特定多数の人を笑顔にすることができる」という点です。プロレスというエンターテインメントには、世代や性別は関係なく、また、ライブであることによって、目の前で起こっている試合に対し、応援や時に飛び込みの協力も通じて観客が一体となって参加することができるため、それがまちづくりに必要な顔の見えるつながりや元気をつくっていきます。

地域でのプロレス出張イベントでは、特産品オリジナルキャラの登場も。また社内でのレセプションなどにも相談対応可能であり、トークやステージパフォーマンスで盛り上げます。

2012年からは「カンボジア・ソクサバイ!プロジェクト」を始動。カンボジアからスカウトした選手を九州で育成し、スターとして現地に凱旋させることで、地域経済を活性化させて雇用を生むことを目的にしています。自分たちだけでなく、海外の人をも元気にすることができる九州になれば、九州に暮らす私たちは、さらに自信を持って元気になっていくことができるでしょう!

団体から一言：九州ば元気にするバイ!!



▲ 慰問活動



▲ 青少年健全育成指導後の集合写真



▲ カンボジアでのチャリティー大会



▲ カンボジアの少女と

筑前りょう太さんは堂々としながらも、とても丁寧に取材に対応してくださいました。たくさんあるオリジナルグッズもその場で買い、すっかりファンになりました!!



わたしが聞きました
オガラ ケンサク
永田 賢介
NPO 法人アカツキ
代表理事



いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも

特定非営利活動法人

田主丸カル・スポクラブ

<http://www.fs-club.jp/karusupo/>

主な活動エリア: 久留米市田主丸地域



この人に聞きました



ハジモト コウスケ
橋本 公輔[理事長]
有限会社橋本緑園取締役

団体基礎データ

- 設立年: 2002年(法人化2003年)
- 代表者: ^{ハジモト コウスケ}橋本 公輔(理事長)
- 主たる事務所所在地:
久留米市田主丸町常盤1215-1
- 電話番号: 0943-74-7080
- E-mail: jimukyoku@karusupo.ecnet.jp
- 職員: 常勤2名/非常勤3名
- 理事: 30~70代(自営業、会社員等)
- 会員: 約370人(4歳~70代、スポーツクラブの小中学生や保護者、地域住民等)
- 主要事業: (1) 文化及びスポーツの振興を図るための教室及び交流大会等の開催
(2) 地域住民の健康・体力づくり及び中高齢者の健康維持推進事業



あるゆる世代の人たちとともに

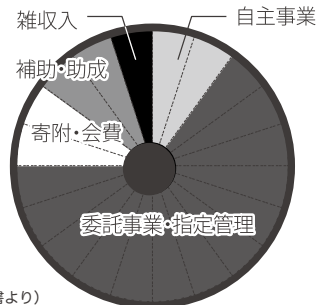
地域に根差した身近な総合型地域スポーツクラブとして、文化活動や生涯スポーツを通して地域のあらゆる世代の方々が交流できる環境づくりを目指しています。現在は、久留米市田主丸地域において野球やサッカー、バレーボール、和太鼓を行っている9団体が所属しており、それぞれのクラブが精力的に活動に取り組んでいます。

主な事業として、キッズスポーツや子ども和太鼓のほか、成人を対象とした硬式テニスなど、未就学児から高齢者まで楽しめる教室を開催。それぞれの教室の講師やインストラクターは、地域の方々が担っています。

毎年開催される少年サッカー交流大会や少年野球交

特定非営利活動に係る収入

総額: 9,538 千円



(平成 22 年度活動計算書より)

流大会、ジュニアバレーボール交流大会は、多くの地場企業の協賛を得ながら、会員が積極的に参画し独自に運営。また、近年は、「ニュースポーツ」と呼ばれる、年齢や性別によるハンディが少なく、障がいの有無に関わらない、みんなで一緒に楽しむことができるスポーツを広めており、他地域の総合型地域スポーツクラブとともに合同で交流大会を開催しています。

ここをチェック!

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 福岡県NPO・ボランティアセンター情報誌「Con te vol.24」掲載

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

2,326 万円 スポーツ振興くじ 助成金(クラブハウス整備事業)

主な年間スケジュール

- 通年…… 子ども和太鼓教室・硬式テニス教室、キッズスポーツスクール
- 2月…… カル・スポ杯少年サッカー交流大会
- 11月…… カル・スポ旗高橋慶彦杯少年野球交流大会
- 12月…… カル・スポ杯ジュニアバレーボール交流大会

詳細はお問い合わせください。



文化とスポーツを隔てず、地域で活動する方を応援

田主丸カル・スポクラブは、1995年度から2003年度にかけて文部科学省により実施された「総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業」をきっかけに、久留米市内の他の6団体とともに「総合型地域スポーツクラブ」として誕生しました。この先導的なモデル事業によって、地域コミュニティの役割を担うスポーツクラブづくりが行われました。スポーツを愛好する子どもから高齢者までの多世代が、初心者から上級者まで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できるという特色を持っています。

団体名でもある「カル・スポ」とは、カルチャーとスポーツを掛け合わせた言葉。設立当初より、文化とスポーツを分け隔てなく、地域で活動している方々を支援してきました。例えば、スポーツ大会において、地元サークルによる手話解説や和太鼓演奏による歓迎セレモニーなどを行ってきた実績もあります。現在、団体の理事は商工会青年部や婦人会、スポーツ推進委員などの地域の振興・発展を図る組織で活躍しており、これらの組織での活動実績・経験をNPOの活動に活かし、地域住民の声を反映した柔軟な活動を展開しています。

支援者とのコミュニケーション

加盟団体が抱える課題解決のためにヒアリングを行っているほか、他地域の総合型地域スポーツクラブと共同で会員向けに交流イベントを実施しています。

今後の課題と目標

今後は、多くのスポーツ・文化活動に参加できる環境づくりを目指し、新しく教室を開講したいと考えています。現在は、教室を支えるインストラクターを探しています。



▲ 県内外から多くのチームが参加する各種交流大会



▲ 地域の伝統文化を継承する「子ども和太鼓教室」



▲ ナイターのテニス教室は、仕事後のリフレッシュのために参加する人も多い



地域に支えられて、地域を支えて

株式会社アサヒ緑健や株式会社森光商店などの企業からの協賛と、独立行政法人日本スポーツ振興センターからの「スポーツ振興くじ助成金」を受けて事業を運営しています。また、毎年開催されている交流大会では、地場企業30～40社からの協賛により、地域の厚い支援を受けています。

現在は、田主丸町内の体育館やグラウンドの管理運営を受託しており、これらの利用者を通して地域のスポーツ活動実態を調査し、地域のニーズに合わせた活動を展開しています。さらには、久留米市内にある7つの総合型地域スポーツクラブによる連絡協議会を毎月1回開催するほか、情報交換やイベント等の共同開催も行い、田主丸地域における活動にフィードバックしています。

これまでスポーツ大会を長年にわたり企画運営してきたことにより、質の高いノウハウが蓄積されていることや、地域に密接な活動を展開しているため、地域が抱えるニーズや解決すべき課題に気付き、アプローチできることなどが団体の強みと言えます。



▲ ニュースポーツ教室では、気軽にプレーできる「カローリング」を体験

文化とスポーツを分け隔てなく、地域に根差しながら、子どもから大人まであらゆる世代が関われる場づくりを行う活動に、とても魅力を感じました！



わたしが聞きました
マツシマ タクミ
松島 拓
NPO 法人アカツキ
事務局長

団体から一言：文化とスポーツを通して「仲間づくり」や「健康づくり」、「体力づくり」ができ、そして子どもから大人まで多世代の方が楽しめる活動をしています！



明日へ ASUE (ASIA STAND UP ENTERTAINMENT)

NPO 法人

ASUE

<http://www.npo-asue.com/>

主な活動エリア：福岡県、東南アジア



この人に聞きました



タニムラ ヨシオ
谷村 與志雄【理事長】

団体基礎データ

- 設立年：2000年（法人化2007年）
- 代表者：谷村 與志雄（理事長）
- 主たる事務所所在地：
福岡市中央区桜坂2-5-45 サクセスビル2F
- 電話番号：092-712-4683
- E-mail：info@npo-asue.com
- 職員：常勤2名／非常勤5名
- 理事：50～60代（音楽関係）
- 会員：約65人、5団体（30～60代、ミュージシャン、会社員、公務員等）
- 主要事業：(1) 国内外の音楽、芸術活動を行うアーティストやスポーツを行うアスリート育成派遣事業 (2) スポーツや音楽、芸術活動を行うアジア各国の団体との交流イベントの開催及び協力事業



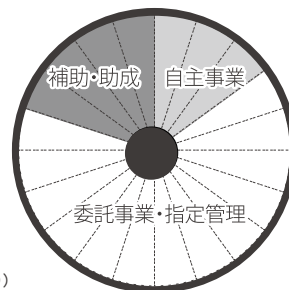
アジア若者音楽文化交流の明日へ向けて

団体名の「ASUE」は、「Asia Stand Up Entertainment」の頭文字と「明日へ」という意味を掛け合わせたもの。福岡を中心に、若者が音楽を通して、アジア各国との若者文化の交流を行い、文化をつくっていくことを目的としています。国内外アーティストをライブイベントに出演させるためのコーディネートや、ステージの運営サポート、また、日本・韓国の音楽学院をジョイントさせた学びの支援などを行っています。

韓国から始まった国際音楽交流事業では、釜山ー福岡の交流を行い、7年経った現在は、タイやアジア各国にも広がっており、「釜山サンセットライブ」や「タイ Big Mountain Music Festival」など、数万人規模のロック

特定非営利活動に係る収入

総額：1,416 千円



(平成 22 年度活動計算書より)

フェスティバルへ、日本人アーティストの招聘や、イベント開催のサポートを行っています。

今後も、音楽以外のアートやファッション、サブカルチャーなどの若者文化の発展と、アジアとの国際交流にますます力を入れる予定であり、旅行代理店などの交通・観光関係会社との連携を検討しています。

ここをチェック！

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2011年 西日本新聞「九州近代歌謡異聞」に代表・谷村与志雄のインタビューが掲載

過去の助成・受託等実績（過去最大額のみ表示）

30 万円 福岡県国際交流センター
国際交流・国際協力事業助成

主な年間スケジュール

- 1月…… 日韓音楽学院交流研修会
- 8月…… 釜山International Rock Festival (※)
- 9月…… Sunset Live (※)
- 12月…… タイ Big Mountain Music Festival (※)

(※) 主催ではなくコーディネート・サポート

詳細はお問い合わせください。



音楽の力で心豊かな人づくり、まちづくり

NPO 法人

北九州リバーサイドミュージックBOX

<http://www.krmb.info/>

主な活動エリア: 北九州市



この人を知ろう



タニグチ トシコ
谷口 淑子 [理事長]
ピアニスト



概要 音楽の力あふれる心豊かな ふるさと北九州に…

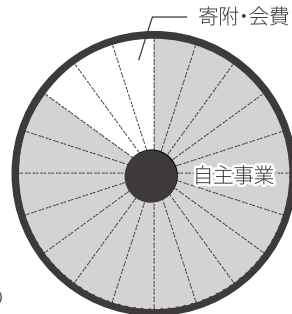
団体の中核事業である「リバーサイドコンサート in 紫川」は、子どもからお年寄りまで世代を越えて、誰もがクラシック音楽を気軽に楽しめるようにと、2005年に始まりました。毎年秋に継続的に開催しており、今ではすっかり紫川の秋の風物詩となっています。この活動には行政のほか、地元企業が協賛金により協力。数多くの地元アーティストの活躍の場にもなっています。

各種コンサートを数多く企画・運営するのはもちろん、自然の中でのコンサートの実施により、エコの大切さを呼びかけているほか、月に1回市内の駅前を中心にゴミ拾いをする「まち美化活動」を実施するなど、環境に配慮した活動にも取り組んでいます。また、世界の環



特定非営利活動に係る収入

総額: 4,164 千円



(平成 22 年度活動計算書より)

境都市を目指す北九州市の応援歌「北九州菜の花ソング」を通して、環境メッセージを届け、そのCDの売り上げの一部を、市内で植林活動を行う団体に寄附するなど、ふるさとの森づくりに貢献しています。現在は新しい取組として、環境メッセージをテーマにした北九州市オリジナルオペラ「菜の花のお話」を制作中です。

ここをチェック！

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2008年 環境未来都市北九州市の応援歌「北九州菜の花ソング」制作
- 2010年 日本青年会議所主催人間力大賞「会頭特別賞」受賞

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)
なし

主な年間スケジュール

- 4月……一音一会コンサート
- 7月……小さな音楽会ティエラ
- 9月……リバーサイドコンサート in 紫川
- 12月……ありがとうクリスマスコンサート

詳細はお問い合わせください。



社会にラリー、心にスマッシュ

特定非営利活動法人

九州車いすテニス協会

<http://kwta.japanopen-tennis.com/>

主な活動エリア: 飯塚市、世界各国



代表者・麻生 泰



マエダ エリ
前田 恵理[理事]
飯塚国際車いすテニス大会 会長



「障がい者」ではなく「一流のプロアスリート」として

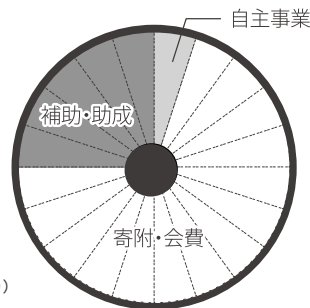
1985年にアジアで初めての車いすテニスの国際大会を開催したことをきっかけに、車いすテニス協会が設立され、2003年に法人化しました。

毎年5月に飯塚市で開催される国際大会ジャパンオープン、車いすテニスの世界4大会である「グランドスラム」に次ぐグレードであり、世界中からトップ選手が集まるため、ほぼパラリンピックと同じレベルで開催されています。同時に、5日間の大会期間中には、車いすテニス初心者も選手と同じコートでプレーができるよう配慮するなど運営にこだわりを持っており、多くの人に希望と活力を与えています。

大会は、飯塚市や地元企業はもちろんのこと、商工

特定非営利活動に係る収入

総額: 35,435 千円



(平成22年度活動計算書より)

会・新聞社・社会福祉協議会等さまざまな方面からの協力で成り立っています。また多くの市民がボランティアとして参加しており、その運営方法は「イヅカ方式」と呼ばれ世界に広まっています。大会を通して、選手と地域住民との国際交流も活発に行われており、若者の地域に対する誇りや愛着の形成、経済の活性化にも期待が持たれています。

ここをチェック!

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2004年 西日本新聞・西日本新聞エリアグループ筑豊よりリフト付車両を受領
- 2011年度「ふくおか共助社会づくり表彰」地域貢献活動部門賞 受賞

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

750 万円 財団法人JKA補助事業

主な年間スケジュール

- 5月… 飯塚国際車いすテニス大会 (JAPAN OPEN)
- 7月… 車いすテニス九州大会
- 11月… 車いすテニスダブルストーナメント九州大会

詳細はお問い合わせください。



九州、沖縄を起点に、ビーチバレーの輪を世界に拡げていきます

特定非営利活動法人

九州ビーチバレーリーグ

<http://qbl303.com/>

主な活動エリア:九州全域



この人に聞きました



エンドウ カズマ
遠藤 和馬[事務局長]
福岡県バレーボール協会 理事



ビーチバレーの普及を通じて、 スポーツの楽しさを伝える

競技としての技術の向上よりも、あくまで「遊び」「レクリエーション」としてのスポーツの普及と場づくりをミッションに掲げており、参加者同士のコミュニケーション促進とコミュニティの活性化に取り組んでいます。

25年以上前に百道浜からスタートした九州ビーチバレーリーグの大会は、現在では九州全域で公式戦7大会を実施。このほか、九州各地域とネットワークを結び、競技規則や統一ルールの普及、ビーチバレー指導者の講習会や選手育成事業も行っています。また、大会や練習時には、美しいビーチを守るための環境美化活動「ビーチing運動」を実施し、賛同企業には、大会でのブース出展や美化活動に参加いただいています。

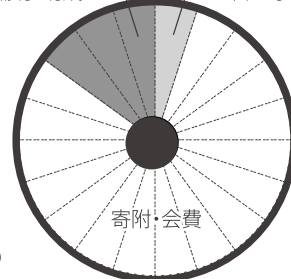
団体基礎データ

- 設立年: 1989年(法人化2004年)
- 代表者: 保坂 昌隆(理事長)
- 主たる事務所所在地:
福岡市中央区薬院2-18-10 KSマンション303
- 電話番号: 092-741-6310
- E-mail: kyushubeachvolley@vega.ocn.ne.jp
- 職員: 常勤2名/非常勤0名
- 理事: 50~70代(ビーチバレー大会運営関係者)
- 会員: 正会員約60人、参加者会員約3,000人(20~40代、ビーチバレープレイヤー)
- 主要事業: (1) ビーチバレー大会の開催・及び国際交流大会の運営事業 (2) ビーチバレー大会に関する後援・協力事業

特定非営利活動に係る収入

総額: 7,063 千円

補助・助成 自主事業



(平成22年度活動計算書より)

さらに、小学生を対象に開催するビーチバレー大会「ペンギンカップ」を通して、子どもが屋外スポーツに親しむきっかけをつくっており、これらの砂浜や海風に触れる体験は、今後高齢者の健康増進や痴呆の防止活動にも活かせると考えています。

ここをチェック!

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2012年 西日本新聞掲載

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

200 万円 笹川スポーツ財団
「ビーチバレージュニア普及・育成事業」

主な年間スケジュール

7~8月... sun-cup (鹿児島、熊本、福岡)

4月... シーズン開幕戦

6月... 4人制ビーチバレージャパンオープン

9月... 4人制九州カップオープン

詳細はお問い合わせください。



アジアの全ての子どもたちを笑顔に

特定非営利活動法人

劇団道化

<http://www.douke.co.jp/>

主な活動エリア:九州を中心に日本全国、アジア



13人編成した



シノザキ ショウゴ
篠崎 省吾【理事長】



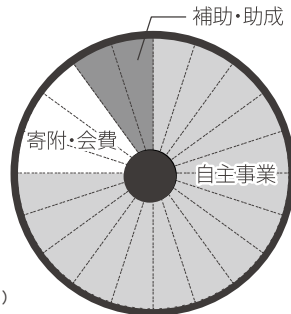
概要 太宰府からアジアへ、文化交流の架け橋に

劇団道化は、1965年に九州初のプロの児童劇団として創立されました。現在は地元福岡をはじめ日本全国・アジア各地で公演を行っており、その上演実績は児童劇団界ではベスト5に入るほどで、2012年の年間上演数は500公演、年間観客動員数は15万人にものぼります。

2004年、上海児童芸術劇院に招聘され、日中合作演劇においてグランプリを受賞。翌年の劇院とのコラボレーション公演や中国初の幼稚園巡回公演につながりました。2007年には中国児童芸術劇院と協力した事業を開始。2012年9月には、外務省日中国交正常化40周年記念事業の認定を受けて、中国大陸5,000km縦断公演を行うなど、アジア交流の架け橋として期待されています。

特定非営利活動に係る収入

総額：107,704 千円



(平成22年度活動計算書より)

す。また、JALが劇団の渡航に航空券を無償提供し、中国での冠名公演を行う協働も行われています。

2005年に劇団の稽古場と車両4台を火災で消失しましたが、全国演劇関係者の金銭的・物的支援や地域住民のボランティアに支えられ、火災当日、またその後もキャンセルすることなく公演をすることができました。

小学生や教師、保育士を対象とした演劇ワークショップや、一般の方も対象とした表現活動スクールなども行い、体験を通して表現する楽しさを広く伝えています。

ここをチェック！

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2004年 上海国際児童演劇祭グランプリ受賞
- 2005年度 第13回福岡県文化賞受賞
- 2012年 O夫人児童青少年演劇賞 副理事長／プロデューサー・中村芳子が受賞

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

130 万円 福岡県地域文化芸術プラン推進事業「日中合作公演とシンポジウム」

主な年間スケジュール

春…… 日本縦断、幼児のための公演
秋…… 九州の小・中学校、高校を巡業
7～8月…… 北京公演
9月…… 雲南省公演

詳細はお問い合わせください。





原発も温暖化もない社会を目指して

特定非営利活動法人

再生可能エネルギー推進市民フォーラム西日本

<http://www.repw.net/>

主な活動エリア：福岡市



この人に聞きました



岡 優子 [理事/事務局長]

団体基礎データ

- 設立年: 1999年(法人化2002年)
- 代表者: 堤 静雄(理事長)
- 主たる事務所所在地:
福岡市中央区天神5-5-8福桜ビル2F-B
- 電話番号: 092-752-7769
- E-mail: repw@aria.ocn.ne.jp
- 職員: 常勤1名 / 非常勤1名
- 理事: 50代~60代(会社員、公務員)
- 会員: 約100人(20~60代、会社員)
- 主要事業:
(1) 再生可能エネルギー等に関する普及啓発及び広報活動
(2) 市民共同発電所の建設及び運営



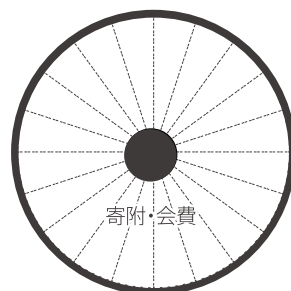
市民の「参加の場づくり」を生み出していく

再生可能エネルギーの普及啓発を行うとともに、市民・企業・行政のパートナーシップ及び市民参加によって、再生可能エネルギーの研究を行い、また利用を促進することで、原子力発電所も温暖化もない社会を目指しています。

市民共同おひさま発電所設置活動では、自然エネルギー(太陽光)を利用した発電所を、市民参加型により、地域の公共性の高い施設に設置しています。市民が接する機会の多い施設に設置することで、施設のスタッフや利用者だけでなく、その家族や地域の方々の自然エネルギーに対する関心が得られ、温暖化防止の活動を広げることができています。設置にあたっては企業から

特定非営利活動に係る収入

総額：7,051 千円



(平成22年度活動計算書より)

の寄附や「エコポイント事業」の寄附制度も活用し、設置後は自然エネルギー機器の寄贈やフォローアップ講座を積極的に実施しています。

2013年度からは、屋根や土地を借用し太陽光発電所を設置する「市民共同やどかりおひさま発電所」を、多くの賛同者から少額の借入をする「擬似私募債」制度によって実現し、市民の「参加の場づくり」を生み出していく予定です。

ここをチェック！

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2012年 西日本新聞 掲載
- 2013年 日本消費者新聞「全国の主な市民共同発電所 MAP 2013」掲載

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

300 万円 風力発電の地域への影響と波及効果に関する実態調査・研究

主な年間スケジュール

- 月1回… 市民参加型エネルギー研究会
- 年1回… 市民共同おひさま発電所建設
- 年数回… おひさま発電所フォローアップイベント

詳細はお問い合わせください。



物語 お金とエネルギーの地域循環を実現するために

地球環境問題・地球温暖化問題の解決に貢献できるよう、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギー及び省エネルギーの普及を推進し、同時に持続可能なライフスタイルを築くため、多くの市民とともに活動していきたいという思いで設立しました。

現在、事務局長を担う岡さんは、大学生時代に氷河が溶けていく一枚の写真を見たのをきっかけに、地球温暖化問題の解決の重要性を認識し、事業に参画することにしました。また、東日本大震災発生時に破壊された原子力発電所施設を見て、事業の必要性を改めて認識。単なる反原発運動ではなく、「ではどうするか」という代替案を模索し、安全でクリーンな再生可能エネルギーを生み出す仕組みを、地域に根差した形で実現していきたいと考えています。

2012年度より、「エネルギーを私たちの手でつくり出す」「お金とエネルギーの地域循環」をテーマに、大規模集中型ではなく地産地消、小規模分散型の電力を、市民が所有・管理するため、発送電分離に向けた法改正の動きなどを取り扱う研究会を定期開催しています。

支援者とのコミュニケーション

毎月市民参加型エネルギー研究会を開催し、環境やエネルギー問題について話す場や議論する場をつくっています。寄附者に対しては、手書きのお礼状を送付するなどの工夫をしています。

今後の課題と目標

今後は、その地域に適したエネルギーを考える「自然エネルギー学校」という連続講座のプログラムをパッケージ化し、収益事業に発展させることで、活動を継続させていこうと考えています。



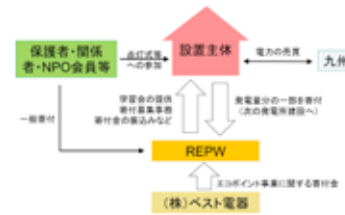
協働 専門性の高い技術的な支援を提供

これまで、「住宅用太陽光発電システム設置補助事業」と、「太陽光発電の設置条件に問題がないか」などを、市民の視点で判断する「太陽光発電分析評価事業」の2事業を、九州電力株式会社と協働で実施してきました。一般家庭を対象に、太陽光発電システムの設置費用を、団体独自の基準と体制により補助し、これを受けて433名の方がシステムを設置することができました。これと並行して、データ測定機器を補助家庭に導入。1999年から2005年まで、約6年間のデータ収集を行うとともに、東京農工大学黒川浩助研究室の協力のもと、年2回のデータ評価分析会議を開催しました。また、測定データは年度ごとに報告書にまとめ、最終的にはそこで得られた成果を「提言」として公表しました。

「市民共同おひさま発電所」設置先での学習会などは、施設のスタッフや利用者の省エネルギーに対する意識改革につながるの、高い評価を得ています。また、専門性や人脈を活かしたフォローアップができることも大きな強みとなっています。

団体から一言：自然エネルギー普及の活動を通して一人でも多くの方が心豊かに暮らせる社会をつくり、それが放射線状に広がってほしいという思いで活動を行っています。

おひさま発電所スキーム図
2012年度のもの



▲ スキーム図



▲ 循環生活研究所へのおひさま発電所の設置



▲ エスタスカーサでの「おひさま発電所フォローアップ研修」



▲ 毎月開催する市民参加型エネルギー研究会

一人ひとりが大切にされる社会を目指し、先進的なアイデアを実現することで問題解決に向かう姿にとても勇気付けられました。



わたしが聞きました
マツシマ タクミ
松島 拓
NPO 法人アスカキ
事務局長



米づくり森づくり人づくり

(任意団体)

山村塾

<http://www.h3.dion.ne.jp/~sannsonn/>

主な活動エリア：八女市黒木町



この人に聞きました



コモリ コウタ
小森 耕太【事務局長】

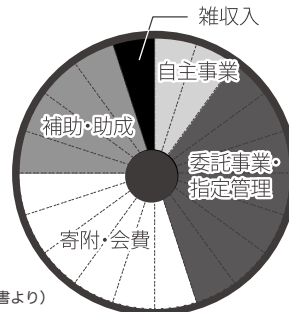


都市と農山村の人がともに農山村に関われる環境をつくる

山村塾は、都市と農山村住民とが一体となり、棚田や山林といった豊かな自然環境を保全することを目的に、1994年に福岡県八女郡黒木町で発足しました。荒廃した棚田の復田と、アイガモを利用した無農薬による米づくりを体験する稲作コース、台風による風倒木被害地において広葉樹の植林を行い、定期的な管理を行う山林コースを2本柱とし、二軒の農家が受け入れ先となって活動をしています。年間を通して四季折々の自然体験活動を楽しめるように企画運営を工夫し、年齢・性別・国籍問わずさまざまな方々が活動に訪れます。山村塾の活動の拠点となっている「四季菜館」は、そんな方々の交流の場となっており、また、ウッドボイラーでの湯の供

特定非営利活動に係る収入

総額：11,607 千円



(平成23年度会計報告書より)

給、太陽光発電での電気の自給など、環境にやさしい生活を通して、自然環境の大切さを学ぶことができます。

このほか、農山村での生活体験がない方でも正しい知識と技術を身に付けられる山仕事講座や、さらに経験を積んだ方にはボランティアリーダー講座なども行っています。多くのプログラムを行うことで、さまざまな目的や経験を持った人を受け入れ、都市と農山村の垣根を低くし、もっと多くの人が気軽に農山村に関わるきっかけとなればと考えています。

ここをチェック！

広報ツール

Web TW FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2006年度 緑化推進運動功労者 内閣総理大臣表彰 受賞
- 2010年度「ふくおか共助社会づくり表彰」協働部門賞 受賞
- 2012年 西日本新聞 掲載他多数

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

330 万円 日本財団「長期的滞在型農林業体験プログラム実施のための車両整備等」

主な年間スケジュール

通年…… 稲作、山林体験

通年…… 災害ボランティア

年3～4回…… 合宿

夏…… 山村たんけんキャンプ

詳細はお問い合わせください。

本団体と企業による協働の取組の詳細は、「新しい協働のケース100～これからの社会活性化のヒント～」にも掲載されています。



物語 地域を越えて助け合う、 大きな家族のようなコミュニティ

現在事務局長を務める小森さんと山村塾との出会いは、小森さんが大学時代にボランティアとして山村塾を訪れたこと。実際に農家の方と棚田の復田や山の手入れを行う中で、いつも何気なく見ていた日本の里山の美しい風景が、人の手によって長年守られてきた事実と、同時に、今後はその担い手がないことを知りました。かつての小森さん自身もそうであったように、「都市の人は知らないだけ。知れば興味を持ってくれる」との思いで、多くの方が農山村に関わるきっかけづくりに取り組んでいます。

NPO法人化に向けて準備を進めていた2012年7月、九州北部豪雨災害が発生。災害ボランティアの受け入れを始めたところ、これまで山村塾を通して黒木町を訪れた個人や企業の多くが復興支援活動に参加されました。そのボランティア数は11月現在で延べ1,900人にものぼります。

設立時はたった二軒の農家からスタートした山村塾が、隣近所と、また離れた都市部の人々とも手を取り合い、高齢化や過疎化といった地域課題に取り組んでいます。



支援者との コミュニケーション

ボランティアに参加してくれる人がお客になってしまわないよう、必ずその人が楽しく関われる仕事を準備するようにしており、また同時に安全管理も徹底しています。



今後の課題と目標

九州北部豪雨災害の被害は甚大であり、復興までには数年必要と考えています。黒木町の方がこれからもこの町で暮らせるよう、人々の生活をつくっている棚田や、茶畑を守り、育むことに力を注ぎます。



協働 林業研究、中山間地域活動の プラットフォーム

2009年より八女郡黒木町笠原において、KDDI株式会社九州総支社との協働事業「パッチワークの森づくり」を実施。荒廃したスギ・ヒノキ林を整備し広葉樹が入り混じった豊かな森を次世代に残すことを目的に、15m四方の区画ごとの森林整備を行っています。NPOと企業・市民・地域・大学・行政など、多様なセクターと連携。企業からは資金援助のほか、社員が植樹や森林の維持管理活動にボランティアとして参加しています。九州大学大学院芸術工学研究院緑地保全学研究室では、黒木町を先進事例のフィールドとして調査研究に入ったため、山村塾の活動成果が社会へと還元されることにもなりました。

自然体験活動(CONE)リーダー・PLT(Project Learning Tree)ファシリテーター・キャンプディレクターなどの資格を持った専門性の高い人材、年200日以上活動実績があることなどから、企業やNPOの視察や相談も多くあります。

今後は災害からの地域の復興を大きな目標として、農家の方に安定した収入が入る仕組みづくりのため、お米やお茶の販売ルートに協力してくれる連携先を探しています。

団体から一言：美しい棚田や里山を守る取組に楽しく参加しませんか？ 農山村では「旬の作業」と「旬の食べ物」がいつでも待っています!!



▲ チェーンソー研修



▲ 山林コースでの下草刈り



▲ 災害ボランティアで茶畑の復旧



▲ パッチワークの森づくり集合写真

私が以前災害ボランティアに参加したとき、農家の皆さんが口を揃えて小森さんに感謝してらっしゃった理由が、今回直接お話を伺ってよくわかった気がしました!!



わたしが聞きました

ミヤタ ユスケ
宮田 悠輝夫
NPO法人福岡被災地前進支援
運営スタッフ



「循環生活」という、シンプルで豊かな暮らしづくり

特定非営利活動法人

循環生活研究所

<http://www.jun-namaken.com/>

主な活動エリア: 福岡県内を拠点に日本各地



この人に聞きました



たいら ゆい子 [理事/事務局長]



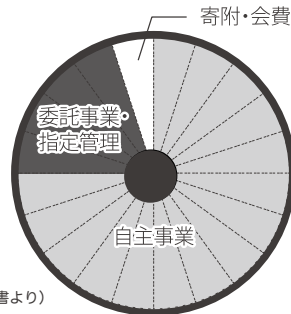
地域を掘り起こす「土づくり」「まちづくり」「人づくり」

循環生活研究所、通称「循生研(じゅんなまけん)」は、暮らしに必要なものを地域内で循環させることで得られる、楽しくて、安全で、創造的な生活を「循環生活」と名付け、その調査・研究活動を行うとともに、市民に対して普及・支援活動を行っています。

事業内容は大きく3つに分けられます。海藻アオサや生ごみの堆肥化、農園運営による野菜の販売、ダンボールコンポストの講座などを行う「土づくり」、NPOが地域と一体となって、地域内で食べ物やモノが循環する仕組みを実践する、直売所「小さな循環ファーム」と「フリーマーケット三苦」の運営を行う「まちづくり」、そして最も特徴的かつ全国的な広がりを持つ、コンポストのアドバ

特定非営利活動に係る収入

総額: 29,680 千円



(平成22年度活動計算書より)

イザー育成や農業就業支援、子どもから大人向けの環境学習研究・支援などを行う「人づくり」です。

2009年からは他のNPO「新聞環境システム研究所」「南畑ダム貯水する会」と協働し、九州大学・鹿児島大学の研究者の協力も得て「ベッタ会」というネットワークを形成、さらに広い事業展開を目指しています。

ここをチェック！

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2008年度「ふくおか社会貢献活動表彰」NPO・ボランティア団体と行政との協働部門受賞
- 2008年度 経済産業省「ソーシャルビジネス55選」選出・掲載
- 2009年度 福岡県循環型社会形成推進功労者知事表彰 受賞

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

639 万円 地域新事業創出発展基盤促進事業費補助金 (地域新事業移転促進事業)

主な年間スケジュール

第1土・第3木…生ごみ堆肥を使った菜園講座

第2水・第3木…ベッタ学習会

月1回(土)…オーガニック菜園講座

第2水…みとまごはんの会

詳細はお問い合わせください。

本団体と企業による協働の取組の詳細は、「新しい協働のケース100~これからの社会活性化のヒント~」にも掲載されています。



物語 じゅんなまけんは、家庭における循環型ライフスタイルの応援団!

たいらさんが土づくりに取り組み始めたきっかけは、父親の介護をする中で、本当に安全な食を手に入れることの難しさを実感したことにあります。そこから、口に入れても安全なものは、良い「土」からしか生まれないという結論にたどりついたそうです。

循環する暮らしはこれからの社会が目指すべき形として、その必要性が語られる機会は多いですが、家庭内での循環型生活は、行政や企業の取組に比べて具体的なイメージが見出せないこと、ノウハウを知る組織が少なく途中で挫折してしまうことなどを理由に、なかなか進んでいませんでした。

その課題にそれぞれで取り組んでいた「やかまし村青年団」、そしてたいらさん自身が活動を行っていた「フリーフリーズ」と「コンポスト研究普及活動」のメンバーが集まって、2003年に活動を一本化させたものが循環生活研究所となりました。現在では、地域・企業・行政・大学などと広く連携し、仕組みづくりに力を入れながら活動しています。



▲ ウリの収穫作業



▲ 生ごみ堆肥で育った野菜で料理教室



▲ ダンボールコンポスト講習



▲ 地域循環フリーマーケット



支援者とのコミュニケーション

楽しく体験できる場づくり。活動に参加する人には、「自給自足できる力が身に付く」「おいしいものが食べられる」「土に触れる良さを感じる」など、その人の生活が潤う何かを持って帰ってもらようにしています。



今後の課題と目標

小さな循環の恩恵で地域や人が潤う暮らしづくりのために、全国や海外含めたリーダー同士のネットワークづくりを柱に、さらに「人づくり」に力を入れ、自分たちと同じ活動ができる団体を各地に増やしていきたいと考えています。



協働 循環型の農を通して人が育つ

じゅんなまけんが協働を行う際の強みは、「人材育成」。畑という現場に触れさせることと、高度に特化した専門知識と長年のノウハウを活かしたきめ細やかなサポートを行うことによって、単なる農業体験に留まらない“持ち帰り”を提供します。

これまでの協働事例としては、九州労働金庫の新人社員研修において、社員にNPO活動を体験してもらうこと。日頃、地域のNPO等への融資を行う社員たちは、日常のデスクワークがどのように地域の資金循環と発展につながっているのかを見ることができ、モチベーションの向上につながりました。このほか、オーム乳業株式会社からの依頼により、会社周囲の清掃活動の際に集められた落ち葉から堆肥をつくるための作業指導を行いました。

循環する暮らしはこれからの社会において、それぞれの立場の人に必要とされている概念であるため、子どもの環境教育や親子体験、留学生の受入、就農を前提とした本格的なものまで幅広く、ニーズに合わせてプログラムをカスタマイズすることが可能です。

自家製の土を使って作った野菜は疑いようのない「安全な食」。収穫されたお野菜を誇らしげに見せてくださる表情がそれを物語っていました!



わたしが聞きました

中里 明日香
フリーデザイナー・イラストレーター「スカイハイ・イツオーケストラ」

団体から一言：

私たちと一緒に、土に触れる活動をしましょう!



持続可能な社会の実現へ

特定非営利活動法人

エコけん

<http://www10.ocn.ne.jp/~ecoken/>

主な活動エリア：古賀市、福津市、新宮町、福岡市、北九州市



この人に関わりました



シミズ ヨシカ
清水 佳香【理事長】
環境カウンセラー



暮らしの中でできる 環境保全活動を推進する

持続可能な社会の実現に向け、環境に配慮した暮らしのための「お手軽環境保全活動」を推進しています。

エネルギー環境教室などの出前講座では、学校・企業・地域それぞれに合わせたプログラムを開発し実施。手回し発電器「エネぞう」などのオリジナル教材の開発のほか、体験学習用機器（発電帽・CO2測定器・洗濯リングなど）の貸し出しも行っています。

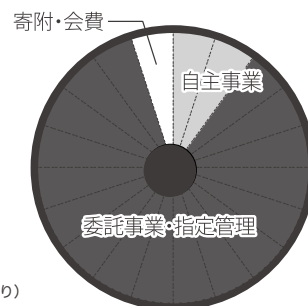
また、1日8時間の1%（およそ5分）をボランティア活動に充てる「エコけん1%クラブ」を提唱し、誰でもできる気軽なボランティア活動を月1回計画、体験の受け皿としています。そのノウハウを活かし、今後は、会社員が地域活動に参画するための準備や予備知識として、退職

団体基礎データ

- 設立年：1999年（法人化2001年）
- 代表者：清水 佳香（理事長）
- 主たる事務所所在地：
古賀市舞の里5-24-13
- 電話番号：092-944-6450
- E-mail：eco_ecoken@ybb.ne.jp
- 職員：常勤2名／非常勤10名
- 理事：50代（地域の環境活動市民）
- 会員：約60人、1団体（20～60代、主婦、公務員、会社員、議員等）
- 主要事業：
 - (1) 環境教育の推進に関する事業
 - (2) 社会貢献活動の普及及び支援に関する事業

特定非営利活動に係る収入

総額：12,483 千円



（平成22年度活動計算書より）

前のセミナーや体験活動へのニーズが増えると予測し、ボランティア入門講座やそのコーディネートに着手しているところです。

2003年度より、地域の環境啓発施設の運営委託を受け、館内の展示や環境教室、イベントなどの企画・運営を継続実施しています。

ここをチェック！

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2011年度「ふくおか共助社会づくり表彰」協働部門賞受賞 西部ガス（株）との協働による「ガス調理器具を用いた『お手軽環境保全』普及事業」

過去の助成・受託等実績（過去最大額のみ表示）

1,097 万円 古賀清掃工場
再生・展示棟運営等業務委託

主な年間スケジュール

隔月…… かえっこ バザール
9～11月…… るんるん♪ごみ拾い
8月…… 教職員対象学習プラン
作成ワークショップ

詳細はお問い合わせください。



みどりをつくる ひとを育てる

特定非営利活動法人

グリーンシティ福岡

<http://www.greencity-f.org/>

主な活動エリア: 福岡県、九州各地、ベトナム



シガ ソウジ
志賀 壮史[理事]
ファシリテーター

団体基礎データ

- 設立年: 2003年(法人化2003年)
- 代表者: ヒガシジマ ユウ 東島 勉(理事長)
- 主たる事務所所在地:
福岡市中央区渡辺通5-24-30 東カン福岡第一ビル1019
- 電話番号: 092-215-3913
- E-mail: info@greencity-f.org
- 職員: 常勤3名 / 非常勤0名
- 理事: 40~70代(造園業、大学教員等)
- 会員: 約20人(30~70代、緑化・造園・環境保全専門家等)
- 主要事業:
(1) 自然環境や地域資源を生かしたまちづくり事業の企画・運営事業 (2) 環境教育に関するプログラム立案・研修会・講演会等の事業

概要

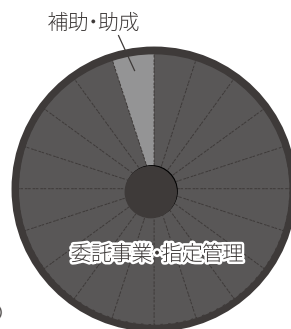
みどりのまちづくりの専門家集団

都市の中に豊かな緑地を持ち、自然に親しみながら人間らしい暮らしが営める空間をつくり出すため、緑化推進事業、市民との協働による環境教育や国際交流のための事業を通して、自然環境や地域環境の保全及びそれを担う人材を育てることを目的に活動しています。

2009年度から3年間取り組んだ福岡市との共働事業「志賀島歴史と自然のルートづくり事業」では、行政だけでなく地域・ボランティア・専門家等とも一緒に、観光ルートの保全活動を実施。企業からはCSR活動の一環として、社員の参加が得られたほか、ルートの維持管理や清掃活動など、地元住民による自主的な取組も始まり、活動に広がりが見られました。また、保全したルートを

特定非営利活動に係る収入

総額: 12,013 千円



(平成 22 年度活動計算書より)

歩く「史跡ガイドツアー」や「焚き火カフェ」などのイベントを企画・実施することで、志賀島の魅力の発信に努めました。ほかにも森林セラピーの案内人養成や各種会議のコーディネーター、里山の間伐材を使った文房具や食器を製作するワークショップなどを実施しています。職員や会員には、公園緑地や造園に関する技術者、環境教育のインタープリター、各種ワークショップのファシリテーターといった、現場の専門家が揃っています。

ここをチェック!

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2012年度「ふくおか共助社会づくり表彰」協働部門賞 受賞
- 2012年 eco japan cup 2012 セブン-イレブン記念財団賞 受賞

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

350 万円 篠栗町森林セラピー事業委託

主な年間スケジュール

- 4~5月…… 松原保全活動
- 4~6月…… 森のめぐみ 一緒につくろう大事につかおう
- 秋~冬…… 志賀島森林保全ボランティア

詳細はお問い合わせください。



持続可能なライフスタイルを里山的暮らしのデザインで！

特定非営利活動法人

里山を考える会

<http://www.satoyama.cn/>

主な活動エリア：北九州市八幡東区



1人1町おこした



ナルミ ユウタ 鳴海 勇太[職員]



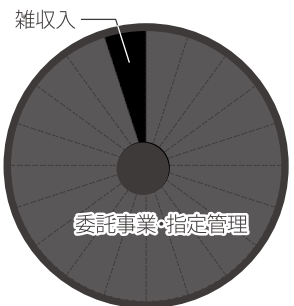
概要 里山の持つ「つながり」の仕組みを、現代の都市へ活かしたまちづくり

里山の保全活動を行うとともに、里山暮らしで培われてきた知恵と多様な価値を見直し、持続可能な社会づくりに活かす「農村での活動」「都市での活動」、そして、それらでつながった人々を、さらなる活動へ結び付けていく「つなぐ活動」を行っています。その活動拠点として運営している、八幡東区の「東田エコクラブ」には、NPO・団体・企業等8つの団体の事務所が入居し、協働や地域交流の場として広く活用されています。2009年度から、公益財団法人タカミヤ・マリバー環境保護財団との共同事業体で、「北九州市環境ミュージアム」の指定管理業務を行っており、豊富な環境学習の実績を活かして市民の環境学習・交流の企画運営の役割を担っています。



特定非営利活動に係る収入

総額：103,359 千円



(平成 22 年度活動計算書より)

2012年には、新日鉄住金エンジニアリング株式会社から、社員寮をまちづくりの場にしたいとの話があり、CSRプロジェクトの企画・実施を協働で行い、「エンジ村」と名付けたハーブガーデンが誕生しました。その開村記念と連動させてプロデュースした東田地区のお祭り「Share!東田まつり2012」では、「おもちゃ・わかちあい・おすそわけ」をテーマに、地域企業・住民・行政が協力し合い106もの企画を実施。3日間にわたるイベントの参加者は8,400人にものぼりました。

ここをチェック！

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2008年度 経済産業省「ソーシャルビジネス55選」選定・掲載
- 2012年 タブロイド紙「Share!創刊号」(5月)、「Share!2号」(12月) 発行

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

4,100 万円 「北九州市環境ミュージアム」指定管理業務

主な年間スケジュール

- 5～6月… Share!東田まつり/未来ホテルデー
- 9月… もりフォーラム
- 11月… 手作り市場in北九州
- 12月… 北九州里山トラスト会議(里山祭)

詳細はお問い合わせください。

本団体と企業による協働の取組の詳細は、「新しい協働のケース100～これからの社会活性化のヒント～」にも掲載されています。



紙は近くで資源化しよう！

特定非営利活動法人

新聞環境システム研究所

<http://www.pepa.jp/>

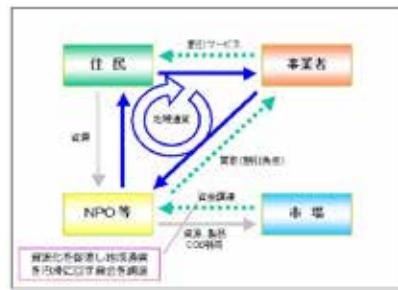
主な活動エリア：福岡県



この人に聞きました



カク ムツヒロ
加来 睦博【理事】



団体基礎データ

● 設立年：2001年（法人化2001年）

● 代表者：川上 義光（理事長）

● 主たる事務所所在地：

福岡市東区名島3-6-2

● 電話番号：092-662-2226

● E-mail：info@pepa.jp

● 職員：常勤2名／非常勤5名

● 理事：40～60代（自営業、元会社員等）

● 会員：約10人（40～60代、元会社員等）

● 主要事業：

（1）新聞紙等の回収、運搬、再利用に関する
コンサルタント事業及びシステムの運営受
託事業 （2）新聞再生商品及び再生促進シ
ステム等の研究開発事業



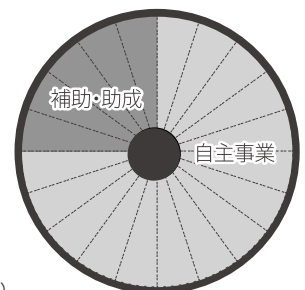
紙を大切に作る心を育む

事業の中心は新聞の収集とリサイクルの促進で、8市町（みやこ町、福岡市、苅田町、行橋市、飯塚市、久留米市、宮若市、糸島市）において、地域のスーパーや公共施設、交通事業者の協力を得ながら活動しています。回収業者に頼らず住民自らが集荷場に新聞を運ぶことで、住民のリサイクルに対する自主的な行動を促しています。

新聞30kgと引き換えに、地域通貨「30ペパ」を発行するという「資源銀行」のシステムを構築・実践しており、福岡市、久留米市、飯塚市の場合、「30ペパ」はバスや地下鉄などのICカード購入やチャージの際80円の割引券として使用することが可能。行橋市、みやこ町の場合、地元のバス・鉄道・タクシーに加え、農産物直売所でも使

特定非営利活動に係る収入

総額：3,523 千円



（平成22年度活動計算書より）

用できます。これには、環境負荷軽減のために公共交通機関の利用を促進し、地元経済を活性化するという目的もあります。

近年では、新聞紙を再利用して制作する「ペパ鉛筆」の普及に力を入れており、Webサイトからは制作方法の写真や動画を見たり、手作りキットを購入することができます。作り方出張講習は福岡県内に留まらず、全国各地の高齢者・障がい者福祉施設などにも広がっています。

ここをチェック！

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2006年 NHK放送80周年企画「地球だい好き環境コンテスト」地域通貨でリサイクルしま賞受賞
- 経済産業省九州経済産業局「九州のソーシャルビジネス最前線2011」掲載

過去の助成・受託等実績（過去最大額のみ表示）
なし

主な年間スケジュール

- 第1・第3土…新聞集荷&地域通貨「ペパ」交換（福岡市）
- 第1・第3土…新聞集荷&地域通貨「ペパ」交換（みやこ町）
- 第2・第4土…新聞集荷&地域通貨「ペパ」交換（行橋市）
- 第3木…ベッタ学習会（紙の学習、ペパグッズ工作）

詳細はお問い合わせください。



安全・安心な都市交通体系の実現を目指す

特定非営利活動法人

タウンモービルネットワーク北九州

<http://www.npo-ktmn.com/>

主な活動エリア: 北九州市、福岡市、熊本市



この人に聞きました



ウエキ カズヒロ
植木 和宏[理事長]

団体基礎データ

- 設立年: 2002年(法人化2003年)
- 代表者: 植木 和宏(理事長)
- 主たる事務所所在地:
北九州市小倉北区浅野2-14-2
- 電話番号: 093-531-2200
- E-mail: info@npo-ktmn.com
- 職員: 常勤7名 / 非常勤10名
- 理事: 30代、60代(自団体職員)
- 会員: 約90人(40~50代、会社員等)
- 主要事業: (1) 自転車利用促進による近距離交通の適正な発達と中心市街地の活性化を図る事業
(2) 自転車駐車場等、駐車場施設の整備推進による放置自転車の追放を図る事業



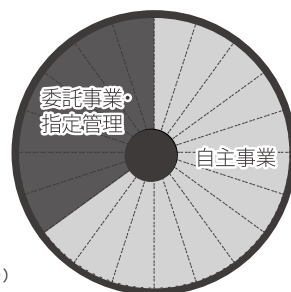
概要 交通からまちづくりへ、経済のインフラも交通整理していく活動

オランダやフランスで既に一定の運用実績があり、行政も関与する公共交通としてのインフラとなっている、都市部の自転車のシェアシステムをモデルに、事業を設立しました。小倉市街、八幡東区東田地区において展開するこのシステムは、現在年間約12,000人の利用があります。このほか、電気自動車を含むカーシェアリング事業や、自転車マナー向上のための講習会、資格制度も実施しています。

2008年からサイクリングイベント「サイクルツアー北九州」を毎年開催し、自転車マナーの向上とまちの活性化に寄与しており、2010年は小倉都心部のにぎわい創出「We Love小倉協議会」を設立するなど、活動を広げて

特定非営利活動に係る収入

総額: 80,834 千円



(平成22年度活動計算書より)

います。また、この取組に賛同した「リーガロイヤルホテル小倉」では、格安の賃料で1階の事務所テナントと、その前に設置されるカーシェアステーションの運営に協力しており、サイン効果でのイメージアップと観光客の便利な足として、企業とNPOにwin-winの関係をつくっています。

ここをチェック!

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2008年 第6回「北九州市環境賞」奨励賞 受賞
- 2009年 ソーシャル・ビジネス・アワード「ソーシャル・エコビジネス賞」環境大臣賞 受賞

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

1億1,250万円 環境省 環境保全型地域づくり支援事業 (コミュニティサイクル導入促進事業)

主な年間スケジュール

常時……北九州市自転車運転免許講習会
10月……サイクルツアー北九州

詳細はお問い合わせください。





貧困の生まれる仕組みを知り、自分たちの力で解決していくために

特定非営利活動法人

ソルト・パヤタス

<http://salt.or.tv/>

主な活動エリア：福岡市、糟屋郡、フィリピン



この人に聞きました



オガワ エミコ
小川 恵美子 [理事/事務局長]

団体基礎データ

- 設立年：1995年(法人化2008年)
- 代表者：小川 博 (理事長)
- 主たる事務所所在地：
糟屋郡篠栗町大字篠栗3686-1
- 電話番号：092-939-3633
- E-mail：contact@salt.or.tv
- 職員：常勤(国内：1名・海外：7名)/非常勤
国内：2名
- 理事：20～60代(主婦・自団体職員・会社員)
- 会員：約105人(10～70代)
- 主要事業：
 - (1) 貧困地域での子どもエンパワメント事業(教育支援)
 - (2) 貧困地域での女性収入向上事業



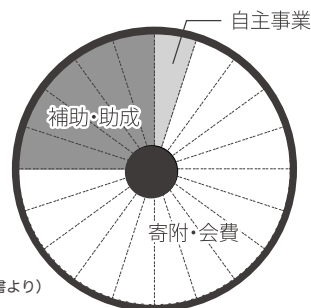
概要 全ての国の人々へ。子どもに学ぶ環境を、大人に働く環境を

フィリピン・ケソン市のパヤタス、カシグラハンというゴミ山周辺のスラムに暮らす人々、特に「子ども」と「女性」への支援を中心に行っています。

「子どもエンパワメント事業」では、家庭が貧しくて学校に行くことができない子どもたちのために、寄附金や助成金をもとにした奨学金により就学・復学の機会を提供し、学力向上のための補習活動や、子ども図書館づくりなどを実施しています。奨学金の受給希望者は現地職員が家庭訪問と調査を行い決定。受給期間中の子どもたちは、毎日、学校へ通うのに必要な交通費や食費を、ソルトから直接受け取るシステムになっており、健康状態や学習意欲の日常的なモニタリングと、丁寧な対応が

特定非営利活動に係る収入

総額：9,018 千円



(平成22年度活動計算書より)

可能になっています。

現地の女性たちはかつてゴミ拾いを収入源としていましたが、自立・安定した生活を願う彼女たちのため、クロスステッチのトレーニングを行い、「手刺繍プロジェクト」を支援しています。

団体を設立し、貧困問題に取り組むきっかけとなったのが現地への訪問、現地の人との直接交流だったことから、スタディツアーにも力を入れています。

ここをチェック！

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2010年 福岡市市民国際貢献賞受賞
- 2011年 西日本新聞、朝日新聞 掲載他多数
- 2012年 24時間テレビ内で特集・放映

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

201 万円 かながわ国際協力基金助成金

主な年間スケジュール

- 2・3・8・9月… スタディツアー
(参加が寄附にもなります)
- 6月… 児童労働反対世界デー
キャンペーン活動

詳細はお問い合わせください。

物語 塩(ソルト)のように目立たないけれど、顔の見える形で関わり、つながり、共感し助け合う

もともとは高校の英語教師をしていた小川さん。知人からフィリピンに関する文章の翻訳を頼まれた際、「現地のことを知りたい」と思い、1994年にNGOのスタディツアーに参加し、初めてパヤタスを訪問しました。願っても学校に行くことができず、危険なゴミ山で働く子どもたちの存在を知ったことがきっかけで、「19名の子どもたちに6年間の奨学金を支援する」という具体的な目標と約束を、現地の人々と結びました。

そこで、いずれソルトと一緒に立ち上げることになる一人の女性と出会います。彼女はもともと、「日本に出稼ぎに来て、やむなく夜の仕事をしているフィリピン人女性が、安心して子どもを預けられる保育園を設立したい」との強い思いを持っていましたが、小川さんの思いや目標に共感。彼女が先にフィリピンへ行き、人間関係を築くなど基盤を整え、翌年小川さんは仕事を辞めて、フィリピンで本格的な活動を始めました。

2000年には、「スモーキーマウンテン」として有名なゴミ山の崩落により、約700人もの人が生き埋めとなり死亡した悲しい事故もありました。これからはソルトは、教育機会と雇用の創出に取り組んでいきます。

支援者とのコミュニケーション

スタディツアーの参加によって現地の状況を知り、その後、寄附やボランティアという経験を経て会員にステップアップするケースが多く、顔の見える関係づくりを大切にしています。

今後の課題と目標

事務局体制をもっと安定させるための経理や総務の体制整備、商品開発や販売のためのマーケティング戦略考案を重要課題と捉え、ビジネスパーソンのプロボノを探しています。



▲ ゴミ山で働く子どもたちとの出会い
(1994年8月7日)



▲ 現地の子どもエンパワメントセンター



▲ 学費を支援してくださるスポンサーに手紙を書く奨学生



▲ 宮原タオル株式会社と共同開発の「あんしんふたおる」

協働 NGO活動にも、企業との連携・ビジネスの概念を積極的に取り入れていきたい

これまで「慈善事業」「ボランティア」と位置付けられることが多かったNGOの活動ですが、最近は「ソーシャルビジネス」や「BOPビジネス」として位置付けられることもあり、フィリピンの現地事務所には、社員研修の一環としてスタディツアー参加を希望する日本企業も少なくありません。双方に負担がなく、メリットのあるプログラムの開発を進めています。

国内では、会社のノベルティグッズに、フィリピンの女性による刺繍を入れたいという要望がこれまであり、冠名を付けた奨学金スポンサー制度というアイデアもあります。

2012年からは、久留米市にある宮原タオル株式会社と協働で、赤ちゃんの肌に安心して良質な素材を使ったタオルに、プロデザイナーが考案したデザインを使って、フィリピンの母親たちが刺繍した製品を開発。ソルトのインターネットショップ「アトリエ Likha(リカ)」や、各種イベントブースなどで販売をしています。事業収益を伸ばし、フィリピンの女性たちの仕事の機会をつくっていきたくと考えています。

現地支援メニューのパッケージ化など事業の先進性だけではなく、スタッフの方々の人となりもまた、ソルトの大きな魅力であると感じました。



わたしが聞きました
マツシマ タクミ
松島 拓
NPO 法人アカツキ
事務局長

団体から一言：ILO(国際労働機関)は、世界で7人に1人いるとされる児童労働者に教育を与える費用に対し、彼らがいずれ社会に生み出す経済的利益は、6倍になると試算しています。弱者救済以上に人材育成、社会投資と捉え、是非ご支援を。



ひとはみんなの為に みんなはひとりの為に

認定 特定非営利活動法人

ロシナンテス

<http://www.rocinantes.org/>

主な活動エリア: スーダン共和国、宮城県南部



この人に聞きました

カイハラ ロクロウ
海原 六郎【事務局長】

撮影:内藤順司

団体基礎データ

- 設立年: 2005年(法人化2006年、認定2012年)
- 代表者: カイハラ ナオユキ 川原 尚行(理事長)
- 主たる事務所所在地:
北九州市小倉北区萩崎町9-35
- 電話番号: 093-922-6470
- E-mail: info@rocinantes.org
- 職員: 常勤(日本:10名・スーダン:26名)/非常勤4名
- 理事: 60代(会社役員・医師等)
- 会員: 約100人(50代・医師・会社員等)
- 主要事業:
(1) スーダンをはじめ関係する国々の人々への生活改善に寄与する事業と人材の育成や交流を推進する事業 (2) 紛争や災害による被災民に対しての救援や復興協力活動



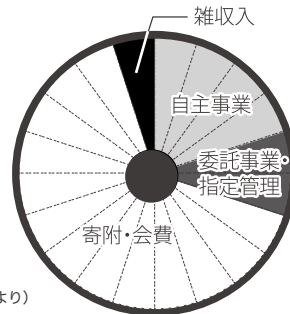
ロシナンテスが考えるのは 100年後の未来

ロシナンテスは、アフリカ・スーダン共和国で「医療活動」を中心に「母子保健事業」「水・衛生事業」「学校・教育事業」「スポーツ事業」「交流事業」に取り組んでいます。また、東日本大震災発生直後は、緊急医療のために現地入りし、現在も宮城県南部を中心に復興支援活動を継続。津波で被害を受けた地域の復興のシンボルになることを願い、現地の子どもたちと一緒に桜の木の植樹も行いました。

ロシナンテスの活動の特長は「ともに歩む」という点です。対等な立場で地元の人々と付き合い、共に考え行動し、そこに住む人々が自立できる仕組みをつくっていきます。

特定非営利活動に係る収入

総額: 117,135 千円



スーダンと東北に共通するのは、昔ながらの地域の人々の結び付きがとても強い地域だということ。「地域の和」を尊重し、同じ釜の飯を食べながら信頼関係を築いています。また、近視眼的な結果ばかりを求めず「明日の子どもたちの笑顔のために」活動しています。私たち大人にとって生きる力となるのは「子どもたちの笑顔」です。今、目の前にいる子どもたちと、さらに次の世代の子どもたちの笑顔と希望のために何をすべきか、大きな視野を持って活動を続けています。

ここをチェック!

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2009年 毎日放送「情熱大陸」TBS系列全国放送で代表・川原尚行の特集が放映
- 2010年 日本テレビ「行列のできる法律相談所」で活動が紹介、代表・川原も出演

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

2,270 万円 JICA 草の根技術協力事業による母子保健事業

主な年間スケジュール

通年… 会報・年次報告書発送作業

通年… 講演活動(物販販売スタッフ募集)

8月第1土・日… わっしょい百万夏祭りブース出展

3月… シンポジウム「集え!若きロシナンテたち!!」

詳細はお問い合わせください。



物語 痩せ馬ロシナンテ 集まれば強いロシナンテス!

「ロシナンテ」とは、ドンキ・ホーテの乗る痩せ馬のこと。無力な痩せ馬たちでも、集まり「ロシナンテス」になれば、きっと「事が成せる」。それがロシナンテスの名前の由来です。

かつて、在スーダン日本大使館の医務官だった川原尚行さんは、医師でありながら、医務官という立場では、現地で病気で苦しんでいる人々を診察することができないことに、葛藤していました。アフリカの現実を見た者として、「一人の医師として目の前で困っている人を助けたい」との思いを強くし職を辞したのが2005年、NPOを立ち上げ、難民問題や医療問題の解決を目指し、スーダンで活動していくことを決めました。

大きな支援組織もなく、ゼロからスタートした団体に力を貸してくれたのが、高校のラグビー部でともにボールを追いかけた仲間、九州大学医学部の友人や恩師たちでした。彼らは各々の分野で活躍しており、資金や人脈、専門知識や技術を使って、惜しみない協力をしてくれました。現在の理事や会員の多くはその関係者であり、川原さんの最も身近にして最大のファンと言えるでしょう。

支援者とのコミュニケーション

年次報告書、会報(年2~3回)、講演会での報告、お礼状や領収書の発行などはもちろんですが、メディアに取り上げられて「多くの人に活動を見てもらうこと」も大切な恩返しの一つだと思っています。

今後の課題と目標

「人材」を大事に考えています。日本の優れた農業や水産業・医療の技術をスーダンに伝え、自立・管理運営を現地でまかなえる体制づくりを目標としています。



必要なのは「人材」と「技術」 幅広い分野の企業との協働

東日本大震災発生後、すぐに被災地へ向かった川原さん。避難所での診療の際には、必ず一人ひとりに声をかけて廻っていたとのこと。スーダンにおいて、村の人々の中で彼の顔と名前を知らない者はいないと言われていました。個人の痛みや思いに寄り添い、地道に築く「縁」はやがて強い「絆」となっていく。これが、世界中のどこにいても変わらない、ロシナンテスの姿勢です。

近年は特に人材育成や技術指導に力を入れており、企業との協働においては、日本の医療機器メーカーや病院と連携し、現地の病院で維持管理方法について指導しています。

ロシナンテスは「医療支援」の印象が強いですが、事業内容はコミュニティに必要な教育や農業など多岐にわたっているため、同じ手法で幅広い分野の企業との連携が考えられます。長期的に、現地の産業・市場の開拓に成り得るこの協働は、ロシナンテスと各種現地機関との信頼関係がベースとなっているからこそ可能なモデルです。

団体から一言：どんな人でも必ず、誰かのために、世界のためにできる何かがあります!まずは小さな一歩から、前に踏み出してみてください。



撮影:内藤順司

▲ 壊れた給水所の修復により衛生環境が改善



撮影:内藤順司

▲ 女子小学校の建設を喜ぶ子どもたち



ユリアグ
▲ 関上・スーダン大運動会

撮影:ロシナンテス



撮影:内藤順司

▲ サッカーを通じて社会性を身に付ける

取材中、お隣で理事がお礼状の宛名書きをされていた。「支援者の方々に感謝の気持ちを伝えたいから」とのお言葉が印象的でした。



わたしが聞きました

中里 朝白香
フリーデザイナー・イラストレーター「スカイハイツオーケストラ」



ギニアビサウの未来を担う子どもたちに教育を

特定非営利活動法人

エスぺランサ

<http://www.npo-gb-esp.org/>

主な活動エリア：ギニアビサウ共和国ビサウ市、福岡県、鹿児島県、佐賀県、東京都、いわき市、堺市等



この人に関わった



ババ キク子
馬場 菊代【理事長】

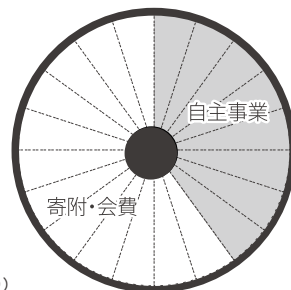


ギニアビサウの未来を担う子どもたちに教育を

西アフリカに位置するギニアビサウ共和国において、子どもたちの就学環境の充実を図り、国の未来を担う人材づくりを進めるため、2003年に首都ビサウ市にソナック小学校を、2009年には中学校を建設・開校し、質の高い小・中一貫教育を展開。現在では、ソナック小・中学校に通う450人のうち、特に貧困が原因で授業料が払えず、学校に通うことのできない子どもたち200人に対して、日本の支援者からの寄附金を奨学金として活用する「里親支援制度」を実施し、就学・教育の機会を提供しています。2011年には、フィンランドからソナック中学校への里親支援も開始されるなど、国を越えて支援の輪が広がっています。

特定非営利活動に係る収入

総額：15,202 千円



(平成22年度活動計算書より)

また、現地での活動だけでなく、日本国内では中学校への講師派遣や講演会も積極的に実施しているほか、外務省が開催する「アフリカン・フェスタ」に毎回参加し、ギニアビサウ共和国をPRするなど、在日大使館のない同国の紹介にも力を注いでいます。朝倉市のほか全国各地で、エスぺランサの支援者によるギニアビサウ共和国支援のためのチャリティーイベントも開催されています。

ここをチェック！

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2005年 NHK教育テレビで放映
- 2008年(財)ソロプチミスト日本財団社会ボランティア賞 受賞
- 2012年 読売新聞、西日本新聞 掲載他多数

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

150 万円 ひろしま祈りの石国際教育交流財団

主な年間スケジュール

年1～2回…… スタディツアー

年1回…… チャリティーコンサート
(支援者が開催)

5月…… アフリカンフェスタ

詳細はお問い合わせください。



つながる、自分と世界の幸せ

特定非営利活動法人

NGO福岡ネットワーク

<http://funn.nngo.jp>

主な活動エリア: 福岡県を中心に九州全域



この人にもあった



ハラダ キミコ
原田 君子 [理事/事務局長]
佐賀大学非常勤講師



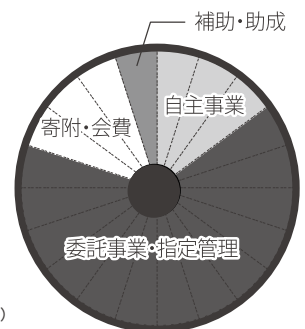
横につなげる、裾野を広げる

NGO福岡ネットワーク(通称:FUNN)は、国際的な活動を行っているNGO団体の活動や団体間の協力を促進し、発展させるための活動を行うネットワーク組織です。現在、福岡県を中心に23の団体が加盟しており、その運営に携わっています。

NGOと外務省の定期協議会「ODA政策協議会」に参加し、政策提言へも参画。また、九州地区最大のネットワークNGOとして、外務省から委託を受け、市民からのNGOや国際協力に関するさまざまな相談に応じる「NGO相談員」も務めており、企業からのCSR相談に対しては、NGOとのマッチング・企画コーディネートの実績も持っています。

特定非営利活動に係る収入

総額: 5,121 千円



(平成22年度活動計算書より)

また、NGOに関心のある市民への、行動のきっかけづくりの支援も積極的に行っており、NGOの活動の関わり方を学ぶ連続講座「NGOカレッジ」や、ワークショップを通して国際協力について学ぶ「NGO入門講座」などを実施。2012年度には、NGOを仕事にするためのキャリアプランの作成を目的とする「国際キャリアデザイン研修」を初めて実施し、全国でも珍しい試みとして注目されました。

ここをチェック!

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2000~2012年 外務省NGO相談員
- 2008年「JCOMTV」に代表・二ノ坂保喜出演
- 2011年度「ふくおか共助社会づくり表彰」地域貢献活動部門賞 受賞

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

300 万円 外務省 NGO 相談員

主な年間スケジュール

- 月1回…… 倶楽部FUNN (勉強会 兼 交流会)
- 月1回…… NGO入門講座
- 10~12月…… NGOカレッジ
- 10~3月…… 国際キャリアデザイン研修

詳細はお問い合わせください。



医療支援を通して、被災地ベラルーシへ心をつなぐ

NPO法人

チェルノブイリ医療支援ネットワーク

<http://www.cher9.to/>

主な活動エリア：福岡市、古賀市、ベラルーシ



理事・事務局長



カワハラ ヒロユキ
川原 秀之[理事/事務局長]



概要 海を越え、ともに課題に立ち向かう 医療専門家と市民のネットワーク

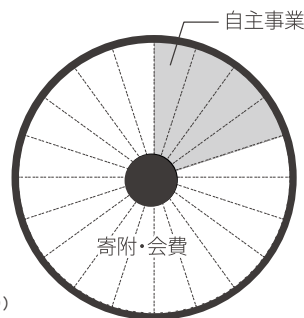
チェルノブイリ原発事故で被災した方々のために、現地医療システムの確立や医療技術の向上、人材育成支援を行っている団体です。

年に1～2回、日本・ベラルーシ医療専門家合同チームによる甲状腺がんの移動検診を実施し、その際に関係機関へ医薬品・医療機器の提供も行っています。そのため、医療系企業や自動車メーカーからはそれらの物資や車両の提供による協力、大学や研究機関においては、現地の臨床データ視察ツアー等での連携を求めています。

現地にある福祉工房「のぞみ21」では、事故で被災した若者や障がいを持つ青年たちの経済的・社会的自立

特定非営利活動に係る収入

総額：10,010千円



(平成22年度活動計算書より)

に向け、マトリョーシカや刺繍、木工製品など手作りの作品を製作しており、そこから商品を仕入れ日本国内で紹介・販売。また、甲状腺がん検診活動報告集の作成や現地の被曝の現状を伝える書籍の出版、講演会も実施しています。

2012年12月、日本政府とベラルーシ政府の間では、原子力発電所における事故と対応の協力に関する協定が結ばれたことから、これまでの専門的知見の集積と市民草の根の交流を、うまく活かしていきたいと考えています。

ここをチェック！

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2006年 中国新聞連載特集「原発事故20年 チェルノブイリに暮らす」に協力
- 2011年度 福岡市市民国際貢献賞 受賞
- 2012年 西日本新聞、毎日新聞、朝日新聞 掲載

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

376万円 チェルノブイリの母子支援募金 (カタログハウス助成金)

主な年間スケジュール

- 年4回…… 会報誌発行
- 年1回…… チャリティヘアサロン「スネガビーク」
- 4～5月…… ベラルーシへの調査団派遣
- 9～10月…… ベラルーシへの検診団派遣

詳細はお問い合わせください。



子ども・教育



すべての子どもに愛ある家庭を

認定 特定非営利活動法人

子どもの村福岡

<http://soscvj.org/>

主な活動エリア: 福岡市を中心に東北、全国



この人に聞きました



オオタニ ジュンコ
大谷 順子【事務局長／専務理事】
(特)子どもNPOセンター代表理事、(特)日本SOS子どもの村常務理事



子どもたちを社会全体で支える、「新しい家族」

子どもの村は、育親(いくおや)と3～5人の子どもたちが一軒の「家族の家」で生活するところです。育親は里親登録をし、児童相談所から委託を受けた子どもたちを育てます。村の「センターハウス」では、村長と職員、育親アシスタントが常駐しています。臨床心理士、小児科医などの専門家が定期的に訪れ、子どもたちのケアや育親のサポートに携わっています。

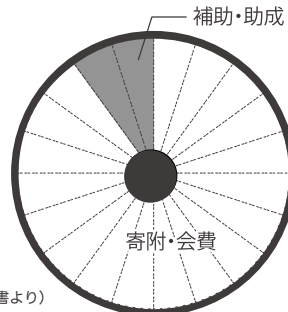
子どもにとって大切な「家庭的な環境」と「専門的なサポート」を柱に、地域とともに子どもたちを育てること、また、村の子どもたちとの関わりから得たものを地域の親や里親、支援者の方々に還元していくこと、そして、子どもに関わるさまざまなNPOなどと連携し、より広い視

団体基礎データ

- 設立年: 2006年(法人化2006年、認定2009年)
- 代表者: 満留 昭久(理事長)
- 主たる事務所所在地:
福岡市中央区今川2-14-3 サンビル3F
- 電話番号: 092-737-8655
- E-mail: fukuoka@soscvj.org
- 職員: 常勤(事務局5名・村6名)/非常勤0名
- 理事: 40～70代(小児科医、大学教員、企業役員・OB、NPO役員等)
- 会員: 個人: 約1,600人、企業・団体: 約350社(30～80代、「家族と暮らせない子どもたち」に関心のある個人・企業)
- 主要事業:
子どもの村の建設・運営事業

特定非営利活動に係る収入

総額: 113,643 千円



(平成22年度活動計算書より)

野で子どもたちの問題に取り組むことによって、「子どもにやさしい社会」を築いていきます。

支援会員や後援会には、福岡の企業とその役員が名前を連ねており、NPOを中心に行政・民間が一体となって取り組むことで、社会の中で立場の弱い子どもたちが直面する問題に、多くの人が向き合い関わる場をつくり出しています。

ここをチェック！

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2012年 第1回「エクセレントNPO大賞」組織力賞/ノミネート
- 2012年度「子ども若者育成・子育て支援功労者表彰」内閣総理大臣表彰 受賞
- 2012年 福岡市都市景観賞 活動部門受賞

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

930 万円 独立行政法人福祉医療機構(WAM) 助成
「家庭的養育支援ネットワークと心のケア事業」

主な年間スケジュール

- 通年…… イベント・募金活動運営スタッフ
- 通年…… 事務所 PC・事務作業
- 通年…… 子どもの村における学習支援

詳細はお問い合わせください。

物語 「新しい絆」プロジェクトとSOS子どもの村の出会い

「親の病気や経済理由、虐待や育児放棄などのさまざまな事情により、親のもとで暮らすことのできない子どもたちの問題を多くの方に知ってもらいたい」「一人でも多くの子どもが家庭的な環境の中で育ってほしい」という思いで、福岡市と子どもNPOセンター福岡の協働事業「市民参加型里親普及事業（「新しい絆」プロジェクト）」に取り組んでいたメンバーの一人である、大谷さんと、国際NGO「SOS子どもの村」を知り、「日本にも子どもの村をつくりたい」と思っていた株式会社千鳥屋饅頭総本舗の社長（当時）故・原田さん、このお二人が出会ったところから活動が始まりました。

「新しい絆」プロジェクトを通して、福岡市の里親委託率は7年間で6.9%から30.75%（2013年2月1日現在）に飛躍的に伸び、全国的に注目されています。このプロジェクトから学んだ「里親が安心して子どもを育てるためには、『地域の支え』と『専門的なサポート』が不可欠」ということと、その実現を可能にするSOS子どもの村の理念とプログラムの導入により、子どもの村福岡はつくられました。

支援者とのコミュニケーション

ニュースレターの送付や、「支援会員感謝の会」の開催、子どもの村への招待など、多くの支援者に村の様子を伝えると同時に、直接意見をもらい団体運営の参考にしています。

今後の課題と目標

支援者と直接顔の見える関係を築くことが重要と位置付けており、常勤職員の増員と、ボランティアスタッフのスキルアップを今後の目標としています。

協働 寄附はプロジェクトへの参加 支援者と子どもをつなぐことで当事者意識を

子どもの村福岡では、企業の協力により売り上げの一部が寄附される支援自動販売機を設置しています。この取組は資金調達だけでなく、これをきっかけに多くの方に子どもの問題について知ってもらうことを期待しています。

「子どもの村の子どもたち」のことは一部の子どもたちの問題に見えて、実は、広く一般の家庭や地域社会にもつながる課題を投げかけているのではないのでしょうか。寄附や自販機設置等で支援・協力をいただく企業とさらに連携を深めていくことで、社員の家庭のあり方、ワークライフバランス意識の向上や、子育て支援企業としての発信ができ、企業も元気になるのではないかと考えています。

また、子どもの村福岡には、ボランティアが自主的に立ち上げたグループ「子どもの村ボランティアネットワーク（通称：こぼら）」があります。参加者自らイベントや募金活動を企画・運営することによって当事者意識が生まれ、自分の言葉で子どもの村福岡の活動を語れるようになり、メンバーの意欲と満足につながっています。

団体から一言：「愛ある家庭」で育つのは子どもの権利です。豊かな未来を築くためにも社会全体が力を合わせて、「すべての子どもに愛ある家庭を」。



▲ 里親研修



▲ 健康相談



▲ 街頭募金活動



▲ 寄附付き自販機

実際の取組や、その思いをお聞きして、「子どもの心に寄り添うとは、こういうことを指すのだな」と学ばせていただきました。



わたしが聞きました

ミヤコ ユキオ
宮田 悠輝夫
NPO法人福岡被災地前進支援
運営スタッフ



きっと、わかりあえる もっと、話しあえる

認定 特定非営利活動法人

チャイルドライン「もしもしキモチ」

<http://www8.ocn.ne.jp/~moshi2/>

主な活動エリア：全国



この人に聞きました



ミヤケ レイコ 三宅 玲子【専務理事／事務局長】



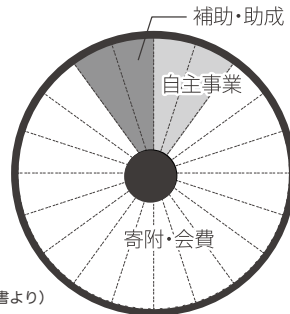
子どもの声(願い)は 時代・社会の証言(鏡)

チャイルドライン「もしもしキモチ」は、18歳までの子どもなら誰でもかけることができる子どものための相談電話のことです。話す内容は何でもOKであり、「キャッチャー」と呼ばれる聴き手はお説教・押し付けなどはせず、子どもたちの声をしっかりと受け止めます。電話受付は毎週水曜日18時～23時と第2火曜日18時～21時に実施しています。

ボランティアで構成される「キャッチャー」の育成・教育のために、毎年約半年間、合宿と実技指導を含む全12回の講座を開催。同時に、現在キャッチャーとして活動しているボランティアを対象としたフォローアップ研修や、広く一般を対象とした「ことばを紡ぐワークショップ」なども行っています。課題解決が目的ではなく、子どもの「気持ち」や「心」に寄り添い、受け止めることを大切にするとともに、子どもたち一人ひとりが自分らしく生きられる社会の実現を目指しています。

特定非営利活動に係る収入

総額：6,004 千円



(平成22年度活動計算書より)

プ」なども行っています。課題解決が目的ではなく、子どもの「気持ち」や「心」に寄り添い、受け止めることを大切にするとともに、子どもたち一人ひとりが自分らしく生きられる社会の実現を目指しています。

ほかにも、チャイルドラインの存在そのものを多くの子どもたちや大人たちに知ってもらうため、県内各地の行政と連携して、子ども向けカードや、啓発ポスターの配布を行っています。

ここをチェック！

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

● 2011年度 第51回 日本アドバタイザーズ協会「消費者のためになった広告コンクール」JAA賞受賞
(博報堂社会貢献プロジェクトの協力により、全国チャイルドラインの広告が、「NEWSWEEK 日本版」「週刊ダイヤモンド」等の雑誌に掲載)

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

100 万円 日本財団 ROAD プロジェクト
(震災支援、人材養成)

主な年間スケジュール

5～10月… キャッチャー(電話の受け手)養成講座
11月… 「子どもの虐待防止」キャンペーン
12月… 市民フォーラム
3月… ことばを紡ぐワークショップ

詳細はお問い合わせください。



物語 全国、地域に広がる大人たちのつながりが、子どもの声を受け止める

「チャイルドライン」は、子どもの立場に立って悩みや言いたいことをじっくりと聴き、受け止め、共感する窓口であり、秘密は絶対を守る、名前は言わなくてよい、嫌だったら電話を切ってよいという、子どもの側に主導権がある、子ども専用電話です。1970年代にイギリスの民間団体が始めた運動で、日本では1998年に始まり、2000年1月「チャイルドライン支援センター」が発足。厚生労働省や文部科学省などの支援も受け、現在、全国44都道府県に広がっています。

福岡市の「もしもしキモチ」専務理事 兼 事務局長である三宅さんは、以前から他の親子活動の団体に加入していましたが、より具体的な問題に取り組みたいと考え、子どもたちが本当に考えていることを知り、それを社会に発信していく活動であるチャイルドラインの設立に関わるようになりました。勉強会やフォーラムで子どもに関心のある人を多く集め、専門家や有識者には個別に何度も呼びかけ、確実にネットワークを広げていくことが、子どもたちのため立場や思想の違いを越えて、「質の高い」組織をつくっていくには必要であると、経験を通して学んだそうです。



支援者とのコミュニケーション

キャッチャーが、電話対応における精神的な疲れやストレスを持ち帰らないように、必ずスタッフとの共有・振り返りの場を持って、その都度吐き出すことができるようにしています。



今後の課題と目標

インターネットの影響か、ここ数年、男の子の性に関する相談が多くなっているため、専門医の協力のもと、子どもの性指導の知識を学ぶ勉強会に力を入れています。



協働 聞く力、伝える力で、大人も成長していく

もしもしキモチでは、最近の子どもは他人に声を届ける力が低下しており、声を受け止める側のスキルアップや制度の充実とともに、子ども自身の「思いを伝える力」を育む必要があると感じています。現代におけるコミュニケーション力の低下は子どもに限らない現象であり、これまでのキャッチャー養成講座における知見と人材開発プログラムは、企業の管理職や、新人研修、また、ワークライフバランスを推進する企業の親向け講座にも活かせるのではないかと考えています。

全国のチャイルドラインとの合同研修や、福岡地域での子ども関連フォーラムにも積極的に参加しているため、現代の子どもたちの悩みや関心事、またいじめの実態などについては、最新かつ貴重なデータを持って発信しています。思春期の子どもたちに知っておいてもらいたいこと、子どもたちがなかなか大人に聞きにくい「こころのはなし」や「性のはなし」などの悩みを集めて制作した小冊子は、中学校や高校の保健室や相談室に置かれ、必要に応じて自由にコピーしてもらうなど、教育現場で活用されています。



▲ キャッチャー養成講座「思春期の性」



▲ 「子どもの虐待防止」キャンペーンに参加



▲ 「ことばを紡ぐ」ワークショップにおいてみんなでダンス



▲ 公開講座「福島の現状を知る」

”聞くこと“は実際はとても難しい。主体的に相手の気持ちを「キャッチ」できる力を、仕事や日常生活の人間関係に身に付けたいと思いました。



わたしが聞きました
オダラ ケンサク
永田 賢介
NPO 法人アカツキ
代表理事

団体から一言：子どもの声に耳を傾けて、ゆとりを持って話を聞いてあげてください。あなたの一言で子どもは救われます。



あふれる笑顔 伸びゆく個性 希望に輝く子ども達 !!

特定非営利活動法人

箱崎自由学舎 ESPERANZA

<http://www.esperanzahp.jp/>

主な活動エリア: 福岡市、糸島市二丈、海外(途上国)



この人に聞きました



小田 哲也 [代表]※

※学舎代表と法人代表＝理事長をわけて経営



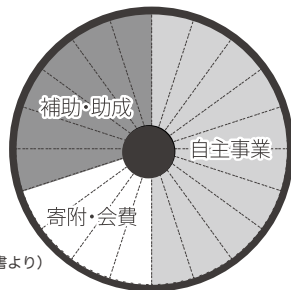
自分で考え行動できる、
いきいきとした若者を育てたい

「ESPERANZA」とはスペイン語で「夢」や「希望」のこと。主に中学生や高校生を対象に、さまざまな理由で学校に行けなくなったり、引きこもったりした子どもたちが、元気を取り戻し、自分らしさを発揮できるよう、生徒一人ひとりの考え方を尊重し、自主性を大切にした少人数制フリースクールを運営しています。勉強はもちろん、居場所をつくることや、さまざまな体験を通して夢を見つけ、それを実現する力を付けます。

また保護者に対しても、「教育相談」や「子育てを語る井戸端会議」を実施。一人ひとり違う子どもへの向き合い方を共有すること、決して特別なことではない、社会問題としての不登校への理解を深めることで、家族の不

特定非営利活動に係る収入

総額: 13,964 千円



安を減らし、他者との競争ではなく子どもの個性を活かす環境づくりに取り組んでいます。

ESPERANZAの教育は、学習指導だけでなく、自主性の育成も特徴です。月1度のCooking Dayのほか、ゲストティーチャーとの交流、アクティビティー(米づくり・陶芸・キャンプ)、ボランティア活動などを通して、子どもたちが幅広い視野や社会適応性を身に付けられるようにしています。

ここをチェック!

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2010年 5月 西日本新聞掲載
- 2010年 6月 毎日新聞掲載
- 2011年11月 西日本新聞掲載 他多数

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

200 万円 福岡県フリースクール
支援事業補助金

主な年間スケジュール

通年…… 通学キャンプ
年20回…… 野外アクティビティー
8月…… インターナショナルキャンプ
12月…… 地域餅つき大会

詳細はお問い合わせください。

物語 日本子どもたちが、 元気で輝けるために

設立から現在に至るまで団体の中核を担い続ける小田さんは、かつて私立高等学校教諭をしていましたが、年々生徒の自主性が減って、指示を待つようになってしまっていることに危機感を感じ退職。JICAで青年海外協力隊員・調査員として主に南米・中米等で国際協力活動に携わることになりました。

そのときに出会った子どもたちの目の輝きが、「自分や相手の“できないところ”ではなく、“いいところ”を見ているからだ!」ということに気付き、帰国後、多くの人たちに途上国の良さや日本人が忘れていているものを少しでも感じてもらうと、「国際協力及び世界に生きる日本人」などをテーマに、小学生から社会人までを対象にした講演会やワークショップを実施していました。

かつての同僚と、不登校の問題に取り組もうと話していた矢先、とあるサポート校がなくなるという話を聞き、そこに最後まで残った生徒や先生たちと相談し、一緒に福岡市東区にある一軒の民家を改装して、法人を設立。職員と生徒がともに学び合い、成長し合う日々を過ごしています。

支援者との コミュニケーション

Webサイト上で寄附者名簿や支援メッセージを掲載し、丁寧な情報開示を行っています。ボランティアの先生同士はシフト制で会う機会が少ないので、年2回の交流会を実施し、コミュニケーションを図っています。

今後の課題と目標

規模の拡大よりも、プログラムの充実に力を入れたいと思っています。先生が子どもたちと向き合う時間を多く確保するため、資金や事務体制整備の力を必要としています。

協働 子どもの可能性を信じ、 また子どもに信じられる教師として

一般的な民間企業や塾として運営される「フリースクール」と比べて、ESPERANZAの強みは「人」。いわゆるコンテンツやサービスとしてではなく、心の底から子どもたちのことを思っていることが強みであると考えています。そのため、時に厳しく子どもに嫌われることも厭わず、何があっても明るくそして温かく、ありのままの子どもたちを受け止め、相手の視点に立って動くことのできるスタッフしかここにはいません。

高等学校卒業資格を取得したい人には通信制高校に入学してもらい、ESPERANZAではレポート提出や生活指導も含め、一人ひとりに合わせた個別指導やサポートを実施。そのため、最後までESPERANZAに通った高校生は全員卒業資格を取得してそれぞれの道に進学。今でも年に数回、OB・OGとして顔を出す生徒も少なくありません。

また、団体の中核的なスタッフがさまざまなNPO関連のイベント出展に出向いたり、会議体に参加したりと、外部とのコミュニケーションや新規ステークホルダーの開拓にも積極的です。

団体から一言：心の元気を失った子どもたちが、元気を取り戻して日本を明るくするために、大人も真剣に、一緒に、楽しんでいる学舎です!!



▲ 箱崎に付む一軒家でフリースクールを営む



▲ 子ども本人だけでなく、親の負担や悩み解決の場「座談会」



▲ 農業体験などの課外授業も多い



▲ 海外スタディツアーでは子どもたちは多くの刺激を受ける

どんな質問を投げても即座に答えが返ってくるのは、いつも自分たちの使命や目的を明確に意識して働かれているからだなと感じました!



わたしが聞きました
オガラ ケンスケ
永田 賢介
NPO 法人アカツキ
代表理事



すべての子どもたちが豊かに成長するための環境づくり

特定非営利活動法人

福岡津屋崎子ども劇場

<http://www8.ocn.ne.jp/~ftkodomomo/>

主な活動エリア：福津市とその近郊



この人に聞きました



シモカワ ユミコ
下川 由美子【事務局長】



概要 全ての子どもに、優れた文化を通して、
自主性・創造性を育む

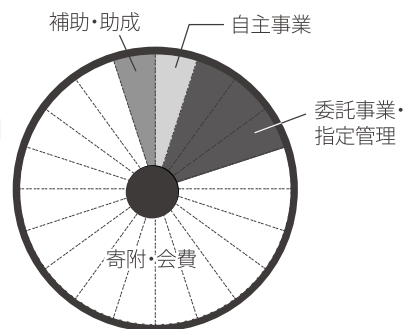
日本全国に広がる子ども劇場の活動では、子どもたちが心豊かに成長していくためには、文化・芸術・仲間・遊びが欠かせないとして、「親子で生の劇や音楽に出会う」「仲間とともに遊び、つくる」ことを2つの柱として大切にしています。

福岡津屋崎子ども劇場に関わる人の層は大きく分けて、大人会員、子ども会員、高校生・青年会員の3つがあり、それぞれ月1,300円の会費を支払って自主的に活動に参加しています。異年齢の人々との多様な活動を通し、さまざまな体験をすることで、子どもたちは勉強とは違うたくさんのことを学ぶとともに、感性が豊かになり、創造性が育まれます。

特定非営利活動に係る収入

総額：11,890 千円

(平成22年度活動計算書より)



地域の中で子育て・親育ちの場をつくるために、両親に対しては子育てサロンを開設し、絵本の読み聞かせグループや、メディアリテラシーを向上させる啓発事業を実施。子どもに対しては、キャンプなどで自然と触れ合う機会や異年齢の人たちと交流する機会を提供しており、絵画や太鼓・茶道・科学実験など、興味のある活動に子どもたち自身で取り組むサークルも存在しています。

ここをチェック！

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2008年「子育て支援シリーズ3 地域の子育て環境づくり (出版：ぎょうせい)」を当時代表理事・佐伯美保が一部執筆
- 2010年「子ども白書2010 (出版：草土文化)」を当時代表理事・佐伯美保が一部執筆

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

390 万円 福津市表現活動ドラマ
スクール事業

主な年間スケジュール

- 1年間5作品…生の舞台芸術鑑賞活動(年齢別)
- 7・8月…子どもキャンプ/親子ふれあいキャンプ
- 11月…子どもまつり
- 月3回(水)…子どもとメディア啓発活動

詳細はお問い合わせください。



福岡発、日本中に広がる「支え合い」の子育てコミュニティ

「子ども劇場」は、テレビが各家庭に普及していった1966年に、「全ての子どもに、優れた文化を通して、自主性・創造性を育む」ことを目的として福岡に誕生しました。文化芸術や遊びの体験を通して、子どもと大人がともに育ち合える地域をつくっていかうという活動は、市民・アーティスト・専門家らの手から手へ、親から子どもへと引き継がれ、現在は47都道府県600を超える地域までに広がり、福岡では、ここから生まれた他のNPO活動が多く存在します。

福岡津屋崎子ども劇場の現事務局長である下川さんは、自身の子育ての中で、「自分の子どもだけを大切にすることはなく、地域全体の子どもたちを視野に入れて“環境”を変えていかなければ、地域は良くならないのではないか」と考え、活動に参画しました。

最近では、若い母親が怖々参加してくることも少なくありません。地域社会の中に、警戒しなくてもいい開かれたコミュニティがあることが重要であり、自分が優しくしてもらった体験が、誰かに優しくすることにつながる、「お互い様」の精神を増やしていきたいと考えています。

支援者とのコミュニケーション

キャンプなどの企画・運営は、小さな子どもたちを見守る、中学生から若手社会人くらいまでの青年部が行っており、大人は要所以外口を出さず、信頼して見守ることに徹しています。

今後の課題と目標

地域の中で全員が必要とされるような、住みやすい福津のまちにしていき、また他の地域でも同じような取組ができるようにしていきたいです。



地域でつくり育む、立場と世代を越えたネットワーク

子どもたちをメディア漬けから守り、健やかに育てる予防活動として、乳幼児を持つ全ての保護者に対し、テレビやビデオの長時間接触の弊害と対策を伝える必要があると考え、自治体と連携し、受診率が9割を超える乳幼児健診時に啓発活動を実施。絵本型のオリジナルパンフレットを作成・活用し、ボランティアのスタッフが年間36回、180人体制で行っています。

2006年には日本たばこ産業株式会社のNPO助成を受け、メディアリテラシーを育むためのワークショップや講演会を実施しました。2007年度からは福津市青少年育成市民の会と連携し、市内の幼児・小学生を対象としたノーテレビ・ノーゲームチャレンジのプログラムを作成・実施するなど、地域でのメディアリテラシー向上と文化づくりにも貢献しています。

宮地嶽神社の鳥居のすぐそばにある、2階建ての一軒家を改築した事務所では、学校帰りの子どもや、小さな子ども連れの親が立ち寄ることのできる居場所づくりを行っています。また福岡中学校や福岡東中学校、津屋崎中学校と連携して、校内で子育てサロン「ポレポレ」「とことこ」「きさこ」を実施しており、母親同士がリラックスでき、そして中学生が乳幼児に触れ合うことのできる、家庭でも学校でもない“第3の場所”をつくっています。

団体から一言：自分たちだけの利益を求めるのではなく、みんなが幸せになる道を探していきたい。それが、子どもたちが豊かに成長する社会につながっていると思います。



▲ 小学生から青年の活動「大島ハイキング」



▲ 太鼓サークル



▲ お茶のサークル



▲ 古民家を改装した事務所

保育士資格を持っていて、大学時代メディアリテラシーの勉強もしていた自分にとっては、実践的活動に非常に共感するところが多かったです！



わたしが聞きました
オダラ ケンサク
永田 賢介
NPO 法人アカツキ
代表理事



OMOIYARI の心をもった地球市民となり、こども達の笑顔あふれる世界を実現

特定非営利活動法人

アジア太平洋こども会議・イン福岡

<http://www.apcc.gr.jp/>

主な活動エリア：福岡県



136人に聞きました



クラシグ カズオ
倉重 一男 [専務理事]

団体基礎データ

- 設立年: 1988年 (法人化2002年)
- 代表者: ^{アジア・ユタカ}麻生 泰 (理事長)
- 主たる事務所所在地:
福岡市中央区天神1-10-1
- 電話番号: 092-734-7700
- E-mail: info@apcc.gr.jp
- 職員: 常勤12名 / 非常勤2名
- 理事: 40~60代 (企業経営者)
- 会員: 約60人 (30~60代、企業経営者)
- 主要事業:
(1) アジア太平洋諸国・地域のこども達の交流促進に対する招聘事業
(2) アジア太平洋諸国・地域のこども達の交流促進への派遣事業



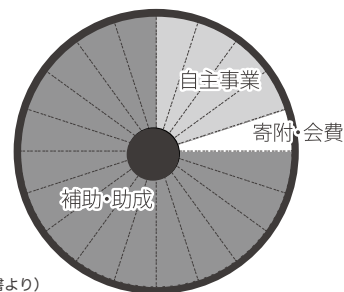
概要 福岡からアジア、世界に広がる 平和の架け橋

アジア太平洋こども会議・イン福岡 (通称: APCC) は、1989年の福岡市政100周年の際、「よかトピア」の参加事業としてスタートした、民間レベルでの草の根国際交流事業です。数多くの公的機関や企業、毎年500人を超える県・市民ボランティアの支援によって「こども会議」は開催されています。

毎年夏にアジア太平洋の40の国や地域から子どもたちを福岡に招き、春には小学4年生から中学3年生までの団員、高校生リーダーとなる子どもたちを福岡からアジア太平洋各地へ派遣。キャンプやホームステイ、学校登校などを体験させ、言葉や文化の違いを身をもって感じてもらうことで、異文化に対する理解を深め、世界に平

特定非営利活動に係る収入

総額: 131,393 千円



(平成22年度活動計算書より)

和の種を増やす「OMOIYARI」の気持ちを育んでいます。

2013年に設立25周年を迎えるにあたり、市民による映画づくりと、人材育成拠点づくり事業により、子どもたちに自然な形でグローバル対応の必要性や魅力に気付いてもらう機会をつくっていく予定です。

企業との連携においては、市の小学校での教育支援パイロット事業を実施。またイオン株式会社の協力により九州全域のイオン各店でオリジナルのWAONカードを発行しています。

ここをチェック!

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2011年度「ふくおか共助社会づくり表彰」地域貢献活動部門賞 受賞
- 2011年度「子ども若者育成・子育て支援功労者表彰」内閣府特命担当大臣表彰 受賞

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

5,500 万円 福岡市青少年交流事業「アジア太平洋こども会議」

主な年間スケジュール

通年…… 育成事業

通年…… ブリッジ事業

7月…… 招聘事業

3月…… 派遣事業

詳細はお問い合わせください。



無意味な遊びは有意義な体験になる

特定非営利活動法人

遊び塾ありギリス

<http://www.arigirisu.org/>

主な活動エリア：福岡市、糸島市を中心に九州各地



この人に聞きました



サクライ ミドリ
桜井 翠【事務局長】



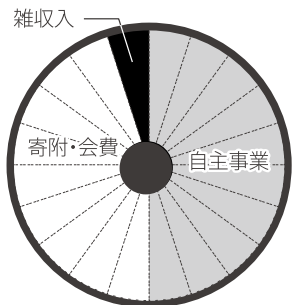
遊びこそ「教育」である

「5K（きつい・きけん・きたない・くだらない・お金をかけない）」を合言葉に、自然体験や地域間交流、国際交流を通して、感性豊かな人間に育てる青少年健全育成事業を行っています。好奇心や体験から生まれる創造性が子どもたちを成長させるものと考え、大人が明示的に遊びの方法を教えることはせず、子ども自身の試行錯誤や経験に基づいた成長を重視しています。

毎月、糸島市野北にある「森の自然体験学校」において野外活動を行っているほか、隔月で実施する「テーマ活動」では、九重や大山への登山、無人島でのキャンプ、四万十川や耳川での手づくりいかだの川下り、24時間鬼ごっこ、ヒッチハイクの旅など、日常では体験できない

特定非営利活動に係る収入

総額：1,335 千円



(平成22年度活動計算書より)

遊びを提供し、子どもたちの地域間交流を進めるとともに、社会性や自立(自律)を育てています。

歴史の長い団体で、以前から企業の協賛は多くあります。今後は、学生スタッフによる、子どもの遊び企画プレゼン大会の選考会場提供や、時間と人手のかかるキャンプ場の整備、また、中国の平原で実施する国際交流を兼ねたキャンプ「地球冒険隊」で必要となる当日の飲み物・GPS・医療用品の提供など、物資・技術での協力体制構築を検討しています。

ここをチェック！

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2000年 朝日のびのび教育賞 受賞
- 2008年 西日本新聞 掲載
- 子どもたちは「何でも食べられる。どこでも寝られる」ようになります！

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

200 万円 独立行政法人福祉医療機構(WAM)
「活動拠点(キャンプ場)の施設充実費」

主な年間スケジュール

毎月… NES:森と海の自然体験学校

隔月… テーマ活動

8月… 地球冒険隊

不定期… スタッフキャンプ

詳細はお問い合わせください。



「よい父親」ではなく「笑っている父親」を増やす

特定非営利活動法人

FJQ

<http://fjq.jp/>

主な活動エリア:九州全域



この人に関わった



ミヤハラ アヤトミ
宮原 礼智[代表理事]



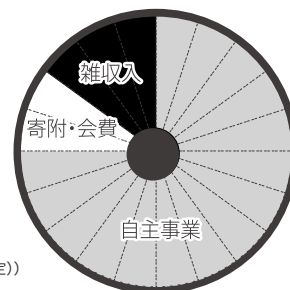
九州男児をイクメンに!

FJQ(ファザーリング・ジャパン九州)は、「よい父親」ではなく「笑っている父親」を増やすことを目的に活動を行っている「ファザーリング・ジャパン」の、全国に9つある関連団体の一つです。父親の働き方の見直し、企業の意識改革、社会不安の解消、次世代の育成が、10年後・20年後の日本社会に大きな変革をもたらすというミッションを掲げ活動しています。

父親支援情報満載のポータルサイトの運営やフリーマガジンの発行を通して、父親の育児への関わり方を提案。またソーシャルメディア・クラウドを取り入れることで仕事を効率化し、子育てに関わる時間を確保するノウハウを実践するとともに広げています。

特定非営利活動に係る収入

総額: 1,550 千円



(平成24年度活動計算書(予定))

このほか、博多阪急百貨店から依頼を受け、毎月第1・3・5土曜日に博多阪急百貨店7階の「子育てコミュニティルーム」において、パパの絵本の読み聞かせ講座や、ダンボールの秘密基地づくり、パパのマジック講座など、家族みんなで楽しめる「FJQワークショップ」を開催しています。企業との連携では、コラボにより実施する講座やワークライフ・バランスの社員研修等ができると思っています。

ここをチェック!

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2012年 テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」に代表・宮原家出演
- 2013年～ 毎日新聞に代表・宮原礼智がコラム連載

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

20万円 福岡県男女共同参画センター「あすばる」調査研究事業

主な年間スケジュール

- 随時 …… 父親料理教室
- 随時 …… パパの部活動
- 第1・3土 …… パパの絵本の読み聞かせ講座
- 第5土 …… FJQワークショップ

詳細はお問い合わせください。

本団体と企業による協働の取組の詳細は、「新しい協働のケース100～これからの社会活性化のヒント～」にも掲載されています。



子どもの参画と文化・芸術を通した豊かなコミュニティづくり

特定非営利活動法人

子ども文化コミュニティ

<http://www.kodomo-abc.org/>

主な活動エリア：福岡市、全国（ネットワーク）



この人にもあった



タカミヤ ユミコ
高宮 由美子【代表理事】

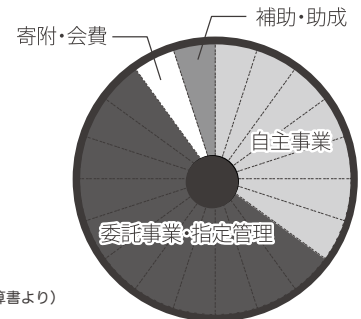


子どもたちが豊かに育つ環境をつくる

子どもの成長発達には、3つの関わり「人・自然・社会」と3つの要素「芸術・科学・あそび」が重要であると考え、遊びや表現活動などを楽しみながら成長していけるよう、子どもの年齢に合わせた文化・芸術企画を提供しています。40年の活動に基づく経験知や、東京大学、日本民間放送連盟、NTTコミュニケーション科学基礎研究所との共同研究、連携活動を通して、親子で楽しく参加できるプログラムの開発を行ったり、行政との協働事業を実施するなど、数多くの実績をつくってきました。子どもにとって身近な絵本をテーマに、さまざまな展示やイベントを通して親子と社会をつなぐ「おいでよ！絵本ミュージアム」の開催のほか、情報化社会における子どもの

特定非営利活動に係る収入

総額：22,110 千円



メディアリテラシー育成のためのワークショップなども行っています。

福岡市共働事業提案制度により実施している「はじめての芸術との出会い事業」は、福岡市文化振興課、福岡市文化芸術振興財団、アートサポートふくおかとの研究会をベースに取り組んでいます。また、子どもたちがまちの住民となって仕事をしたり、遊んだり、買い物をしたりする「子どもがつくるまち ミニふくおか」は、行政・企業・NPOの協働によって開催しました。

ここをチェック！

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

● 2009年「日本デザイン学会賞」代表・高宮由美子が共同受賞

● 2012年 ソロプチミスト日本財団「社会ボランティア賞」受賞

過去の助成・受託等実績（過去最大額のみ表示）

約 1,500 万円 福岡市「子どもがつくるまちミニふくおか」事業

主な年間スケジュール

通年…遊びと学びのコミュニティスクール

7月…おいでよ！絵本ミュージアム

8月…子どもがつくるまち「ミニふくおか」

9～3月…はじめての芸術との出会い事業

詳細はお問い合わせください。

本団体と企業による協働の取組の詳細は、「新しい協働のケース100～これからの社会活性化のヒント～」にも掲載されています。



ゆるやかに、確実に、いまできるスタートを

NPO法人

STEP・北九州

<http://www.step-kita.com/>

主な活動エリア: 北九州市とその近郊(山口県、中間市、直方市等)



この人に聞きました



田中 美穂 [理事]
北九州市ひきこもり地域支援センター
「すてっぷ」センター長



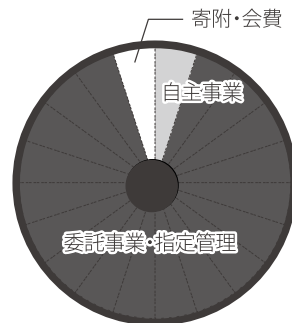
S…袖すり合うも T…他生の
E…縁 P…パーワメント

当初は不登校問題を考える団体としてスタートしましたが、相談を受けていく中で「学齢期を過ぎて行き場がない、活動をしたいけど家から出ることができない」という問題、いわゆる「社会的ひきこもり問題」に直面したことから、本格的にひきこもり問題と向き合い、金銭的關係とも血縁関係とも違う、「つながり」でサポートし合う活動を地域に生み出してきました。

2009年より北九州市から運営を受託した、ひきこもり地域支援センター「すてっぷ」において、当事者とその家族に対する電話や来所相談を受け付けているほか、事前の情報交換により必要と判断した場合には、当事者の了承を得た上で、支援相談員が自宅を訪問する訪問支

特定非営利活動に係る収入

総額: 7,716 千円



(平成 22 年度活動計算書より)

援事業を実施しています。

ホップ・ステップ・ジャンプの三段階の支援の中でも特に「ステップ」段階を重要と考え、フリースペースにおける交流、イラストや写真など趣味のグループ活動により、当事者同士の体験共有やコミュニケーションの機会をつくっています。

利用者の多くはパソコンの取り扱い技術に長けているため、今後は「ジャンプ」の部分として就労体験や人材活用にも力を入れたいと考えています。

ここをチェック！

広報ツール

Web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2010年度 内閣府「女性のチャレンジ賞特別部門賞」理事・田中美穂が受賞
- 2012年 嘉麻市社協だより「えがお」No.79 掲載

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

1,200 万円 北九州市ひきこもり地域支援センター「すてっぷ」運営委託

主な年間スケジュール

随時… 家族会／学習会
毎週火・木… フリースペース「やわらかカフェ」
年2回… 縁が輪ネットワーク(プロボノ)会議
8月… 市民向けシンポジウム

詳細はお問い合わせください。



子どもを真ん中に、地域で育て、育ち合う

特定非営利活動法人

チャイルドケアセンター

<http://npo-ccc.net/>

主な活動エリア: 大野城市



オオタニ キヨミ
大谷 清美 [代表理事]

概要

多様なニーズに合わせた 育児支援を

「大野城市で子育てしたい!」と思えるまちづくりを目指して、乳児期から学童期の子どもを持つ家庭のサポート、一時預かりなどの子育て支援事業を行っています。

1998年に創刊し、現在隔月で発行している南福岡エリア子育て情報誌「びい〜んずキッズ」を中心に、WebサイトやSNSも活用し、地域に密着した情報や身近な話題を提供することで、子育て中のお母さんたちを応援しています。

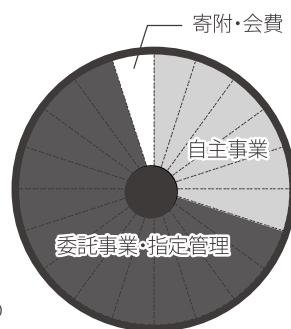
子育てサポート・家事援助サービス「あいさぽーと事業」では、集団託児や産前産後の家事援助、留守家庭への食事援助など多岐にわたる支援を展開。一般企業向けには、女性が安心して仕事に取り組めるよう、最適な

団体基礎データ

- 設立年: 1997年 (法人化2001年)
- 代表者: オオタニ キヨミ 大谷 清美 (代表理事)
- 主たる事務所所在地:
大野城市東大利2-5-20
- 電話番号: 092-502-8822
- E-mail: onojo@npo-ccc.net
- 職員: 常勤68名 / 非常勤70名
- 理事: 40~50代 (保育士、幼稚園教諭、保育園経営者)
- 会員: 約420人、10団体 (30~60代、主婦、会社員、学生、保育士、管理栄養士等)
- 主要事業: (1) 家事援助や一時預かり等の子育て支援に関する事業 (2) 育児支援についての情報誌の発行等の情報提供に関する事業

特定非営利活動に係る収入

総額: 27,796 千円



(平成 22 年度活動計算書より)

託児プランニングを提供するほか、子どもの一時預かりを行う店舗内託児ルームやキッズスペースの設置を行い、設計からおもちゃなどの備品の準備、人材派遣や運営にいたるまで、ニーズに合わせた支援を実施しています。

このほか、定期的にスタッフの養成講座や研修を行い、スタッフの育成にも力を入れています。

ここをチェック!

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2003年度「大野城市地域活動奨励賞」受賞
- 2012年度「福岡県市民教育賞」地域社会教育賞 代表・大谷清美受賞

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

5 億 3,226 万円 大野城市留守家庭児童保育所運営業務委託 (5年間)

主な年間スケジュール

- 年6回…子育て情報誌「びい〜んずキッズ」発行
- 年1回…大野城市 冒険あそび場(プレーパーク)
- 5~2月…子育てサークル事業
- 3~4月…小学校高学年長期休暇中児童クラブ(キートスクラブ)支援事業

詳細はお問い合わせください。



すべての子どもが「生まれてきてよかった」と心から感じられる人づくり・まちづくりを目指す

特定非営利活動法人

にじいる CAP

<http://www.niji-cap.html.tv/>

主な活動エリア: 福岡県、佐賀県



理事長 重永 侑紀



シグナガ ユキ
重永 侑紀【理事長】
NPO法人CAPセンター・JAPANTレーナー、
NPO法人子どもと保育研究所理事



子どもの「安心・自信・自由」を 基礎に置いたCAPスペシャリスト

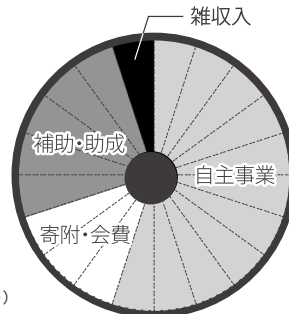
子どもへの暴力防止を通して、暴力のない社会の実現を目指し活動する団体です。子どもがあらゆる暴力から自分を守るように、子ども自身にその知識やスキルを提供し、大人には「子どもの人権」への理解を啓発しています。

CAPは「Child=こども Assault=暴力 Prevention=防止」の略。CAPプログラムはアメリカで開発されたものであり、既定の養成講座を終えるとCAPスペシャリストとして認定されます。日本に約2,000名の認定スペシャリストがいる中、にじいるCAPには40名が在籍しています。

CAPプログラムは「教職員」「保護者」「子ども(就学前・小学生・中学生)」それぞれを対象とした3つのワーク

特定非営利活動に係る収入

総額：6,583 千円



(平成 22 年度活動計算書より)

ショップで構成。地域でより効果を上げるために、段階を踏んで実施することが必要とされています。

福岡県や佐賀県内のさまざまな小・中学校で展開しており、学校現場で子どもと話す機会は年間約400回にものぼります。今後は地域展開を狙い、暴力防止や健全育成のまちづくり活動に重点を移すべく、行政職員向けのワークショップにも力を入れています。

ここをチェック！

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2011年西日本新聞コラム
「小さな胸の中に」連載(理事長)

過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)

300 万円 独立行政法人福祉医療機構(WAM) 助成

主な年間スケジュール

通年…依頼を受けて講演・ワークショップを実施
1～2月…子ども理解を深めるための連続講座

詳細はお問い合わせください。





福岡のアツい想いと被災地を繋ぐ

NPO 法人

福岡被災地前進支援

<http://fhs.diver-sion.com/>

主な活動エリア：宮城県南三陸町・福岡市・八女市



この人に聞きました



オオガミ コウタロウ
大神 弘太郎 [理事長]
スキューバダイビングインストラクター



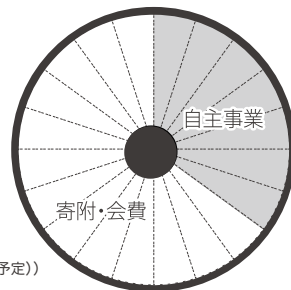
「楽しくなければボランティアじゃない」被災地での活動に主軸を

2011年3月11日の東日本大震災発生後、「福岡のアツい想いと被災地を繋ぐ」を理念に、災害復興支援のために設立しました。被災地での活動に重点を置き、宮城県南三陸町へは2ヶ月に1回・約1週間の、九州北部豪雨災害で被災した八女市へは1ヶ月に6回・日帰りでのボランティア派遣活動を実施しています。これまでの活動内容は、物資輸送や写真洗浄、被災地でのがれき撤去活動など、変化し続ける被災地のニーズに柔軟に対応しています。

「楽しくなければボランティアじゃない」をモットーに掲げていますが、その裏には「復興には長い時間が必要であり、ゆえに息の長い支援を続けるためには活動

特定非営利活動に係る収入

総額：2,485 千円



(平成24年度活動計算書(予定))

は楽しいものでなければならない」という思いがあります。単なる災害復興支援活動としてでなく、被災地の一人ひとりと真剣に向き合い、「〇〇さんのいる町だから助けになりたい」という思いで活動を行っており、被災地の方々と強く深い関係性を築いています。

ここをチェック！

広報ツール

web tw FB MM 広誌

連携などの実績

企業 行政 地域 教育 NPO

マネジメント

会基 税士

アピールポイント

- 2011年 TNC、RKB、KBCニュース 出演
- 2011年度「ふくおか共助社会づくり表彰」共助社会づくり奨励賞 受賞
- 2012年 西日本新聞、読売新聞、毎日新聞 掲載
- 過去の助成・受託等実績 (過去最大額のみ表示)
48 万円 東日本大震災活動支援事業

主な年間スケジュール

月6回… 九州北部豪雨災害支援ボランティア
隔月… 南三陸町被災地派遣

詳細はお問い合わせください。



物語 自分にできる最大限の支援を 福岡と被災地をつなぐ架け橋に

東日本大震災発生当時、大神さんは自身の夢であった世界一周旅行の最中でした。報道規制のない海外メディアで流れる被災地の衝撃的な映像に愕然とし、「今は自分の夢を追っている場合ではない」と帰国を決意しました。最初は単身で東北へ入り、自身のスキューバダイビングのスキルを活かした支援を考えましたが、震災の規模に対してそれではあまりにも微力すぎる、それよりも仲間を募り、自分が一番影響を与えることができるこの福岡を拠点に息の長い支援をしようという思いで、任意団体「福岡被災地前進支援」を設立しました。現在までに1,000人近い方から、物的・資金的・時間的支援を受けてきましたが、その多くは「自分にできることを何かしたい」と模索を続けてきた方々です。そういった多くの方の協力を得て、宮城県南三陸町へは、これまでに12回の派遣活動を実施。福岡のアツい想いと被災地をつなぎ、「今できること」だけでなく「これからやりたいこと」を東北の皆さんと実現するため、中・長期的な活動ができる団体を目指しています。

支援者との コミュニケーション

活動の趣旨に賛同して、心から「この団体で、楽しみながらやるべきことをやりたい」と思って来てもらえる活動づくりを目指しています。

今後の課題と目標

活動の軸を災害救援1本に絞り、そこから派生する5年後を見越した活動を行っていきます。具体的には、南三陸町と八女市に1本ずつ、メインとなる活動を置くことを考えています。



協働 安全管理ノウハウと被災地での強い関係性で、 より質の高いCSR活動を

福岡被災地前進支援の強みは大きく分けて2つあります。1つ目は被災地における安全管理ノウハウです。被災地での活動に重点を置いているからこそ、その経験に根差した安全管理が可能となります。雑誌「NO!! (エヌオー)」を発行する、有限会社エヌオー出版からの要請により、被災地へボランティアに入る際のアドバイスを寄稿する等の実績もあります。2つ目はこれまで時間をかけて築いてきた被災地との関係性です。企業や大学が大人数で被災地へボランティアに入る場合、どうしても単純作業に終始してしまいがちですが、福岡被災地前進支援がコーディネートに入ることにより、被災地での交流もでき、ボランティア参加者にとってはより学びの多い活動を行うことが、被災者にとってはよりニーズに寄り添った質の高い支援活動を受けることが可能となります。

現在は、有限会社D1ケミカルやプルデンシャル生命株式会社、JAIFAから資金的サポートを受けるほか、レクシスネクシス・ジャパン株式会社からは社員が写真洗浄ボランティアに参加するなど、積極的な支援を受けています。

団体から一言： マイナスなこともプラスに捉える考え方をしてください。企業の利益、果ては世の中全体を良くすることにつながるはずです。



▲ 南三陸町にて。震災支援を通してつながった絆はますます強く



▲ 南三陸町での復興支援作業の風景



▲ 福岡市内で行う街頭募金活動



▲ 福岡で震災支援を行う団体が垣根を越え開催する「3.11虹のひろば」

取材中も、何人もの下校中の小学生が「おにいちゃん！」と扉を開けて遊びにやってくるような、温かい雰囲気の仕事所でした！



わたしが聞きました

ナカガハ アスミ
中里 明日香
フリーデザイナー・イラストレーター「スカイハイツオーケストラ」



おわりに

「補償的社会貢献から、新たな価値創造の時代へ」

「CSV(Creating Shared Value)」という言葉をご存知でしょうか。日本語では「共有価値創造」と訳され、ハーバード・ビジネス・スクールのマイケル・E・ポーター(Michael E. Porter)教授が、米ハーバードビジネスレビュー誌の2011年1月・2月合併号に発表した共著の論文『共通価値の戦略』で、「CSV」の概念を明確化し、同誌の最も優れた論文に与えられるマッキンゼー賞を受賞しました。

ポーター氏は、企業のCSRを「贖罪」や「保険」としてではなく、むしろ、積極的に本業を活かした社会貢献を検討することで、自社の事業と社会との接点を見つめ直し、新たに持続可能なビジネスモデルを構築することができる。つまり、社会性と経済性の両立ということをCSVのコンセプトとしています。

また、社会との共有価値を創出する方法を、「製品と市場を見直す」「バリューチェーンの生産性を再定義する」「事業を営む地域に産業クラスターを開発する」の3つであるとしており、国内でも既に、日立製作所、ソニー、GE、ネスレ、ユニリーバなどが企業経営にCSVの考え方を取り入れています。

本冊子をご提案する【企業とNPOの連携・協働】は、あくまでも福岡という地域の活性化と、そこに住む市民一人ひとりの暮らしを向上させていくための「手段」ですが、異なる文化背景を持つ組織間でのコミュニケーションは、「共有価値の創造」の最初の一步として、きっと意義深い取組になるでしょう。今後地域社会を牽引されるであろうCSVリーダーシップ企業の皆様には、ぜひ本冊子をご活用いただければ幸いに存じます。

NPO法人 アカツキ
代表理事 永田賢介

CSRとCSVの違い

CSR Corporate Social Responsibility	CSV Creating Shared Value
▶ 価値は「善行」	▶ 価値はコストと比較した経済的便益と社会的便益
▶ シチズンシップ、フィランソピー、持続可能性	▶ 企業と地域社会が共同で価値を創出
▶ 任意、あるいは外圧によって	▶ 競争に不可欠
▶ 利益の最大化とは別物	▶ 利益の最大化に不可欠
▶ テーマは、外部の報告書や個人の嗜好によって決まる	▶ テーマは企業ごとに異なり、内発的である
▶ 企業の業績やCSR予算の制限を受ける	▶ 企業の予算全体を再編成する
▶ たとえば、フェア・トレードで購入する	▶ たとえば、調達方法を変えることで品質と収穫量を向上させる
いずれの場合も、法律および倫理基準の遵守と、企業活動からの害悪の削減が想定される	

出所：マイケル・E・ポーター、マーク・R・クラマー、『共通価値の戦略』、DIAMOND/ハーバード・ビジネス・レビュー2011年6月号

マイケル・ポーター

アメリカ合衆国の経営学者。学位は経済学博士(ハーバード大学・1973年)。ハーバード大学経営大学院教授。アメリカを中心に世界各地で多くの国や州の政府、および企業の戦略アドバイザーを務め、「ファイブフォース分析」や「バリュー・チェーン」など数多くの競争戦略手法を提唱した。

ふくおかNPO50 ～CSRパートナーカタログ～

平成25年3月発行

〈発行〉福岡県NPO・ボランティアセンター（福岡県新社会推進部社会活動推進課）

- 住所：〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎5F
- TEL:092-631-4411 ● FAX:092-631-4413
- Email:nvc@pref.fukuoka.lg.jp ● URL:http://www.nvc.pref.fukuoka.lg.jp/
- 開館時間：月曜日～金曜日 9:00～20:00 / 日曜日及び祝日 9:00～17:00
- 閉館日：土曜日・年末年始（12/29～1/3）
- アクセス：JR「吉塚駅」より徒歩約3分
 西鉄バス「吉塚駅前」バス停より徒歩約3分
 福岡市営地下鉄「馬出九大病院前」より徒歩約10分
- 〈企画・編集・取材〉NPO法人アカツキ
- 〈制作〉せりたPR企画
- 〈イラスト〉スカイハイツオーケストラ

「ふくおかNPO50 ～CSRパートナーカタログ～」は、NPO法人アカツキと福岡県NPO・ボランティアセンターが協働で制作しています。

福岡県NPO・ボランティアセンターでは、NPO法人の認証・認定、NPO・ボランティアの皆さんの活動に役立つ設備提供や各種相談に対応するなどの活動支援を行っています。
また、NPO・ボランティアと企業や行政との協働やネットワークづくりを進め、新しい共助社会の実現に努めます。

本冊子の一部あるいは全部を無断で複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。



福岡県行政資料	
分類記号 JA	所属コード 4300100
登録年度 24	登録番号 0002

